

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol. 16 2004年度



The Board of Education in Oita City 2005

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol. 16 2004年度

The Board of Education in Oita City 2005

序 文

本書は、平成16年度に大分市教育委員会が実施しました埋蔵文化財発掘調査の概要を収録したものです。

本年度は平成17年1月1日の野津原町・佐賀関町との合併により新たな大分市が誕生するという、記念すべき年となりました。新たな体制のもとで、これからも「心かよい 緑あふれる躍動都市」の実現に向け、まちづくりを推進していく所存です。文化財保護行政におきましても、両町の指定文化財が新たに加わり、改めて大分市指定文化財として登録を行う等合併に伴って対象とする文化財が増加することになりました。

そのような中、城原里遺跡などの調査が前年度に引き続き行なわれ、また新たに丹生川坂ノ市条里遺跡の調査が開始されました。このように新たに発見される文化財を広く市民の皆様に知っていただくため、海部古墳資料館にて「タイムトラベラー2004 みて・きいて・かんじる大分の歴史」を開催し、横尾遺跡で出土した約7500年前の加工部材などを展示いたしました。また、9月から10月にかけて開催した大友氏遺跡関連フェスタにおきましては、大分市美術館・大分市歴史資料館と連携して史跡探訪などの行事を行い、好評を博しました。今後もこうした普及活動に取り組んでいきたい、と考えております。

さて、平成13年度に大友氏館跡が国史跡指定となり、その後の調査によって大友氏館の変遷や中世大友府内町の構造が確実に解明されつつあります。この成果からわが国有数の中世都市遺跡として高く評価され、昨年度は大友氏の菩提寺である万寿寺跡も国指定史跡に追加指定されました。また、学識経験者、市民からなる「大友氏遺跡を活かしたまちづくり検討委員会」も新たに設立されました。県都・大分市の顔として市民の皆様とともに、歴史を活かしたまちづくりの実現に努めていきたいと思います。

最後になりましたが、本書が市民の皆様、関係各位に広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しましても一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成17年12月28日

大分市教育委員会

教育長 秦 政 博

例 言

- 1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成16年4月1日から平成17年3月31日の間に行った埋蔵文化財に関する事業内容についてまとめた年報である。
- 2. 平成16年度における調査地点は表2及び第3図に示している。
- 3. 本書の執筆は、各調査担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
- 4. 第Ⅳ章受領図書目録は、平成16年4月1日から平成17年3月31日の間に大分市教育委員会に受贈された書籍等を掲載した。
- 5. 第Ⅳ章受領図書目録の作成は、平野尚子・浜中美枝(大分市教育委員会文化財課臨時職員)、及び古川匠による。
- 6. 遺構・遺物の実測及び図版の作成等については、次に記す大分市教育委員会臨時職員の協力を得た。

秋吉 早苗	小山田裕子	岡田 美紀	吉村 香織
溝部 尚子	黒田きくみ	今村 信子	佐倉めぐみ
佐田 智子	佐藤 花絵	小野千恵美	松場 泉
植田 高夫	西村 大	西田 裕子	川筋智栄子
川原 顕子	村上 友美	竹中江里子	中山 光歩
堤 美智代	日野 広	稗田 智美	平田美智子
牧 かすい	本田理恵子	野地川賢二	
- 7. 本文中に掲載した現場写真は各担当者が撮影したものである。
- 8. 本書の編集・校正は、古川及び各調査担当者が行った。
- 9. 大友氏関連遺跡の調査・名称については、その構成要素である町屋部分を「中世大友府内町跡」とし、これに「大友氏館跡」を加えた遺跡総体を「中世大友城下町跡」と呼称する。
(略記号：「中世大友府内町跡」－[町]、「大友氏館跡」－[館])
また、本書に掲載される遺構番号は、以下の要領で理解される。

館	14	SB	030
遺跡名	調査次数	遺構種別	遺構番号

目 次

第Ⅰ章	大分市教育委員会教育総務部文化財課概要	1
	1 沿革	1
	2 組織	1
	3 大分市文化財保護審議会	2
第Ⅱ章	平成16年度事業概要	3
	1 開発事前審査事業	3
	(1) 平成16(2004)年度の概要	3
	2 発掘調査事業	5
	3 教育普及活動	11
	(1) 大分市文化財だより2004年号の発行	11
	(2) 現地説明会	11
	(3) 体験発掘	11
	(4) 研修参加	11
	(5) 新指定文化財	11
	(6) 野津原・佐賀関町域所在の指定文化財	12
	4 海部古墳資料館	12
	(1) 特別展	12
	(2) 入館者数	13
	5 大友氏関連遺跡フェスタ	13
	(1) 大友館跡現地説明会	13
	(2) 上野史跡探訪	13
	(3) 北部九州中近世城郭研究大会シンポジウム	13
第Ⅲ章	発掘調査の概要	14
	I. 大友氏館跡第14次調査	14
	II. 大友氏館跡第15次調査	16
	III. 中世大友府内町跡第25-5次調査	18
	IV. 中世大友府内町跡第25-6次調査	19
	V. 中世大友府内町跡第27次調査	21
	VI. 中世大友府内町跡第33-2次調査	25
	VII. 中世大友府内町跡第44・44-2次調査	27
	VIII. 中世大友府内町跡第45次調査	29
	IX. 中世大友府内町跡第46次調査	31
	X. 中世大友府内町跡第47次調査	33
	XI. 中世大友府内町跡第50次調査	35
	XII. 上野遺跡群(上野廃寺跡第2次調査)	36
	XIII. 大道遺跡群第7次調査	41
	XIV. 大道遺跡群第8次調査	42
	XV. 玉沢地区条里跡第9次調査	44
	XVI. 宮苑井ノ口遺跡第2次調査	46
	XVII. 横尾遺跡第92次調査	48
	XVIII. 横尾遺跡第93次調査	52
	XIX. 横尾遺跡第96次調査	56
	XX. 横尾遺跡第97次調査	57
	XXI. 横尾遺跡第98次調査	58
	XXII. 丹生川坂ノ市条里跡(第1地点)	59

XXX. 丹生川坂ノ市条里跡(第2地点)	60
XXX. 丹生川坂ノ市条里跡(第3地点)	61
XXX. 城原・里遺跡第8次調査	62
第IV章 受領図書目録	66
1 調査報告書	66
2 定期刊行物・図録等	87
挿 図 目 次	
第1図 地域区分図	3
第2図 調査遺跡位置図	7
第3図 文化財だより表紙	11
第4図 体験発掘風景(横尾遺跡)	11
第5図 海部古墳資料館特別展	12
大友氏館跡第14次調査	
第6図 調査地点位置図	14
第7図 第14次調査区遺構配置図(1/100)	15
第8図 調査区全景(東より)	15
第9図 館14SX001①遺物出土状況(北より)	15
大友氏館跡第15次調査	
第10図 調査地点位置図	16
第11図 第15次調査区遺構配置図(1/100)	17
第12図 調査区全景(南より)	17
第13図 館15SE018土層(北より)	17
中世大友府内町跡第25－5次調査	
第14図 調査地点位置図	18
第15図 調査区全景	18
第16図 土層観察時(北より)	18
第17図 遺構配置図・土層分布図	18
中世大友府内町跡第25－6次調査	
第18図 調査地点位置図	19
第19図 遺構配置図(1/?)	20
中世大友府内町跡第27次調査	
第20図 調査地点位置図	21
第21図 遺構配置図	22
第22図 SX144出土状況	23
第23図 C区 南壁土層	23
中世大友府内町跡第33－2次調査	
第24図 調査地点位置図	25
第25図 調査区周辺遠景	25
第26図 調査区周辺遠景(その2)	25
第27図 調査区全景(空中写真)	26
第28図 33SD010全景	26
第29図 遺構配置図(1/200)	26
中世大友府内町跡第44・44－2次調査	
第30図 調査地点位置図	27
第31図 遺構配置図	28
中世大友府内町跡45次調査	
第32図 調査地点位置図	29
第33図 調査区全景(空中写真)	30

第34図	埋藏遺構詳細	30
第35図	遺構配置図(1/200)	30
中世大友府内町跡第46次調査		
第36図	調査地点位置図	31
第37図	町46SX010検出状況(西より)	32
第38図	南北トレンチ遺構検出状況(北より)	32
第39図	町46SF001土層観察状況(西より)	32
第40図	第46次調査区遺構配置図(1/200)	32
中世大友府内町跡第47次調査		
第41図	調査地点位置図	33
第42図	復原想定図より	34
第43図	遺構配置図(1/200)	34
第44図	調査区全景	34
第45図	調査区全景(その2)	34
第46図	47SK005遺物出土状況	34
第47図	47SX015遺物出土状況	34
中世大友府内町跡第50次調査		
第48図	調査地点位置図	35
第49図	復原想定図	35
第50図	遺構配置図(S=1/40)	35
第51図	調査区全景	35
第52図	調査区土層写真	35
上野遺跡群(上野廃寺跡2次調査)		
第53図	調査地点位置図	36
第54図	調査区全景(北側より)	36
第55図	南北方向土層断面	36
第56図	第1トレンチ南壁土層断面	36
第57図	調査区位置図(1/2000)	37
第58図	遺構配置図(1/200)	38
第59図	調査区平面図(1/100)	39
第60図	1トレンチ南壁土層図(1/30)	39
第61図	南北方向版築状遺構土層図(1/30)	39
第62図	出土遺物実測図(1/3)	40
第63図	2トレンチ遺物出土状況(西より)	40
第64図	軒平瓦出土状況(西より)	40
大道遺跡群第7次調査		
第65図	調査地点位置図	41
第66図	調査区全景(東側より)	41
第67図	遺物出土状況	41
大道遺跡群第8次調査		
第68図	調査地点位置図	42
第69図	調査区全景(東側より)	42
第70図	S001検出状況(西側より)	42
第71図	大道8次調査遺構配置図(1/200)	43
玉沢地区条里跡第9次調査		
第72図	調査地点位置図	44
第73図	調査区全景空中写真(西から)	45
第74図	最下層鼠返し出土状況(東から)	45

第75図	大畦畔検出状況(東から)	45
第76図	SH010遺物出土状況(東から)	45
第77図	遺構配置図	45
宮苑井ノ口遺跡第2次調査		
第78図	調査地点位置図	46
第79図	第Ⅰ調査区1号甕棺墓(東方向より)	46
第80図	第Ⅰ調査区集落部分遺構配置図(1/250)	47
横尾遺跡第92次調査		
第81図	調査地点位置図	48
第82図	第1検出面遺構略測図	48
第83図	第2検出面遺構略測図	49
第84図	92SX088出土墨書土器実測図(1/3)	49
第85図	92SX137遺物出土状況(東より)	49
第86図	92SX137出土遺物実測図(1/3)	50
第87図	92SD008石列検出状況(南より)	50
第88図	92SA015検出全景(北より)	51
横尾遺跡第93次調査		
第89図	調査地点位置図	52
第90図	出土遺物実測図(1/4)	54
第91図	第1・2遺構面略測図(1/400)	55
第92図	第3遺構面略測図(1/400)	55
横尾遺跡第96次調査		
第93図	調査地点位置図	56
第94図	遺構平面図(1/200)	56
第95図	SX006出土肥前系陶器碗(1/3)	56
横尾遺跡第97次調査		
第96図	調査地点位置図	57
第97図	遺構平面図(1/300)	57
横尾遺跡第98次調査		
第98図	調査地点位置図	58
第99図	遺構略測図(1/200)	58
丹生川坂ノ市条里跡(第1地点)		
第100図	調査地点(1/50000)	59
第101図	遺構配置図(1/400)	59
第102図	遺跡全体図(真上)	59
第103図	土器一括廃棄状況	59
丹生川坂ノ市条里跡(第2地点)		
第104図	調査地点(1/50000)	60
第105図	遺構配置図(1/300)	60
第106図	調査区全体(真上)	60
第107図	SP016 柱木出土状況	60
丹生川坂ノ市条里跡(第3地点)		
第108図	調査地点(1/50000)	61
第109図	遺構配置図(1/300)	61
第110図	遺跡遠景(西より)	61
第111図	埋甕(S000)出土状況(東より)	61
城原・里遺跡第8次調査		
第112図	調査地点位置図	62

第113図	第5・7・8次調査遺構平面図	63
第114図	遺跡全景合成写真(上が北)	64
第115図	SB002検出状況(北から)	64
第116図	SB024(南から)	64
第117図	SB027・028・033(南から)	64
第118図	掘立柱建物跡一覧表	65
第119図	出土遺物実測図	65

第1章 大分市教育委員会文化財課概要

1. 沿革

昭和51年4月1日	大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
昭和59年6月28日	大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
平成5年4月1日	大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
平成10年4月1日	大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
平成12年4月1日	大分市教育委員会文化財課に改組
平成13年4月1日	大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組

2. 組織

課長	足立昌人										
	課長 佐藤功 (平成17年度～)										
参事	玉永光洋										
	課長補佐兼文化財係長 讃岐和夫										
管理係	管理係長 久多羅岐明										
	管理係長 安東時男 (平成17年度～)										
主査	主査 平野勝敏										
	指導主事 姫野公徳										
主任	主任 桑原博之										
	主任 栗田成一										
主事	主事 加藤キヌ (主任)										
	指導主事 後藤典幸										
専門員	専門員 塔鼻光司										
	専門員 坪根伸也										
主任技師	主任技師 池邊千太郎										
	主任技師 塩地潤一										
主任技師	主任技師 高畠一豊										
	主任技師 河野史郎										
技師	技師 中武尚大										
	主事 永松正道										
主事	主事 佐藤道文										
	主事 五十川雄也										
主事	主事 古川匠 (主事)										
	嘱託 荻岩幸二										
嘱託	嘱託 梅木信宏										
	嘱託 羽田野裕之										
嘱託	嘱託 秦さとみ										
	嘱託 大野瑞恵										
嘱託	嘱託 松竹智之										
	嘱託 衛藤亮介										
嘱託	嘱託 山本哲也										
	嘱託 山森晃司										
嘱託	嘱託 服部真和										
	嘱託 仲矢咲紀 (平成17年度～)										
嘱託	嘱託 松田幸之助 (平成17年度～)										
参事兼館長	木村幾多郎										
	課長補佐兼副館長 主査 広岡道代										
主査	主査 安部雅夫										
	主査 武富弘通										
指導主事	指導主事 藤沢敏夫										
	指導主事 甲斐猛弘										
指導主事	指導主事 佐藤充修										
	研修教諭 高志賀良史 (平成17年度～)										
研修教諭	研修教諭 堤昌司										
	嘱託 三田村昌美										
嘱託	嘱託 古瀬美鈴										
	嘱託 佐藤あや										
嘱託	嘱託 勝間田										
	嘱託 寺田										
嘱託	嘱託 藤孝則										
	嘱託 田宮淳也										
嘱託	嘱託 上野史聡										
	嘱託 小住尾史穂										
嘱託	嘱託 松谷村貴子										
	嘱託 荻奥町田昭宏										
嘱託	嘱託 梅井あけみ										
	嘱託 井野久恵 (平成17年度～)										
嘱託	嘱託 若古善満 (平成17年度～)										
	嘱託 古田陽 (平成17年度～)										

※ () 内は平成17年度

大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1) 文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2) 文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3) 文化財保護審議会に関すること。
- (4) 歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

3. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成17年4月1日現在）

【氏 名】	【勤務先・職名】	【担当】
北 野 隆	熊本大学・教授（会長）	建 造 物
豊 田 寛 三	大分大学・教授（副会長）	近 世
下 村 智	別府大学・教授	考古埋蔵
西別府 元 日	広島大学文学部・助教授	古 代
鹿 毛 敏 夫	新居浜工業高等専門学校・助教授	中 世
宗 像 健 一	大分市美術館・顧問	美 術
吉 田 稔	王子中学校・元校長	植 物
渡 辺 文 雄	大分県立歴史博物館・副館長	工 芸
段 上 達 雄	別府大学・教授	民 俗
渡 部 ひろ美	大分県立大分南高等学校・教諭	動 物

大分市文化財保護審議会条例（平成11年12月15日条例第42号）

- (設 置)
- 第1条 文化財保護法（昭和25年法律第214号）第190条第1項の規定に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という。）を置く。(平17条例13・一部改正)
- (組 織)
- 第2条 審議会は、委員10人以内をもつて組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。
- (任 期)
- 第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 委員は、再任を妨げない。
- (会長及び副会長)
- 第4条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。
- 2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- (会 議)
- 第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長がその議長となる。
- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。
- (部 会)
- 第6条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。
- (庶 務)
- 第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。
- (委 任)
- 第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。
(大分市文化財調査委員会条例の廃止)
- 2 大分市文化財調査委員会条例（昭和51年大分市条例第4号）は、廃止する。
附 則（平成17年条例第13号）
この条例は、平成17年4月1日から施行する。

第Ⅱ章 平成16年度事業概要

1. 開発事前審査事業

(1) 平成16（2004）年度の概要

表1は平成16年度における開発申請内容を示したものである。

平成16年度の申請総面積は657,327.98、総申請件数88件を数える。

その内訳は、開発計画事前審査申請4件、開発行為事前協議申請55件、宅地造成工事前協議申請12件、土地売買等の届出13件、碎石法第33条の6に基づく意見の聴取等2件、市街化調整区域における大規模開発について1件、納骨堂経営許可に関する事前審査願い1件である。また、本年度は開発行為事前審査申請、大規模土地取引事前指導申請について昨年度に引き続き申請件数が0件であった。

これを平成15年度の申請内容と比較すると、総件数では約20%の減少がみられる。これは開発に直接結びつく開発行為事前協議申請、土地区画整理事業事前協議申請が減少したことが主な原因と考えられる。

次に、数年来減少傾向にあった申請面積は、昨年、大規模土地取引や鉱業権関連の申請により一時的に増加したが、本年度は減少となった。植田地区は約1.8倍、大在地区は3.9倍の増加を見たものの、昨年鉱業権関連の申請があった坂ノ市地区は約0.4%に減少しており、大分地区は約16%、鶴崎地区は6.5%、と軒並み減少している。これは、組合施行の区画整理事業や、碎石法や鉱業権関連の申請面積が昨年と比べ大きく減少したためであるが、これらは一過性のものと考えられる。

申請エリアに関しては、昨年坂ノ市地区(G)が全体の7割を占め、他地区ではほぼ平均されていたが、本年度は植田地区(B)に4割が集中しており、大南地区(C)、大在地区(F)とつづく。また、鉱業家権関連の申請が行われなかった坂ノ市地区(G)では大きく減少した、特に実質的な開発申請である開発事前協議等は大大市街地区の他、ほぼ、平均しており、これは、今後の大分市全域で発掘調査件数の増加の要因になると考えられる。

本年の特徴としては、前述のとおり申請面積が激減したことがあげられる。前年比で10%以下に減少している。ただし、これは昨年に比べ、鉱業権関連で広大な面積が減少されたためであり、来年度以降このような状況をみせるとは考えられない。また、開発行為事前協議等の面積は減少傾向であり、小規模の開発が今後どう推移してくか注目したい。

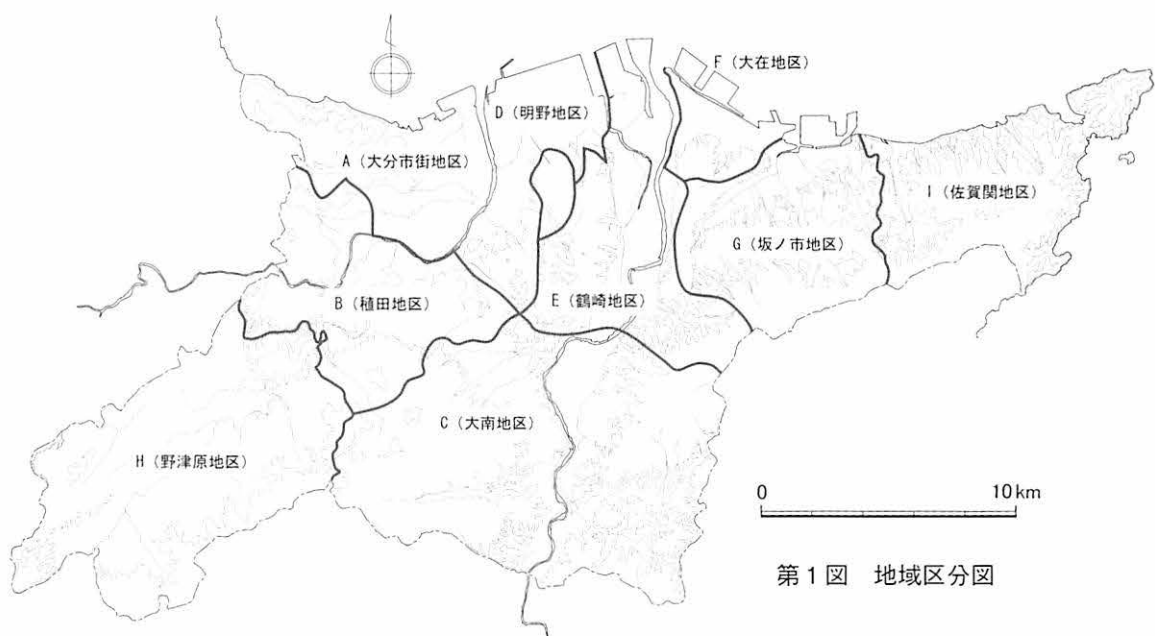


表 1 開発事前審査件数一覧

地 区 名	A－大分市街地区	B－檜田地区	C－大南地区	D－明野地区	E－鶴崎地区	F－大在地区	G－坂ノ市地区	合 計
【開発計画事前審査申請】								
件数	2	0	0	0	1	1	0	4
面積（㎡）	15,135.15	0	0	0	9,418.10	34,833.2	0	59,386.45
【開発行為事前審査申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積（㎡）	0	0	0	0	0	0	0	0
【開発行為事前協議申請】								
件数	14	8	8	3	12	8	2	55
面積（㎡）	32,551.19	9,231.20	17,883.10	6,265.99	23,083.90	12,030.48	2,957.50	104,003.36
【開発行為変更事前協議申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積（㎡）	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【大規模土地取引事前指導申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積（㎡）	0	0	0	0	0	0	0	0
【宅地造成工事事前協議申請】								
件数	3	4	2	1	2	0	0	12
面積（㎡）	7,026.01	1,790.31	1,073.09	994.91	1,711.72	0	0	12,596.04
【都市計画法32条協議申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積（㎡）	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【土地売買等の届出】								
件数	4	1	1	2	1	4	0	13
面積（㎡）	21,713.49	2,918.78	13,424	15,085.21	2,411.62	56,339.00	0	111,892.10
【墓地経営に関する事前審査】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積（㎡）	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【土地区画整理事業事前協議申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積（㎡）	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【碎石法第33条の6に基づく意見の聴取等】								
件数	0	1	1	0	0	0	0	2
面積（㎡）	0	158,511	111,741	0	0	0	0	270,252.00
【鉱業権の出願に関する協議】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積（㎡）	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【公共施設の設置計画等協議】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積（㎡）	0	0	0	0	0	0	0	0.00
【市街化調整区域における大規模開発について】								
件数	0	1	0	0	0	0	0	1
面積（㎡）	0	98,828.88	0	0	0	0	0	98,828.88
【納骨堂経営許可事前審査願いについて】								
件数	0	0	0	0	0	1	0	1
面積（㎡）	0	0	0	0	0	369.15	0	369.15
【総合計】								
件数	23	15	12	6	16	14	2	88
件数比	26%	14%	6%	7%	18%	16%	2%	100%
面積（㎡）	76,425.84	271,280.17	144,121.19	22,346.11	36,625.34	103,571.83	2,957.50	657,327.98
面積比	12%	41%	22%	3%	6%	16%	0.45%	100%

2. 発掘調査事業

(旧石器時代)

本年度は旧石器時代の本格的な遺跡調査はなかった。他の遺跡からの石器などの出土品もほとんどない。

(縄文時代)

昨年度に引き続き横尾遺跡の確認調査を行っている。縄文時代の遺構は第93次調査区で確認された。縄文時代前期前葉頃に比定される層からは、第87次調査区で検出された小規模貝塚の一部と、土坑を数基確認した。縄文時代後期前葉頃から古代に比定される層からは土坑墓を2基、竪穴状遺構2基、土坑数基が発見された。土坑墓の年代が不明確であるため、今後放射性炭素年代測定法による出土人骨の測定を予定している。

丹生川坂ノ市条里跡第3地点より、下黒野式（縄文時代晩期末～弥生時代早期）の埋甕が2基出土し、埋甕の下位には時期比定が困難であるが包含層の存在が確認されている。今後の調査によって、縄文時代の遺構が発見される可能性がある。（古川）

(弥生時代)

弥生時代の調査は市内2箇所で行われた。

宮苑井ノ口遺跡第2次調査では、中期初頭から終末にかけての竪穴建物跡・水田跡、甕棺墓（終末期のものが1基）が検出された。限られた範囲で生活・生産遺構が同時に検出できたことは、非常に有意義である。近年調査された賀来西遺跡の調査とともに注目されるであろう。

丹生川坂ノ市条里跡では、後期後葉の溝跡（灌漑水路か）・土坑などを検出した。溝跡は自然流路と接しており、その接点付近では、土器を一括廃棄している状況が検出された。これは祭祀行為である可能性が高く、溝跡が灌漑水路として機能した可能性があると想定される。今後も丹生川坂ノ市条里跡の調査は引き続き行われる予定であり、当時代の生産・生活遺構の確認が期待される。（五十川）

(古墳時代)

宮苑井ノ口遺跡と玉沢地区条里跡第9次調査において、水田遺構と集落跡が検出された。

宮苑井ノ口遺跡では、弥生時代終末期～古墳時代前期の水田遺構1面と古墳時代中期以降の水田遺構が1面検出され、これらに伴うと推定される竪穴住居群も合計15基検出されている。古墳時代中期以降の水田遺構については、畦畔上で土師器甕を埋納した遺構が検出されており、遺構が、確実に当該期まで遡ることを示している。このほか、集落部分においては弥生時代終末期から、古墳時代前期のファイヤーピットも12基検出された。

玉沢地区条里跡第9次調査では、七瀬川の破堤堆積物からなる微高地とそれの間に分布する低地とが調査され、前者において古墳時代前期の竪穴住居4基が、後者の最下層において古墳時代前期に遡る可能性のある水田遺構が検出された。水田遺構は、不明瞭ながら畦畔が残存していたが、埋納等、時期決定の鍵となる遺構は検出されていないため、詳細な時期は不明である。しかし、水田土層中からは鼠返しが出土しており、当該期の集落景観を考える上で貴重な資料となった。

これらの発掘調査は、いずれも組合施工による民間主体の区画整理事業に伴うものであり、基本的に区画街路等の道路や、道路下埋設物の場所のみを記録保存調査しているものである。従って、今後、店舗等の建設が行われる際に、広大な面積の街区部分が調査対象となることが予想される。一方、調査対象地区の相当部分については弥生時代もしくは古墳時代以降連続と水田として利用されていた地域であり、多数の水田面が検出されるため、広大な面積で記録保存調査を実施した場合、調査期間・調査費用が膨大なものとなる傾向があった。こうした問題をふまえ、今年度の玉沢地区条里跡における発掘調査では、事前に区画整理対象地区全域で実施した確認調査結果に基づき、水田面と微高地がセットで検出できる箇所のみを本調査対象地区として設定し、水田のみの部分については除外した。こうした、調査対象地区や調査方法の限定には問題もあろうが、今後一層広大な調査面積が予想される店舗部分の調査においては、なお一層現実的かつ継続可能な調査ガイドラインの設定が必要となる

う。（高島）

（古代）

古代に比定される遺跡の調査としては、平成15年度から継続的に実施されている城原・里遺跡の確認調査をはじめ、上野遺跡群(上野廃寺跡第2次調査)、横尾遺跡第92次調査などが挙げられる。

城原・里遺跡においては、建物配置の範囲確認を主目的として、建物配置の推定範囲における南西部の調査が行われ、7世紀後半頃～8世紀前後に比定される掘立柱建物群が確認されている。これらには、規格的に配置された倉庫群も含まれており、遺跡様相はさらに複雑化してきている。

上野遺跡群(上野廃寺跡第2次調査)においては、平成10年度に確認された基壇建物跡の東側隣接地の調査が行われ、基壇の延長部と想定される版築状の積土遺構が確認されている。積土遺構の上位からは多くの瓦片が出土しているものの、積土遺構の大半に掘り返しが認められるため、礎石建物跡の延長部の確認はできていない。

この他の調査としては横尾遺跡からの出土遺物が特筆され、第92次調査においては墨書土器、第93次調査においては風字硯など官衙遺跡通有の遺物が相次いで出土している。（塩地）

（中世）

主に、市内中心部、中世大友城下町跡で当該期の遺構が確認されている。

大友氏館跡では、推定地北東部の調査（14・15次）を昨年度からの継続として行ない、また、新たに庭園跡の北側の調査（16次）を実施している。館14、15次調査では、15世紀代の掘立柱建物跡、16世紀中葉～後葉の土器廃棄遺構、16世紀前葉に比定される南北溝が確認されている。館16次調査では、15世紀代のものと思われる掘立柱建物及び礎石建物が検出されており、館12次調査区において発見されている建物との関連性が注目される。これらの調査成果は、大友氏館跡が方二町に拡張する以前の有り様について重要な所見になると考えられる。町屋域の調査では、推定第四南北街路沿い（市道拡幅事業に伴う）、推定称名寺、推定ノコギリ町、中世府内町南端部で行われている。町45次調査はキリシタン関連施設周辺部に該当するため、その成果に期待がもたれたが、16世紀代の柱穴群及び16世紀末段階の井戸跡が見つかったのみで、上記施設の解明にまでは至らなかった。町44次は、大友氏館跡の西側ラインを確定する目的で調査を実施した。館に近接する部分では、遺構密度が閑散としており空閑地的様相を呈していたが、第四南北街路沿いでは柱穴群が集中しており町屋の様相が看取された。しかし、西側ラインを確定する重要部分については大規模な攪乱により遺跡が破壊されており、発見できなかった。町27次調査では、推定第四南北街路とされる道路状遺構が確認されている。現在の道路より東側の区画で見つかることから、近世以降に移動した可能性が考えられる。町33・2次調査は、中世府内町の南端部の位置にあたる。幅員約4mの規模を有す溝状遺構が検出され、出土遺物から15世紀後半には埋没が開始していると思われる。また、16世紀後半に該当する建物跡も見つかっていることから、絵図に描かれていない地点でも戦国期の遺構が存在していることが判明した。（佐藤）

（近世）

本年度の調査では、試掘調査で確認した府内城・城下町遺跡の遺構群に集約できる。調査地は旧医師会館跡地で、推定府内城北丸と考えられ地点であり、北丸を構成する石垣基底部及び堀跡が検出された。また大量の瓦片、陶磁器片、漆器碗の完存品が出土している。現府内町一丁目の調査区では、近世府内城下町絵図に見られる小物座町が所在していたと考えられる地点で、府内城城下の外郭施設である土塁裾部及び基底部と考える土層堆積、また大型遺構を確認しています。

以上のように、推定府内城の北丸の石垣基底部と考えられる遺構を確認できたことは大きな成果であり、来年度以降の本調査の成果が期待される。（永松）

第2図 調査遺跡位置図

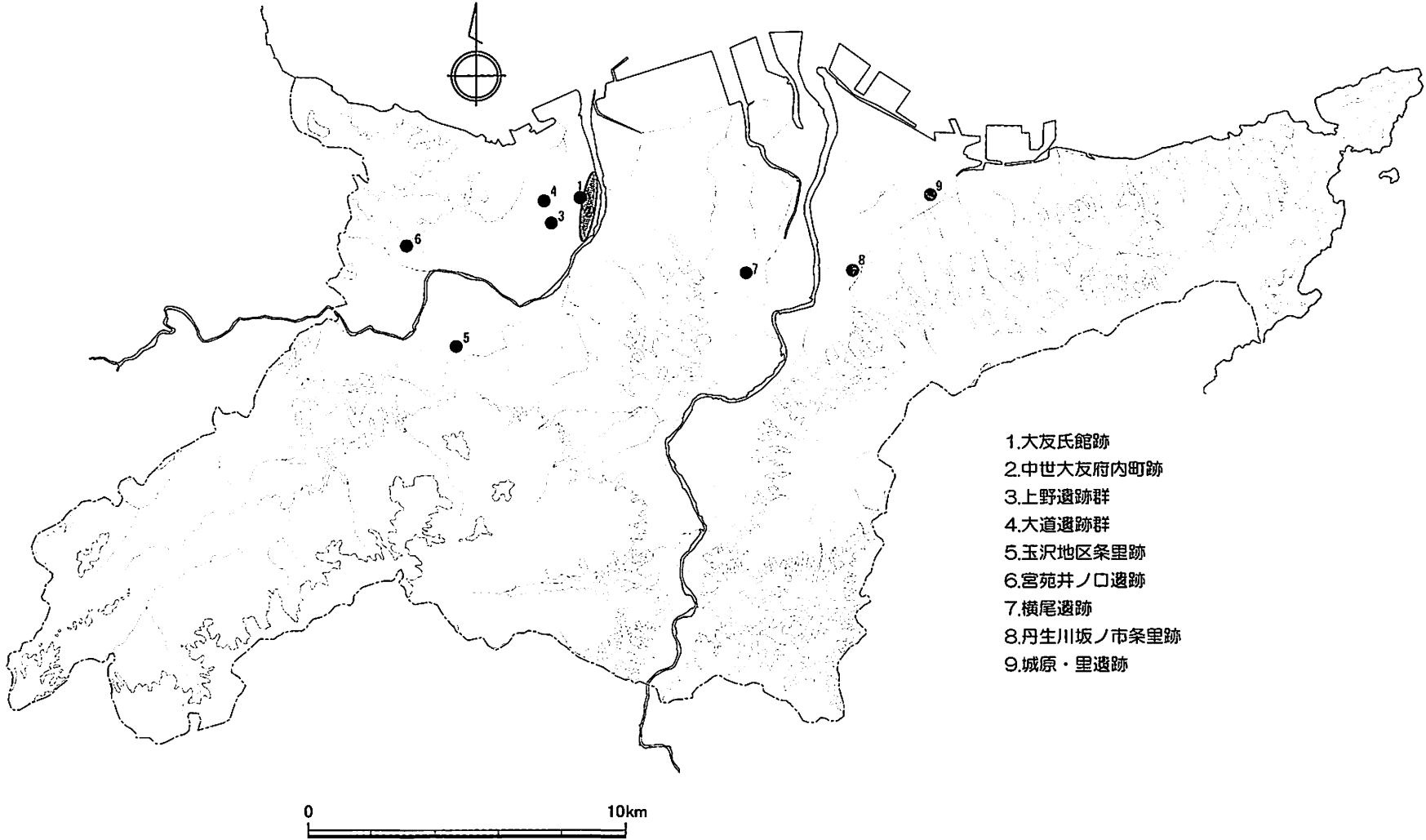


表2 大分市平成16年度発掘調査地一覧

調査地点	遺 跡 名	所 在 地	調査担当者	調査面積	調 査 期 間	種 別
1	大友氏館跡第14次調査	大分市顕徳町	中西武尚・森岡晃司	150㎡	03.12.15～ 05.03.18	市内遺跡確認調査
1	大友氏館跡第15次調査	大分市顕徳町	中西武尚・森岡晃司	70㎡	04.02.17～ 05.03.18	市内遺跡確認調査
1	大友氏館跡第16次調査	大分市顕徳町	中西武尚・森岡晃司	320㎡	04.05.17～ 継続中	市内遺跡確認調査
2	中世大友府内町跡第27次調査	大分市顕徳町	五十川雄也・松尾 聡	280㎡	04.07.06～ 05.02.17	公共事業
2	中世大友府内町跡第25～5次調査	大分市六坊北町	佐藤道文・服部真和	270㎡	04.05.27～ 04.06.29	公共事業
2	中世大友府内町跡第25～6次調査	大分市六坊北町	佐藤道文・服部真和	300㎡	04.06.03～ 05.12.17	公共事業
2	中世大友府内町跡第33～2次調査	大分市大字大分	佐藤道文・服部真和	450㎡	05.02.14～ 05.03.29	市内遺跡確認調査
2	中世大友府内町跡第45次調査	大分市顕徳町	佐藤道文・服部真和	240㎡	04.07.21～ 04.09.10	市内遺跡確認調査
2	中世大友府内町跡第47次調査	大分市錦町	佐藤道文・服部真和	40㎡	04.09.16～ 04.09.30	市内遺跡確認調査
2	中世大友府内町跡第44次調査	大分市顕徳町	中西武尚・森岡晃司	100㎡	04.06.28～ 04.08.20	市内遺跡確認調査
2	中世大友府内町跡第44-2次調査	大分市顕徳町	中西武尚・森岡晃司	20㎡	04.11.18～ 05.01.11	市内遺跡確認調査
2	中世大友府内町跡第46次調査	大分市大字大分	中西武尚・森岡晃司	90㎡	04.08.09～ 04.08.16	市内遺跡確認調査
2	中世大友府内町跡第50次調査	大分市六坊北町	服部真和	2㎡	05.02.08～ 05.02.10	市内遺跡確認調査
3	上野遺跡群（上野廃寺第2次調査）	大分市上野丘	後藤典幸・森岡晃司他	92㎡	05.03.28～ 05.03.31	民間開発
4	大道遺跡群第7次調査	大分市東大道	高畠 豊・羽田野達郎	118㎡	04.01.10～ 04.09.28	公共事業
4	大道遺跡群第8次調査	大分市東大道	高畠 豊・羽田野達郎	1170㎡	04.11.01～ 05.02.28	公共事業
5	玉沢地区条里跡第9次調査	大分市大字市字大坪	高畠 豊	2,800㎡	04.11.08～ 05.03.29	公共事業
6	宮苑井ノ口遺跡	大分市大字宮苑字井ノ口	萩 幸二	719㎡	05.01.10～ 05.03.31	民間開発
7	横尾遺跡第98次調査	大分市大字横尾	塩地潤一・衛藤亮介	217㎡	05.03.14～ 05.03.28	公共事業
7	横尾遺跡第92次調査	大分市大字横尾字有田	塩地潤一・古川 匠・山本哲也・ 岩尾美保子・衛藤亮介	600㎡	04.04.20～ 04.06.30	市内遺跡確認調査
7	横尾遺跡第93次調査	大分市大字横尾	古川 匠・山本哲也・衛藤亮介・ 岩尾美保子・大野瑞恵	620㎡	04.07.01～ 05.03.31	市内遺跡確認調査
7	横尾遺跡第94次調査	大分市大字横尾	古川 匠・山本哲也・衛藤亮介・ 大野瑞恵	210㎡	05.01.05～ 05.03.31	市内遺跡確認調査
7	横尾遺跡第95次調査	大分市大字横尾	古川 匠・山本哲也・衛藤亮介・ 大野瑞恵	110㎡	05.01.26～ 05.03.31	市内遺跡確認調査
7	横尾遺跡第96次調査	大分市大字横尾	古川 匠・山本哲也・衛藤亮介・ 大野瑞恵	90㎡	05.01.26～ 継続中	市内遺跡確認調査
7	横尾遺跡第97次調査	大分市大字横尾	古川 匠・山本哲也・衛藤亮介・ 大野瑞恵	290㎡	05.01.31～ 05.03.31	市内遺跡確認調査
8	丹生川坂ノ市条里跡（第1地点）	大分市大字丹川	五十川雄也・羽田野裕之	570㎡	05.01.21～ 05.03.25	公共事業
8	丹生川坂ノ市条里跡（第2地点）	大分市大字丹川	五十川雄也・羽田野裕之	150㎡	05.01.21～ 05.03.25	公共事業
8	丹生川坂ノ市条里跡（第3地点）	大分市大字丹川	五十川雄也・羽田野裕之	450㎡	05.01.21～ 05.03.25	公共事業
8	丹生川坂ノ市条里跡	大分市大字丹川	五十川雄也ほか	3500㎡	04.04.12～ 05.03.25	公共事業
9	城原・里遺跡第8次調査	大分市大字里	池邊千太郎・羽田野裕之	837.8㎡	04.06.15～ 05.01.13	市内遺跡確認調査

※調査地点の番号は第2図と対応する。

表3 大分市平成16年度発掘調査地一覧

番号	種別	遺跡名	住所	調査面積 (㎡)	調査期間	開発原因
1	確認(民間)	羽田遺跡	大分市大字羽田字久保	2㎡	05.01.12	宅地造成
2	確認(公共)	延命寺遺跡	大分市大字丹川字野原・中尾	7.5㎡	04.11.01	公民館建設
3	確認(民間)	横塚遺跡1	大分市横塚	7㎡	04.06.04	鉄塔建設
4	確認(民間)	横塚遺跡2	大分市横塚	4.5㎡	04.11.26	集合住宅建設
5	確認(民間)	下郡遺跡群	大分市大字下郡	20㎡	04.05.18	ショウルーム新築
6	確認(民間)	下郡遺跡群	大分市下郡中央	7㎡	04.07.22	事務所建設
7	確認(民間)	下郡遺跡群	大分市下郡中央	100㎡	04.10.14	病院建設
8	確認(民間)	下郡遺跡群	大分市下郡南	10㎡	05.02.23	マンション建設
9	確認(民間)	賀来条里跡	大分市大字中尾字溝添	26㎡	04.06.30	養護学校建設
10	確認(民間)	賀来西遺跡	大分市賀来土地区画整理A-6街区	18㎡	04.08.27	共同住宅建設
11	確認(民間)	葛木遺跡	大分市大字葛木字西上	45㎡	04.06.23	宅地造成
12	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字下宗方櫛引	92㎡	04.09.09	病院建設
13	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字市字石橋	5㎡	04.11.24	宅地造成
14	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字市字堺ノ坪	10㎡	04.12.27	広告塔建設
15	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字玉沢字小野田	16.5㎡	05.03.18	給油所造成工事
16	確認(民間)	古国府遺跡	大分市大字永興字下芦原	4㎡	04.10.29	宅地造成
17	確認(立会)	古国府遺跡	大分市大字古国府カモ田	5㎡	04.11.02	共同住宅建設
18	確認(民間)	古国府遺跡	大分市大字羽屋字柿	4㎡	04.11.09	店舗建設
19	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府	21㎡	04.04.15	集合住宅建設
20	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字町口	7㎡	04.06.09	集合住宅建設
21	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字日吉田	89㎡	04.06.17	スポーツジム建設
22	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字下堀	40㎡	04.08.05	その他開発
23	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字羽屋字鋤崎	16㎡	04.09.02	病院建設
24	確認(民間)	若宮八幡宮遺跡	大分市上野町	64㎡	04.06.01	マンション建設
25	確認(民間)	周知遺跡外	大分市角子原	6㎡	04.08.03	マンション建設
26	確認(民間)	庄ノ原遺跡	大分市大字荏隈字庄ノ原	24㎡	04.04.16	集合住宅建設
27	確認(民間)	庄ノ原遺跡	大分市大字三芳字庄原	4㎡	04.12.08	マンション建設
28	確認(民間)	庄ノ原遺跡	大分市大字荏隈字庄ノ原	8㎡	04.12.08	グループホーム建設
29	確認(公共)	上松岡遺跡	大分市大字松岡	57㎡	04.08.17	校舎増築
30	確認(民間)	上松岡遺跡	大分市大字松岡	26㎡	05.01.13	仮設ハウス増設

31	確認(民間)	上野遺跡群	大分市上野丘	30㎡	05.02.28	集合住宅建設
32	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市六坊北町	12㎡	04.07.28	共同住宅建設
33	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市長浜町	5㎡	04.08.26	共同住宅建設
34	確認(民間)	中世大友城下町跡	大分市金池町	12㎡	04.11.19	モデルルーム建設
35	確認(公共)	中世大友城下町跡	大分市長浜町	-(立会)	05.01.24	公民館建設
36	確認(民間)	丹生川坂ノ市条里跡	大分市大字佐野字宮ノ下	20㎡	04.04.26	集合住宅建設
37	確認(民間)	猪野遺跡	大分市大字猪野字木ノ下	27㎡	04.04.20	造成工事
38	確認(民間)	猪野遺跡	大分市大字猪野字西太郎塚	3㎡	05.01.14	宅地造成
39	確認(民間)	鶴崎町遺跡群	大分市南鶴崎	22㎡	04.08.24	マンション建設
40	確認(公共)	東田室遺跡	大分市南春日町	97㎡	04.07.06	屋内運動場改築
41	確認(民間)	東田室遺跡	大分市南春日町	-(立会)	05.02.08	マンション建設
42	確認(民間)	二目川遺跡	大分市大字横尾字芝尾	6㎡	05.03.08	共同住宅建設
43	確認(民間)	般若寺遺跡	大分市大字中戸次	6㎡	05.03.14	鉄塔建設
44	確認(公共)	浜遺跡	大分市汐見	11㎡	04.09.15	公園整備
45	確認(公共)	府内城・城下町	大分市府内町	25㎡	04.08.10	立体駐車場建設
46	確認(公共)	府内城・城下町	大分市荷揚町	83㎡	05.01.31	保健所建設

3. 教育普及活動

(1) 大分市文化財だより 2004年号の発行

平成3年度から発行を続けている文化財だよりの2004年度号（第13号）の作成、配布を行った。今回の特集は天然記念物を中心に大分市の自然遺産を集集し、市民に向けて広く情報の発信を図った。

内 容 ・ 指定されている天然物
・ 豊かな自然が残っている地域

配布先 市内全戸



(2) 現地説明会

第3図 文化財だより表紙

名 称	開催日	人数
大友館跡/中世大友府内町跡	9月26日	150名
中世大友府内町跡	11月21日	200名

(3) 体験発掘

名 称		
別府市立北部中学校「ウォークラリー施設訪問学習」	6月25日	18名
大分市立田尻小学校「すこやか体験」	7月8日	80名
大分県立大分豊府高等学校2年生「総学夏アカデミー」	8月24日	1名
大分市立植田南中学校「職場体験活動」	11月5日	5名
長崎県佐世保市立中里中学校「修学旅行 遺跡発掘体験」	11月16日	41名

(4) 研修参加

独立行政法人奈良文化財研究所による埋蔵文化財発掘技術者専門研修『古代集落遺跡調査課程』に職員1名を派遣した。

(5) 新指定文化財

野津原・佐賀関町の合併に伴い、両町の町指定文化財を市指定文化財として新たに指定した。

名 称	所在地
木造宝冠釈迦如来座像	太田
木造毘沙門天立像	恵良
木造薬師三尊立像	本町
銅像観音菩薩立像	今市
丸山八幡神社楼	今市
西福寺宝篋印塔	恵良
福城寺逆修石幢	本町
福城寺宝塔	〃
山の川石造宝塔・宝篋印塔	入蔵
摺石幢	摺
佐藤家墓地五輪塔群	前田
原村石幢	原村
地福寺宝塔	福宗



第4図 体験発掘風景（横尾遺跡）

地 福 寺 石 幢	々
鶴 迫 磨 崖 仏	太 田
鶴 迫 磨 崖 連 碑	々
永 富 家 逆 修 碑 (3 基)	新 町
宝泉寺大乘妙典一字一石塔	宝泉寺
木造地藏菩薩立像 (愛宕地藏)	本神崎
大 平 文 書	々
若 林 文 書 ・ 系 図	々
十 谷 満 願 寺 跡 宝 篋 印 塔	十 谷

(6) 野津原・佐賀関町域所在の指定文化財

野津原町・佐賀関町との合併に伴い、両町所在の国・県指定文化財、天然記念物が新たに大分市に加わった。

	名称または物件	所在地
国指定有形文化財	後 藤 家 住 宅	杵ヶ原
国 指 定 史 跡	築 山 古 墳	本幸崎
国 登 録 文 化 財	太田缶詰工場主屋	白 木
	々 土蔵	々
	々 石倉	々
県指定有形文化財	刀	野津原
	早吸日姫神社総門	関
	本殿	々
	社家 (小野家住宅)	々
	築山古墳出土品	本幸崎
	教 尊 寺	本幸崎
県 指 定 史 跡	参勤交代道路	今 市
天 然 記 念 物	ビロウ自生地	高 島
	ウミネコ営巣地	々

平成16年度
事業概要

4. 海部古墳資料館

海部古墳資料館において、以下の行事を行った。

(1) 特別展

平成16年度特別展として、近年大分市内で新たに発掘された遺跡を紹介する「タイムトラベラー 2004 みて・きいて・かんじる大分の歴史」を開催した。

名 称 「タイムトラベラー 2004 みて・きいて・かんじる大分の歴史」

開 催 日 平成16年10月19日 (火) ～11月21日 (日)

入館者数 3100名



第5図 海部古墳資料館特別展

(2) 入館者数（通年）

団 体	96団体	4631名
個 人		8365名
合 計		12996名

5. 大友氏関連遺跡フェスタ

大分市美術館・大分市歴史資料館と連携し「南蛮憧憬—ザビエル・宗麟、そして府内」という共通テーマにより特別企画 大友氏関連遺跡フェスタを開催し、各種行事を行った。

(1) 大友氏館跡現地説明会

大友氏館跡内において、資料整理作業の見学と大友氏関連遺跡のビデオ鑑賞を行った。

9月26日 参加者150名。

(2) 上野史跡探訪

上野台地に所在する大友氏ゆかりの地を歩いた。

10月10日 参加者120名。

(3) 「北部九州中近世城郭研究大会」 シンポジウム 高崎城をめぐる諸問題—大友の城を考える—を共催した。（主催：北部九州中近世城郭研究会）

・ 杵原八幡宮駐車場を基点に徒歩にて高崎城をめざし、良好に遺存する城郭遺構の説明をおこなった。

10月2日（第1日） 参加者80名。

・ 市内金池会館にてシンポジウムを開催し、九州各地の研究者が様々な角度から高崎城について検討を行った。

10月3日（第2日） 参加者120名。

I 大友氏館第14次調査

調査面積 150 m² 調査期間 2003.12.15 ～ 05.03.18

地域 A 調査担当 中西武尚・森岡晃司

調査地は、推定大友氏館跡の北東部にあたり、推定大友氏館跡北東部の遺構の面的な広がりの確認を目的として、昨年度からの継続で調査を実施した。

調査の結果、廃棄遺構群[館14SX001・005]や掘立柱建物跡[館14SB030・040]、柵跡[館14SA035]、土坑群[館14SK010・015・020・025]、その他[館14SX045・055]などを検出した。

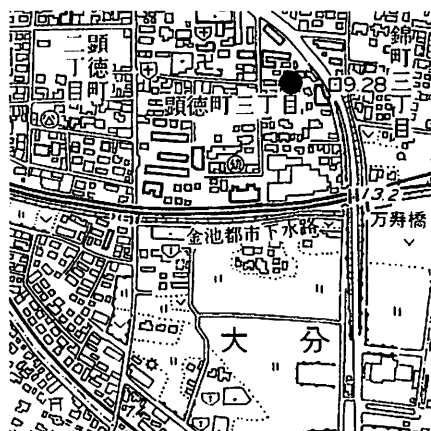
館14SX001は、館10次調査の続きと考えられる多量の土師器片を含む廃棄遺構群で、調査区北東部で検出されている。これらはいくつかのブロックにまとまって検出され、館14SX001①では大きく3層の土師器廃棄層が確認できる。廃棄された土師器のほとんどは京都系土師器であり、埋土内ものは完存品に近い状態で廃棄されているが、遺構上面のもの

については、水田耕作に伴い攪拌されている。館14SX001③の土師器廃棄層は浅く、館14SX001①上面と同じ状況を呈している。

館14SX005は、館14SX001の南側に展開する長軸約8m・深さ約1mを測る大形の掘り込みをもつ廃棄遺構である。土層観察から下部に自然堆積層が認められ、一時期掘削された状態で機能していたと考えられる。その時期は出土した備前焼播鉢から16世紀後葉に比定され、その後埋め戻されたと考えられる。埋め土には、京都系土師器のほか多量のクロロ目土師器を含むが、周辺からの混入品の可能性が高い。検出面上部には、館14SX001①・③と同様に京都系土師器の集中廃棄がブロック状に確認できる。これらの廃棄遺構群は、館10次調査地点も含み16世紀中葉から後葉にかけて、今次調査区の東側を南北方向へ断続的に確認でき、この両側どちらかに南北方向の区画を示唆する施設等のあった可能性も指摘できる。この他、京都系土師器を伴う遺構としては、館14SK010・020の土坑群がある。いずれも南北方向に主軸をもつ長土坑で、埋土内には土師器片が多数含まれており、廃棄土坑と考えられる。

次に京都系土師器を伴わない段階の遺構について記す。掘立柱建物跡[館14SB030・040]と柵跡[館14SA035]は、それぞれ同じ場所で短期間の間に建て替えがおこなわれている。館14SB040は、現状2間×4間の東西棟で、柱間1.96mを基本としている。建物方位は、N-1°20'8"-Eを示す。館14SB030は、2間×4間の規模をもつ南北棟で、柱間は中央の2間分は平均1.96m、南北に延びる各柱間は、平均1.76mを測る。建物方位は、N-3°50'46"-Eを示し、最低でも2度の建て替えが確認できる。柱穴の底には礎パンとしての礫が置かれるものもみられ、また、建て替えの際にかさ上げをし、そこに礎パンとしての礫を置くものも看守できる。さらに建物の東側には、約2.8mの間隔をあけて、同じ埋土をもつ館14SX055の柱穴列が同一軸上に確認できる。大部分が館14SX001・005により削平をうけているが、同一規模の建物跡が建っていた可能性が指摘できる。

館14SA035は、東西方向の柵跡で、柱間平均1.82mを測り、最も東側のみ2.00mと長くなっている。方位は、N-2°19'52"-Eを示す。現状柱穴は深さ約0.1～0.2mと浅く、本来は現検出面よりも掘り込み位置が高かったものと考えられる。これらの各建物跡は、館14SK025とした廃棄土坑にそれぞれが切られており、16世紀前葉以前の所産時期が考えられる。建物跡の変遷については、互いに直接的な切り合い関係をもっていないため確実な前後関係は不明であるが、建物方位・出土遺物から館14SB040→館14SA035→館14SB030の変遷が考えられ、およそ15世紀後葉～16世紀前葉の範疇におさまるものと考えられる。これまで館内の調査で確認されている掘立柱建物跡



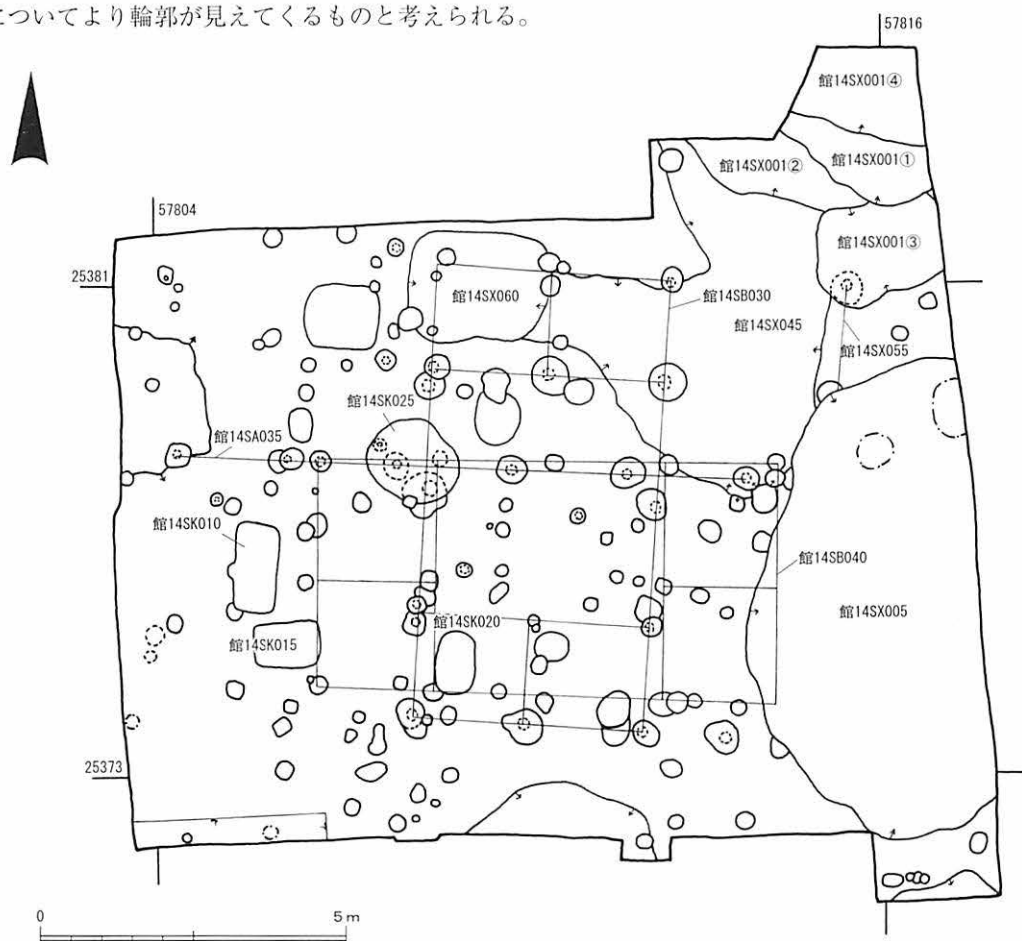
第6図 調査地点位置図

の方位としては、15世紀前葉と考えられている館12SB035・SB050・SB145が約3°、それに先行する館12SB045が約2°東に振ることが報告されているが、建物方位による明確な変遷はわかっていない。

館14SX001②は、調査区北側の他よりも0.1mほど高い場所で検出されている整地層であるが、出土遺物から上記の建物群に伴う整地層であることが指摘できる。また、この下層からは、硬く締まった埋土をもつ掘り込み遺構[館14SX045]が確認できるが、ハコ形を呈す土師器坏主体で出土しており、一時期古い遺構と考えられる。

今回確認された建物群は、狭い調査区の中で短期間に建て替え、あるいは建物構造の変更を行っており、今後の周辺調査によりその規模・配置について検討していく必要がある。これにより大友氏館跡の形成・成立過程についてより輪郭が見えてくるものと考えられる。

(中西 武尚)



第7図 第14次調査区遺構配置図 (1/125)



第8図 調査区全景 (東より)



第9図 館14SX001①遺物出土状況 (北より)

Ⅱ 大友氏館跡第15次調査

調査面積 70 m² 調査期間 2004.02.17 ~ 05.03.18

地 域 A 調査担当 中西武尚・森岡晃司

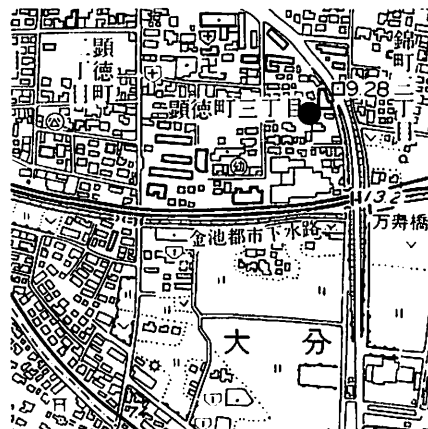
調査地は、推定大友氏館跡の北東部にあたり、大友氏館北東部の遺構の面的な広がりの確認を目的として、昨年度からの継続で調査を実施した。

調査の結果、2条の南北方向の溝状遺構[館15SD010・025]、井戸跡[館15SE018]、土坑[館15SK035・045ほか]、その他不明遺構[館15SX005]やピット群などが検出された。

館15SE018は、直径約2.5mを測る掘り方をもち、井筒部分には直径約0.7mの桶を用いていたと考えられる。深さは検出面から約2.5mを測り、それより下位は砂層になっている。現状では湧水は見られなくなっているが、本来はこの砂層の標高約2.0m付近で湧水があったものと考えられる。井戸廃絶時には、井筒内に巨石を入れ込み井戸封じをおこなっている。この巨石については、周辺の礎石が利用された可能性も考えられる。また最終埋没の段階には、牛あるいは馬の頭骸骨が出土した土坑状のプランが確認されている。牛馬祭祀にかかわる遺構の可能性も考えられるが、礫や遺物などの出土状況から井戸埋め戻し後の凹地に廃棄されたものの可能性が高い。出土遺物では、構築時の裏込めから京都系土師器坏が出土し、廃棄時の井筒内からも同様の京都系土師器坏の出土がみられる。この遺物から構築・廃棄時期は16世紀後葉～末葉に比定され、この井戸は短期間の間に機能していたものと考えられる。調査区北側で確認された館15SK035・045の周辺では、複雑に切りあった不定形遺構群が多く検出されたが、いずれも廃棄土坑と考えられる。出土遺物には、京都系土師器坏・皿をはじめ、中国青花碗・皿(E群)・漳州窯系青花皿・ベトナム焼締陶長胴壺などがみられ、16世紀後葉～末葉に比定される。また、土師質鍋・鉢などの生活雑記類の出土も目立ってくる。

館15SD025については、調査区の西側で遺構の東肩の一部を確認したのみであり、その規模等は不明であるが、ほぼ垂直に近いかたちで掘り込まれており、規模の大きな溝になると考えられる。南側の延長部は、館中心部の盛土整地の東端付近にあたり、それとの関連性が注目される。また、館14次調査東側で確認されている館14SX005との関連性も注目される。出土遺物には京都系土師器がみられるが、詳細な時期比定については困難である。

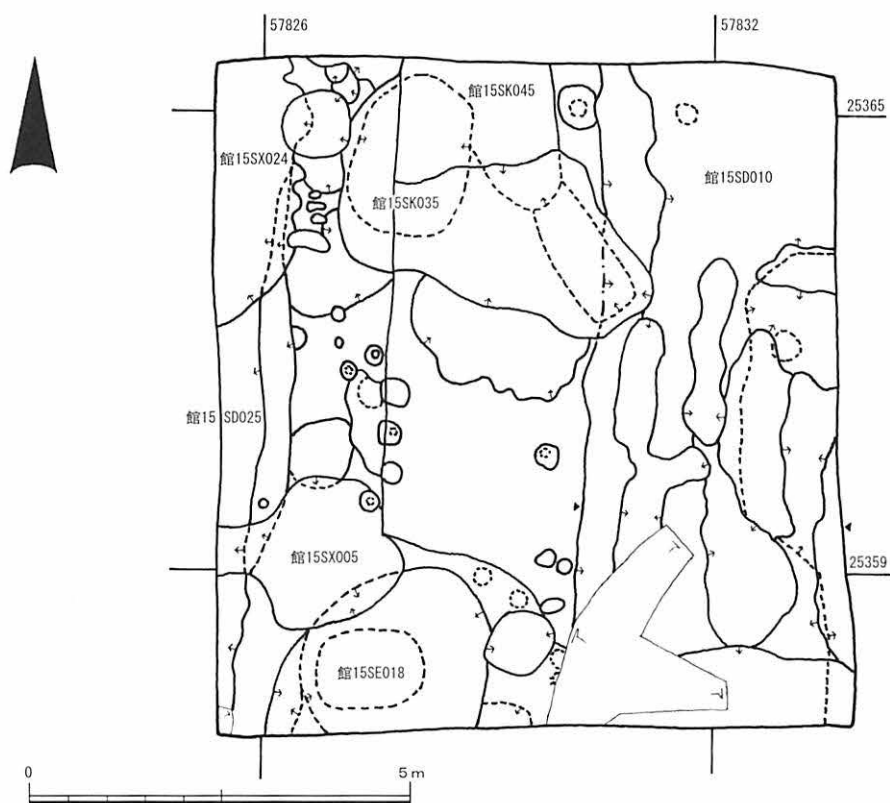
館15SD010は、現状で幅約3.5m、深さ約2.3mを測る断面V字状を呈する。東側がやや直立気味で、西側は比較的緩やかになっている。土層観察からは数度の掘り返しが認められた。溝の西側には当初の掘削プランが遺存しており、最初は断面逆台形状を呈していたことがうかがえる。この西側では掘り返しに伴い、黄褐色地山ブロックを多く含み、硬く締まった埋土が認められる。西側上部から流れ込んだ崩壊土の可能性が高いが、東側では見られない点や硬く締まっている点などから人為的な埋め土の可能性も考えられる。溝の下部にはグライ化した青灰色粘質土層が堆積し、その周囲には厚い鉄分の帯状の沈着が認められることからこの溝には水が堆水していたことがうかがえる。数度の掘り返し後、溝は一気に埋め戻される。その後、調査区東側の際ではさらに掘り返しのプランを確認しているが、調査区外に展開するため規模等は不明である。埋め戻し段階の出土遺物の主体は薄手の京都系土師器となり、機能時の出土遺物は、薄手の京都系土師器とロクロ目土師器が主体をなす。また、溝の掘削段階の遺物には、京都系土師器はみられず、ロクロ目土師器が主体となる。この溝跡の性格については、館内においては規模が極めて大きいことから、館が方二町に拡張する以前の区画施設になる可能性が考えられる。



第10図 調査地点位置図

この他の遺構には、館15SE018や館15SD025に切られて、在地系のハコ形の土師器を大量に含む土坑状の遺構[館15SX005]が確認されている。

今回の調査により館の方二町に拡張する直前の状況を看取することができたことは、大きな成果と言え、また、過去の調査所見と同様に16世紀末葉段階（島津氏の府内侵攻後を想定）に町屋域が館の東側に進出してくる状況についても再確認できたことは、館の衰退過程を考える上で重要な所見と言える。（中西 武尚）



第11図 第15次調査区遺構配置図（1/100）



第12図 調査区全景（南より）



第13図 館15SE018土層観察状況（北より）

Ⅲ 中世大友府内町跡第25-5次調査

調査面積 約 270 m² 調査期間 2004.05.27 ~ 04.06.29

地域 A 調査担当 佐藤道文・服部真和

調査地は「府内古図」では町名が記されておらず、中世府内町南西隅部に位置する。前年度調査分（中世大友府内町跡第25次）では、府内町の南西を区画すると思われる16世紀代に比定される東西方向の溝状遺構が検出されている。今回の調査は、中世府内町周辺の状況及び推定第四南北街路を確認することを第一目的として実施した。その結果、道路構造を示す土層の堆積は認められなかった。壁面の土層観察を行ったところ、耕作土層（水田？）が幾層も検出されたことから、本調査区は長年にわたって耕作域であったことが指摘される。それは、出土遺物に古墳時代～江戸時代のものがみられことから推測できる。また、耕作土層中に戦国期の遺物を含む層があり、このことから、当該期も耕作地が広がっていた可能性が考えられる。

（佐藤道文）



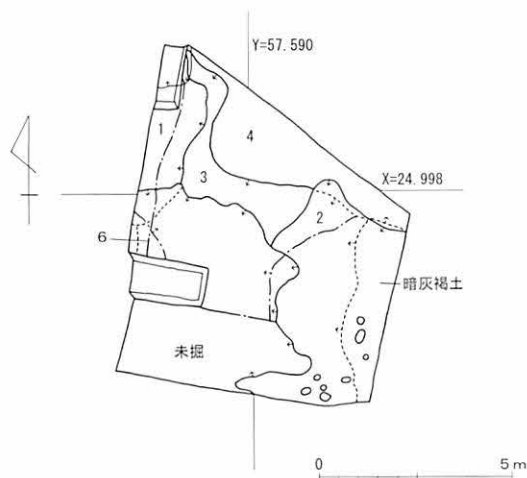
第14図 調査地点位置図



第15図 調査区全景



第16図 土層観察時（北より）



第17図 遺構配置図 (S=1/200)

中世大友
府内町跡
第25-5次調査

Ⅳ 中世大友府内町跡第25-6次調査（推定祐向寺・上町周辺）

調査面積 約 300 m² 調査期間 2004.06.03 ~ 04.12.10

地 域 A 調査担当 佐藤道文・服部真和

<調査の方法>

中世大友府内町跡第25-6次調査区は、市道六坊新中島線の拡幅工事に伴い実施された。道路拡張部分のみの調査であり、調査区は南北に細長く、また調査区内を横切る配水管を残しての調査であったため、北区と南区に分割されている。調査区の総面積は約300m²である。

さて、本調査区は「戦国時代府内復元想定図」によれば、第四南北街路沿いに展開したであろう上町ないしは祐向寺に想定されており、中世大友府内町跡第25-2次調査区北側の延長部分に位置している。

基本層序としては、まず現地表面から約0.7~1mの厚みで造成のための客土が認められた。その下層には近世・近代の水田層があり、それに伴うものと考えられる東西方向の溝状遺構が数条確認されている。これらの溝状遺構からは、中世の遺物とともに17世紀代の近世陶磁器類が出土している。さて、近世・近代の水田層を除去した標高約4mのあたりから中世段階の遺構の検出が可能となる。

<遺構について>

確認された時期については、3時期ある。

15世紀代のものとしては、2条の南北溝がある。ともに調査区南側から中央部分で延びが終わるもので、幅員が約0.5m、断面逆台形を呈している。町25-6SD130については南側へと延長する。埋土中からは、完形に近いいわゆる在地系のハコ形土師器が出土している。土層からは流水痕跡が認められないことから、区画的機能が想定される。

15世紀末~16世紀前半段階は、規模の大きな遺構（溝・井戸・土坑）が形成される。町25-6SD160は幅員約4mを有する東西溝である。土層の堆積状況から、流水→滞水の状況がみられ、数回の掘り返し後、規模を縮小しながら最終的には人為的に埋められる。町25-6SD160の南側には、調査区外に延びる平面長方形をなす大型土坑（町25-6SX060）がある。このSX060は南辺に五輪塔石（火輪：凝灰岩製）を含む礫を用いた石列が設けられる。

また、井戸が3基検出される。町25-6SE115・165は残存良好であり、ともに井筒構造は結桶積みである。

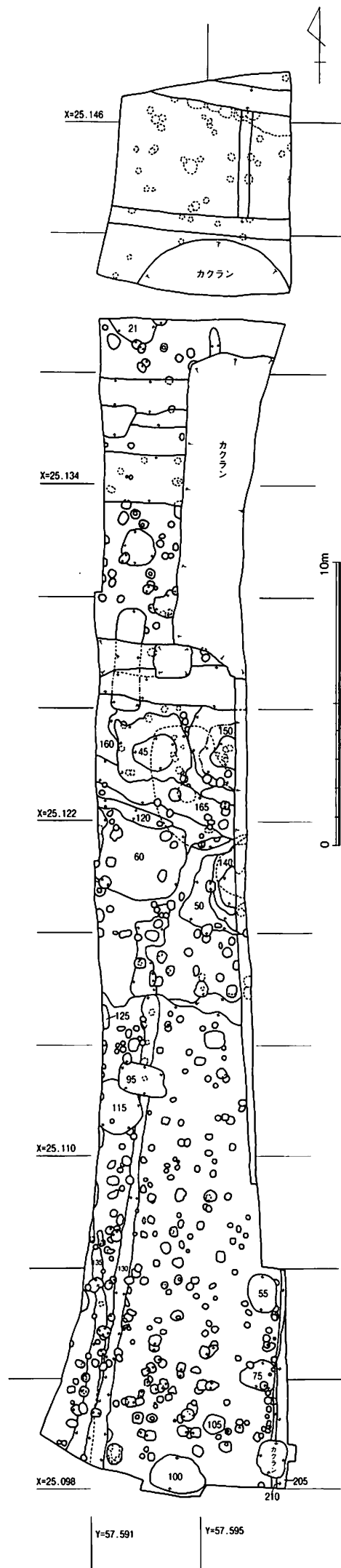
16世紀中頃・後半~末段階は、掘立柱建物、廃棄遺構、土壙墓等がある。掘立柱建物は、南北に4間、東西に3間+aの規模を有し、埋土には焼土が含まれる。町25-6SX125は、全容把握ができていないが、完存する京都系土師器皿が2点正位置で埋置されていた。廃棄遺構については、周辺でみられるものと同様で、礫及び土器破片を散在的に確認された。調査区東端では、南北溝が検出されている。道路側溝の可能性もあるが、現段階では言及できない。第四南北街路については、その規模。配置・構造については未だ不明な点が多く今後の課題とされる。

<問題点>

今回の調査では、調査区が推定祐向寺周辺に該当する可否かは明確にできなかった。但し、15世紀代より宅地として利用されていることは確実であり、それが、武家地なのか寺地なのか、また町屋なのかは周辺の調査の状況と照らし合わせた上で考えてゆきたい。



第18図 調査地点位置図



第19図 遺構配置図 (S=1/200)

V 中世大友府内町跡第27次調査（A～D区）

調査面積 200 m² 調査期間 2004.07.06 ～ 05.02.17

地域 A 調査担当 五十川雄也・松尾 聡

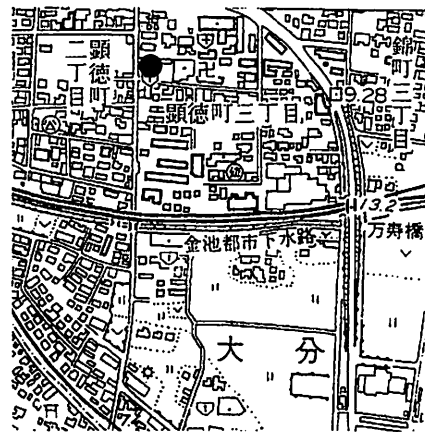
今回の調査は、都市計画道路六坊・新中島線の道路改良（拡幅）工事に伴って実施したものである。調査地点は、現在の顕徳町3丁目にあたる。また、「戦国時代府内復元想定図」によると大友氏館跡の北西部に該当し、絵図で描かれている第四南北街路沿いの下町・御北町・妙厳寺付近にあたる。今次の調査では古絵図及び戦国時代府内復元想定図に描かれている第四南北街路の検出が期待された。

町27次調査区は、大分川下流域の西岸に広がる沖積地の微高地上に立地する。周辺の調査では、町10次調査でキリシタン墓と考えられる土壌が確認され、町5次調査では第四南北街路と思われる道路跡が一部検出されている。また、町26次においては、15世紀後葉～16世紀前葉段階と16世紀中葉～末葉段階の遺構が確認されている。前者の段階に比定される遺構は、柱穴・ピット群、井戸跡や土師質土器祭祀遺構などである。後者は方形の掘方を有し、規模約1.5mをはかる大型の柱穴や溝状遺構、井戸跡などの遺構が確認された。町32次でも井戸や土坑・ピット・柱穴などが検出される15世紀末葉～16世紀前葉段階と溝状遺構などが確認される16世紀中葉～末葉の2時期に分けることができる。

なお、今回の調査は4箇所でおこなったことから、南側から北側にむかってA～D区と設定した。また、時期区分については15世紀～16世紀初頭段階の遺構群（Ⅰ期）及び16世紀後半～末段階（Ⅱ期）の遺構群の2つに分けた。なお、Ⅰ期の遺構群は全ての調査区において道路構築土除去後検出したものである。以下、調査区毎に概要を述べる。

町27-A区

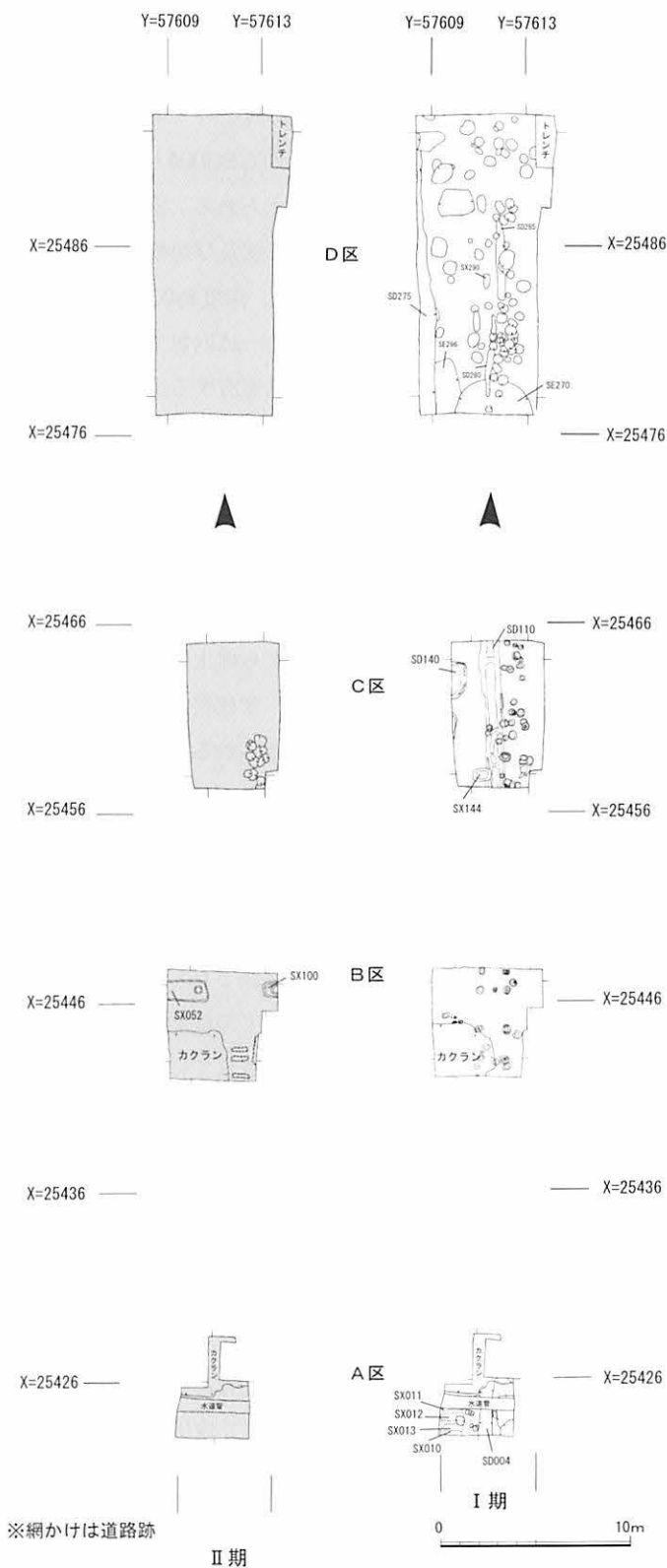
当調査区は、調査対象面積の大半を水道管埋設や後世の開発によって遺構面まで掘削されていたため遺構の残存状況は総じて良好ではなかった。遺構検出面は、Ⅰ期が標高約3.4m、Ⅱ期が約3.7mである。確認した遺構は、Ⅰ期では柱穴やピット溝状遺構（SD004）、連続土坑（SX010～SX013）。Ⅱ期は道路跡である。Ⅱ期の道路跡は平面では硬化面として確認でき、また調査区壁面では、砂質土と粘質土を交互に積み上げた状況が認められた。道路跡からは土師質土器や焼締陶器などの小片が多数出土した。また、Ⅰ期とⅡ期の標高差が約0.4mあることから、道路は複数面存在し、造り換えやそれに伴いかさ上げがなされているものと考えられる。調査の過程で確実に路面と認識できることができなかったため、今回の報告では複数面存在する可能性が考えられるというに留めておきたい。道路跡の所見は、他の調査区においても同様である。Ⅰ期では、SX010～SX013の連続土坑が注目される。道路下層より検出されていることから道路に伴う可能性が非常に高く、路面強化を目的として掘削されたものと考えられる。遺物は、ハコ形を呈する在地形土師器坏が出土している。またSD004は調査区中央を南北に縦断する形で検出した。検出幅0.6m、深さ0.2mをはかる。B区では同様の溝状遺構は確認できなかった。



第20図 調査地点位置図

町27-B区

検出標高はⅠ期が約3.5m、Ⅱ期が約3.7mである。調査面積は約35㎡、調査区南側部分については後世の開発により、地山まで削平されていたため、遺構面は残存していなかった。Ⅰ期は、柱穴・ピットなどを検出した。A区で確認した溝状遺構及び連続土坑などは確認することができなかった。柱穴・ピット内からは遺物の出土が認められなかったことから所産時期については不明である。Ⅱ期は調査区北側付近において土坑（SX052・SX100）を検出した。SX052・SX100共に道路跡を掘り込む形で検出された。SX052は西側が一部調査区外に展開するため全容については不明であるが、残存部の状況より平面形状は隅丸長方形を呈するものと思われる。検出規模は、長径約2.1m、短径約1.0mを測り、深さ約0.8mである。出土遺物は、京都系土師器皿や青花などである。京都系土師器は径が15cmをはかる大型のものであることから、16世紀後半～末段階に比定されるものと考えられる。また、SX052の東側にはSX100を検出することができた。SX100は一部分しか確認していないことから明確な所見を得ることはできなかったが、形状や深さなどからSX052と同一の性格を有する遺構である可能性がある。SX052・SX100の機能は、当該期の道路幅がどの程度の規模を有していたかは不明であるが、調査地が復元想定図では御北町・下町・中町の交差点付近に該当することから、町境を示す木戸である可能性が考えられる。



第21図 遺構配置図 (S=1/400)

町27-C区

C区は府内復元想定図では、御北町の北側、妙厳寺の西側に位置する。検出標高は、Ⅰ期が約3.5m、Ⅱ期が3.7mである。Ⅰ期で検出した遺構は、溝状遺構（SD110）、土坑（SX144・SX140）、及びピット・柱穴群である。SD110は調査区中央を南北に縦断するように構築されていた。規模は検出幅約0.9m、深さ約0.2mをはかる。埋土は暗灰褐

色を呈する単一層である。埋土中より瓦質土器や焼締陶器などが出土しているがいずれも小片であるため所産時期は不明である。しかしながら、溝の底面付近より15世紀代に比定されるハコ形を呈する在地形の土師器が数点出土したことから、SD110は少なくとも15世紀代には埋没していたものと考えられる。なお、A区で検出したSD004と同一規模を有し、出土位置もSD004の真北にあたることからSD004とSD110は同様の機能をもった遺構の可能性が考えられる。SX144は調査区南側で検出した土坑である。平面形状及び規模は隅丸長方形を呈し、長辺約1.0m、短辺約0.7m、深度約0.4mをはかる。埋土は、小礫をベースに砂質土を均一に内包する単一層である。底面付近には内外面にロクロ目を有する土師質土器坯の完形が7個体埋置されていた。出土状況（第22図）は北西隅に伏せた状態で1個、北東隅に1個、南西に上向きに1個、南東隅に伏せて1個南側中央に伏せて2個体と内側を向け立てた状態で1個体である。中央部には空間があり、そこには埋置されていないことから、柱などの構造物が建てられていた可能性も推察できる。しかしながら埋土の状況からは柱痕の確認はできなかったことから、一度柱及び掘方内の埋



第22図 町27-C区SX144出土状況（北より）



第23図 町27-C区 南壁土層（北より）

土を取り除いた後土器を埋置したと考えられる。性格については、道路下層で検出されていることから推察すると道路に伴う祭祀的な性格を有していたと推察される。SX140は調査区北側で検出した土坑である。平面形状は西側部が調査区外に展開するため不明である。出土遺物は、土師器片が数点出土しているのみで機能・埋没時期については言及できない。またピット・柱穴を数基検出したが、調査区が限られていることもあり、柱穴列の想定はおこなえるが、建物配置については不明である。また、SD110を境にして東側に柱穴やピットが展開するのに対し、西側ではピットなどの遺構が確認されていないことから、SD110は区画溝としての機能を有していたか、もしくはある段階の道路に伴う側溝としての機能を持っていたと考えられる。Ⅱ期は、調査区全体が道路である。特筆すべき点は、路面を掘り込んで構築されているピット及び柱穴である。これらは、ほぼ同一箇所掘削されていることから何らかの施設が存在していたことを示唆している。柱穴内からは遺物の出土がほとんどなく、また礎板石なども認められなかった。当該調査区は、大友氏館の北限ラインを西に延長した箇所にあたることから、これらの柱穴などは館を意識して構築されたと考えられることもできる。

町27-D区

今回の調査で一番北側に位置する調査区である。調査面積は約110㎡である。検出標高はⅠ期が3.4m、Ⅱ期が3.7mである。Ⅰ期の遺構は、溝状遺構（SD275・SD280・SD285・SD290）、井戸跡（SE270・SE296）、土坑、ピットや柱穴である。SD275は調査区西側で検出され、南北に伸展する。規模・形状は調査区外に展開するため不明である。SD280・SD285・SD290は調査区中央部付近で確認した。規模のうち全長は各々異なるが、検出幅及び深度はほぼ同一の規模を有する。埋土についても暗灰褐色土を基調とする単一層で共通している。出土遺物も在地形のハコ型を呈する土師質土器が認められることから、同一時期若しくは大差ない時期に埋没したものと推察できる。SE270・SE296は調査区南側で検出した。両遺構ともに残存状況は良好ではなかったが、井筒を確認することができた。部材は結桶を使用したものと思われる。遺物は、SE270・296ともに裏込め部分から出土

したが、時期比定を行えるような資料は確認することができなかった。Ⅱ期の段階は全面道路である。構築土中からは、備前焼甕、在地形土師質土器・京都系土師器などの小片が出土した。

まとめ

今次の調査では、府内古図・復元想定図などに描かれている第四南北街路が推定どおり確認できたことが最大の成果といえる。特筆すべきは、B区で検出したSX052及びSX100の遺構である。当該調査区が御北町・下町・中町の交差点付近に位置することから当遺構は木戸としての性格を有していた可能性がある。また、C区では道路に切り込んで柱穴やピットが構築されており、構造物が存在したことを示唆している。これらピット・柱穴は、北側の調査区であるD区では検出されておらず、復元想定図では館の北西部に該当することなどを考慮すると館を意識した構造物である可能性が考えられるのではないだろうか。道路下層遺構群であるⅠ期では井戸跡や土坑などが検出されたことから、道路構築以前は町屋として土地利用を行っていたものと推察できる。SD100やSD275、SD280などの溝状遺構は、柱穴やピットなどの検出状況などを踏まえ考察すると、溝状遺構西側にはほとんど展開しないことから最古段階の道路跡の側溝である可能性も十分に考えられる。SX144については、検出された地点が推定交差点付近に近接することから道路もしくは木戸を意識した遺構と思われる。調査区北側には対になる遺構は確認できないことから南側もしくは東側か西側に存在する可能性も否定できない。

来年度以降は、D区の北、A区の南側を調査する計画になっており、第四南北街路東端が確認される可能性がある。また、道路を掘り込む柱穴群の存在の有無、そして、遺構の出土状況及び機能など更なる調査の進展に期待したい。

(松尾 聡)

Ⅵ 中世大友府内町跡第33- 2 次調査

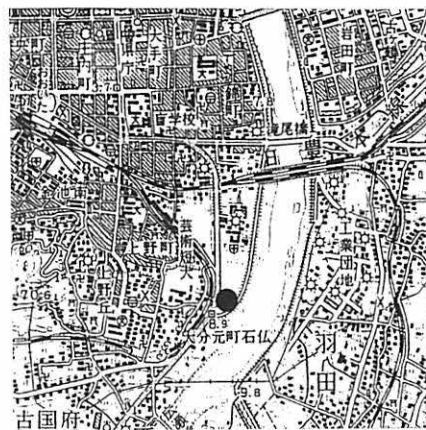
調査面積	450㎡	調査期間	2005.02.14 ～ 05.03.31
地 域	A	調査担当	佐藤道文・服部真和

33-2次調査区は平成15年度に実施した33次調査と同一地点である。前回、開発計画が持ち上がったが、その確認調査の内容から計画の見直しが図られた。今年度、再度個人住宅建築の申請が行われ、数回にわたる設計会社と文化財課の協議の結果、基本的に遺跡の大部分を盛土保存するかたちで合意が得られた。しかし、建物の構造上、基礎杭が入る一部については遺跡が破壊されることから、確認調査を実施することが必要となった。基礎杭は部分的であり、消滅する遺構は小面積であるが、地権者の協力のもと調査は面的に広範囲に行うことができた。

前は調査区を東西方向に縦断する溝状遺構（町33-2・33SD010）・柵跡などが検出されている。だが、その時期等については不明な点が多く、今回の調査ではその解明を目的として行っている。現時点では、町33SD010は底面から在地系土師器坏が出土しており、その形態的特徴か

ら15世紀代（前半か？）に位置付けられると思われる。また、溝埋土中位より、在地系のロクロ目土師器破片が確認されることから、15世紀代に掘削が行われ、埋没していると考えられる。調査区西端では南北方向に延びる溝状遺構がみつまっている。その位置関係から万寿寺につながる道路跡に付随する側溝の可能性があり、出土遺物をみると15世紀後半から16世紀前半には埋没していると推測される。その他、16世紀段階のものと思われる柱穴列（礎石建物含む）が確認されている。町31-2SX050・町33-2060は、約1m間隔で並列しており、規模、埋土の状況から同時並存していた可能性が高い。確実に16世紀後半～末段階に比定される遺構は町33-2SK020・023・110、町33-2SX018などの廃棄を目的とした大型の土坑のみである。その中で、町33-2SX018は朝鮮王朝産青磁香炉、中国産？黒釉陶器壺、備前焼花掛け入れなどが出土していることから、遺物組成の在り方について注目される。

今回の再調査では、15世紀段階に東西溝（町31-2SD010）が掘削され、15世紀後半には埋没、そして、南北溝（町33-2SD035・075）が造られることとなる。その南北溝も埋まった後、建物（柱穴列）が構築され、最終段階では本調査区は廃棄の場となることが確認され、「府内古図」に描かれていないエリアについても戦国期の遺構が存在し、中世府内町の広がりについて重要な所見が得られた。（佐藤 道文）



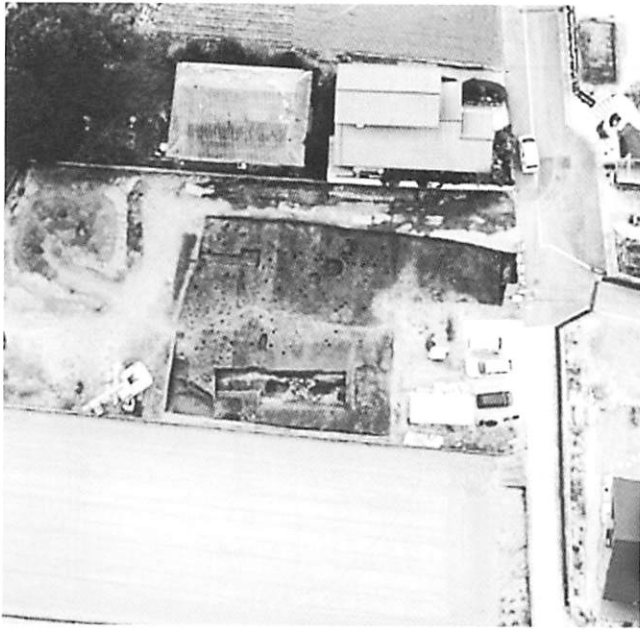
第24図 調査地点位置図



第25図 調査区周辺遠景



第26図 調査区周辺遠景（その2）



第27図 調査区全景（空中写真）



第28図 町33-2SD010全景



第29図 遺構配置図 (S=1/200)

中世大友
府内町跡
第33-2次調査

VII 中世大友府内町跡第44・44-2次調査

調査面積	120 m ²	調査期間	2004.06.28 ~ 04.08.20/04.11.18 ~ 05.01.11
地 域	A	調査担当	中西武尚・森岡晃司

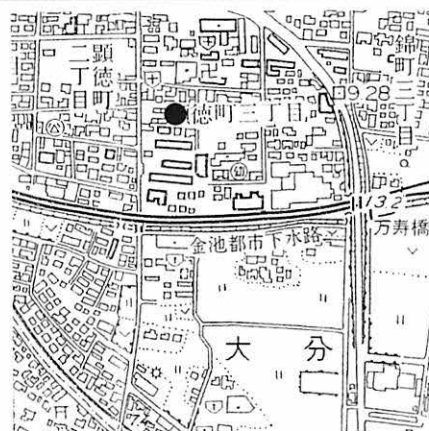
調査地は、推定大友氏館跡の西側中央と通称「第四南北街路」の間に位置し、推定御西町に比定されている地区である。明治時代初めの地籍図でみると、推定館跡西側外郭線と第四南北街路の間で東西方向に短冊状の地割がみられ、その推定館跡西側のほぼ中央の地割にあたる。推定大友氏館跡西側外郭線の確認及び周辺の状態把握を目的として調査を実施している。調査は敷地内の南側に設定した調査区を中世大友府内町跡第44次調査とし、その後、追認調査として同じ敷地内の北側部分に設定した調査区を第44-2次調査としている。

第44次調査

第44次調査では、調査地の東側から中央にかけて大きく削平されていた。東側で一部遺構が検出された地点をA区とし、それより西側の地点をB区として調査を実施した。基本層位としては、現地表-標高約4.7m、標高約4.0m前後までは宅地造成土などの客土がある。これより下位は近世以降の水田層となり、遺構検出面は標高約3.8~3.5mである。

A区では、東西方向を意識したと考えられる溝状遺構[町44SD010・015・020]や柱穴列[町44SA080・085]などが確認された。町44SD010は浅い溝状遺構で、さらに南に延びており、遺構北側の基底部には凹み状の長土坑が確認できる。南側では犬を埋葬したと考えられる遺構[町44SX030]が検出された。頭骨と背骨の間の上からは京都系土師器が出土し、その付近からも完形に近い京都系土師器が出土している。これらの遺物は犬埋葬時の共献品の可能性が考えられ、時期は16世紀後葉に比定される。町44SD010は大友氏館跡第2次調査で確認された16世紀中頃に比定されている溝状遺構[館2SD030]とほぼ同じ方向を示している。しかし、今回の調査で確認されている遺構は、溝状遺構というよりも掘り込みを伴う整地遺構と考えられ、上面に切り込んでいる遺構がみられず、推定館西側外郭線のほぼ中央に位置していることなどから西門を想定した時の通路としての可能性も指摘しておきたい。町44SD015・町44SD020は、町44SD010より古い溝状遺構で、幅約0.35m・深さ約0.15mと規模が小さく東側で途切れている。これらの北側には、町44SA080・085の柱穴列が確認された。町44SA080は、東西に2分間検出している。柱間は約2.0mを測り、軸線の方位は、E-5°20'16"-Sを示す。町44SA085は、東西に3分間検出している。柱間は同じく約2.0mを測り、軸線の方位は、E-3°25'30"-Sを示す。柱穴はどちらも深く、検出面から約0.5~0.7mを測る。現状では柱穴列と位置付けているが、調査区北側にさらに展開する可能性も考えられる。以上のようにA区からは、東西方向の区画を示すような遺構群が検出されるのみで、遺構密度としては希薄な状況であった。

B区ではA区と状況が異なり、整地層や複雑な遺構の切り合い関係、多数の柱穴群が検出されるなど町屋的な様相を示している。調査区の中央では、南北方向の溝状遺構[町44SD005]とそれに直交する東西溝状遺構[町44SD055]などの小区画を示すと考えられる区画遺構も確認できた。町44SD005の両側には平行していくつもの柱穴群が集中しており関連性が考えられる。この他、いくつかの柱穴列[町44SA090・095]や掘立柱建物跡[町44SB100]を確認している。調査区の制約上、いずれも全体の規模や配置などは不明である。町44SA090では東西に4分間検出している。柱間は約2.0mを測り、柱穴の平面形は方形を呈している。これらの遺構群や周辺整地層からは、京都系土師器をはじめ陶磁器類や瓦質・土師質の鍋・鉢などの生活雑器類、あるいは椀形滓なども出土してお



第30図 調査地点位置図

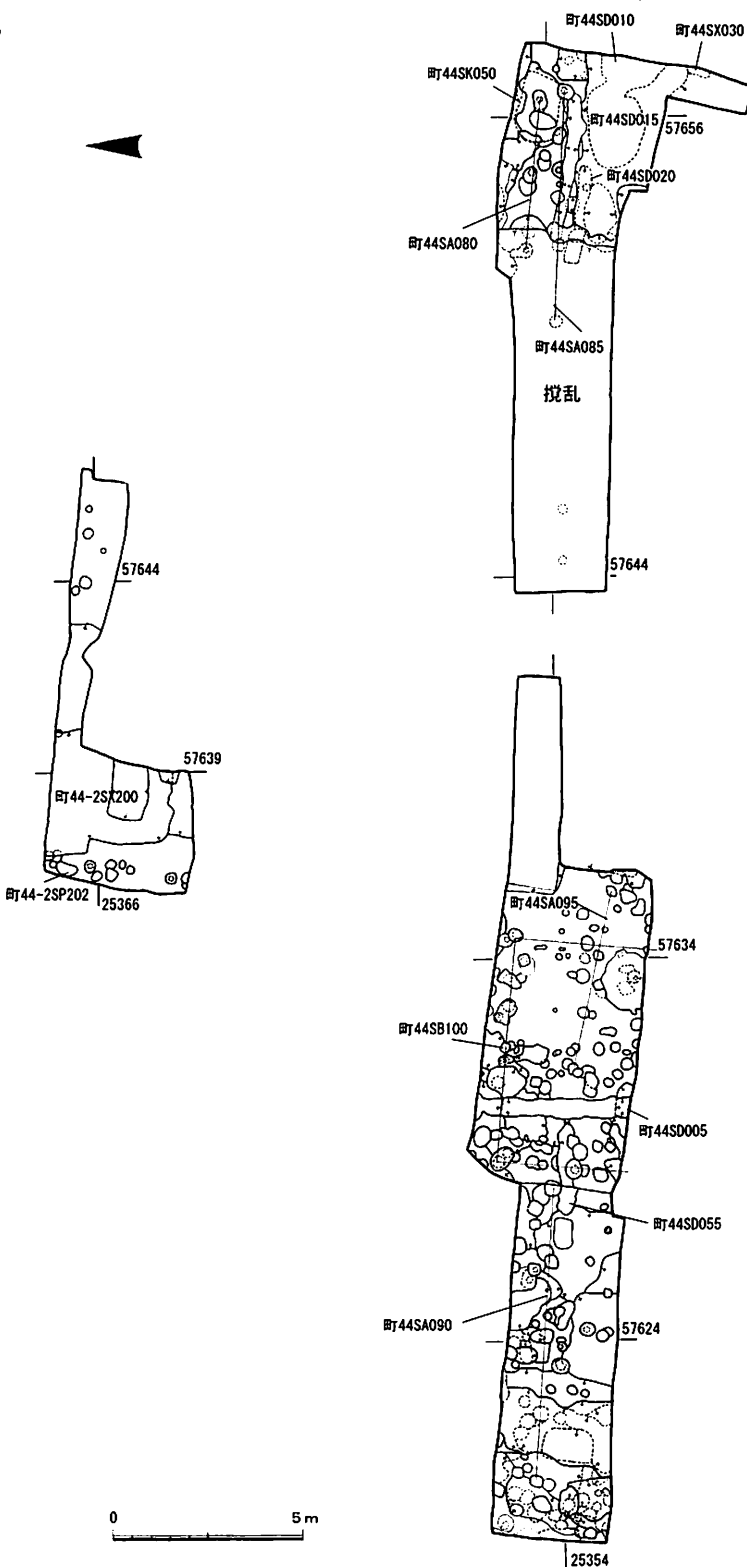
り、それら出土遺物からおよそ16世紀後葉を中心とした時期に比定される。

調査の結果、館西側外郭線についての明確な区画施設などは確認できなかった。しかしながら、A区とB区での遺構群の様相の違いから、削平をうけた部分に想定することも可能である。この場合、西側外郭線を示す遺構については小規模なものであった可能性が指摘できる。

第44-2次調査

第44次調査の結果をうけ、調査地の中央に存在する大規模な削平(攪乱)が終息すると考えられる北側部分について、幅1mほどのトレンチをあけて調査を実施した。その後、調査区西側で確認した溝状の遺構と考えられる町44-2SX200について、その部分を南側に拡張し遺構の性格について再度検討した。攪乱の範囲については、予想以上に広がっていたが、調査区の北壁で攪乱のおよんでいない安定面を確認した。攪乱により削平を受けている箇所は、現地表から約1.3m下(標高約3.3m)で遺構が閑散とした状況で検出されたが、本来は現地表から約0.8m下(標高約3.8m)で遺構が検出される。町44-2SX200は、当初溝状遺構と考えていたが、拡張した南側で完結した。現状での規模は、東西約3.0m・南北約3.2mを測る。深さは約0.3mで、埋土は硬くしまり、東西方向に石列が確認できる。石列は北側に面を合わせているように考えられ、埋土の状況と合わせて、なんらかの地盤強化的な遺構の性格が想定される。今次調査においても明確な成果は得られなかったが、今後、町44-2SX200の北側への展開状況やこの位置付けが重要になってくると考えられる。今回の2度にわたる調査からこの周辺が大友氏館の方二町拡張段階の西側外郭線になる可能性は否定できない。

(中西 武尚)



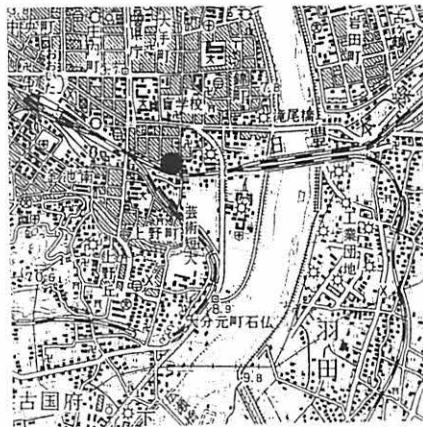
第31図 第44・44-2次調査区遺構配置図(1/200)

VIII 中世大友府内町跡第45次調査（推定中町周辺）

調査面積 約250㎡ 調査期間 2004.07.21 ～ 04.09.10

地 域 A 調査担当 佐藤道文・服部真和

調査地は、現況はアスファルト舗装の駐車場であった。この度、当該地への共同住宅建築計画に際し埋蔵文化財の照会が行われた。本地点は中世大友府内町跡、第四南北街路沿いに在ったとされるキリシタン関連施設の周辺地にあたり、そのため、大分市教育委員会では特に重要なエリアとして認識されている。昨年度、道路拡幅に伴う発掘調査が実施され、その中で、16世紀後半～末段階の大型建造物の柱穴遺構、15世紀後半～16世紀前半に位置付けられるロクロ目土師器埋置遺構などが発見されている。特に前者は、掘り方約1m以上を有し、柱痕跡から径約20～30cmを有す柱が想定される。配置も約7m間隔に直線的に並び、通常町屋にみられる構造物とは様子が異なる。このように、隣接地でキリシタン施設を窺わせるような遺構が確認されていることから、文化財課、地権者木寺三寸恵氏及び設計会社㈱三興住宅との協議の結果、共同住宅建築の事前に確認調査を行うことで合意した。ちなみに建物基礎は遺構面まで達することは無く遺跡は破壊されることなく保存されている。



第32図 調査地点位置図

遺跡の概要

調査区の基盤層は硬質で締まった黄茶褐色土（やや砂状を含む）である。この黄茶褐色土はA区（広い方）の中央から北側にかけては層厚が希薄で、下位に堆積する砂層が表出してくる状況であった。そのためか、建物を構成すると思われる柱穴群は中央から南側に多く検出され、砂層が顕著な部分は井戸跡や溝状遺構など水利に関連する施設が構築されている。調査区の北東部は多様な土壌が複雑に入り乱れていることから整地が行われたと考えられる。

検出された遺構は、柱穴列・井戸跡・溝状遺構・埋置遺構などが挙げられる。柱穴列は建物または柵跡の一部と考えられるが、調査区外へと展開することから全容については不明である。埋土は大きく焼土を含むものとそうでないものに分けられ、京都系土師器が出土するのは比較的前者に多い。おそらく2時期（段階）にわたって建物が存在したと推測される。井戸跡（町45SE010・012・025・065・070）はすべて16世紀末段階には埋没している。井戸枠が存在したものは1基（町45SE010）だけである。長細い板を組み合わせた結桶であったが残存状況は極めて悪かった（ちなみに湧水が激しかったことも留記しておく）。町45SE065・070は最終埋没土に多量の焼土塊が混入していた。窪地を利用した単なる廃棄遺構と考えられるが、井戸封じに焼土を利用する例があるか確認する必要がある。時期は薄手の京都系土師器が出土していることから、16世紀前半～中頃に位置付けられる。埋置遺構（町45SX030・035・040）は矮小な地点（B区）で3基東西方向に連続して検出された。町45SX040が最も残りが良く、甕の底部から体部下半が据えられた状態であった。甕は土師質で、復元すると器高が60cmを越えると推測され、大型品である。平底の底部から大きく逆ハ字状に開き体部へと至る。胴部は直立し、口縁部は断面長方形を呈す。現段階では類似資料は無く、今後、産地、時期等の詳細な検討を行ってゆきたい。この町45SX040の甕内部から華南三彩の魚形水注が出土している。時期は出土遺物及び層位から考えると16世紀末～17世紀初頭段階には埋没していると考えられる。溝状遺構（町45SD004）は調査区西側でみつまっている。南北方向に延びる。埋土から耕作に伴うものと思われ、出土遺物から近世以降に埋没していることが分かる。

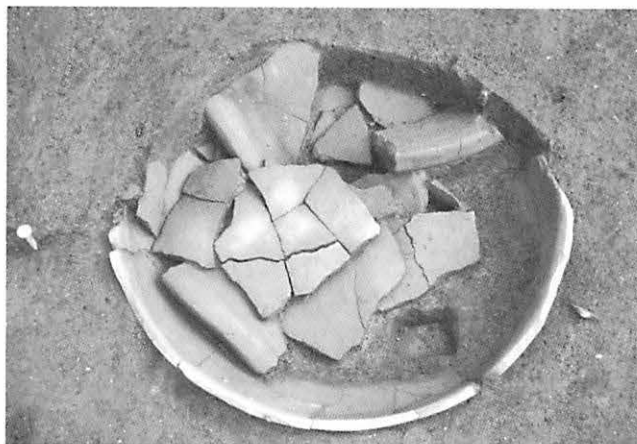
小結

今回の調査では、キリシタン施設の核心にまではいたらなかった。確認された柱穴群は比較的規格性があり、遺構密度も低いことから町屋的とはいえない。中心施設は礎石立ちであることが想定されるため、柱穴群の性格については、埋甕遺構同様、周辺調査と併せた第四南北街路全体の状況をふまえた上での今後の課題とされる。

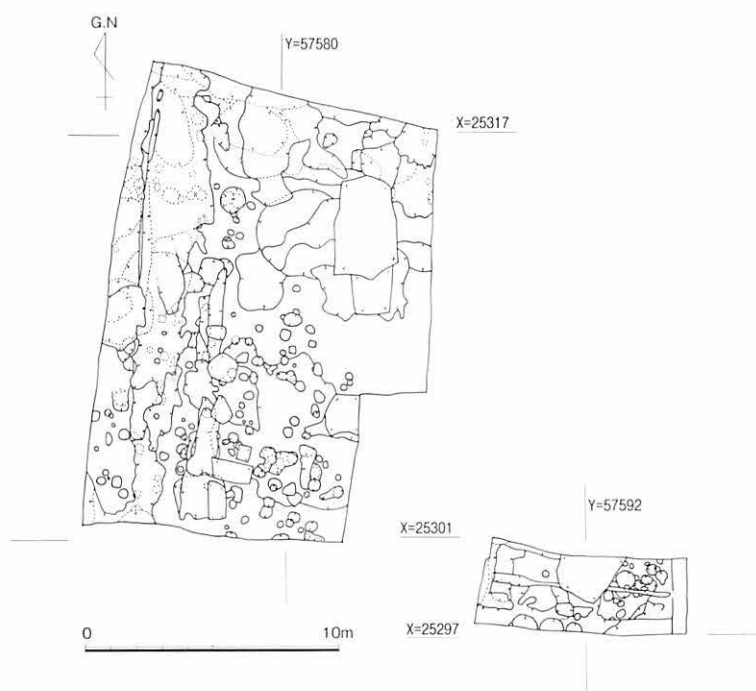
(佐藤 道文)



第33図 調査区全景（空中写真）



第34図 埋甕遺構詳細



第35図 遺構配置図 (S=1/300)

IX 中世大友府内町跡第46次調査

調査面積	90 m ²	調査期間	2004.08.09 ~ 04.08.16
地 域	A	調査担当	中西武尚・森岡晃司

当該地に駐車場の建設が計画され、事前の協議を行なったところ、掘削を伴わない盛土による工法であることが確認された。しかし、対象地は推定万寿寺跡の範囲内であり、その全体像を解明する上でも重要な地区である。このため地権者の同意と協力のもと、遺跡の状況把握を目的として確認調査を実施した。調査は、遺跡が破壊されないことが前提にあり、必要最小限度に留めて実施している。

調査地は推定万寿寺跡のほぼ中央で、推定南側外郭線のすぐ北側にあたる。周辺調査では第6次調査区の北側、第29次調査区の東側に位置する。調査地は畠として使用され、現地表面の標高は約6.2mである。そこから約0.2~0.4mの耕作土を掘下げると遺構検出面(標高約5.8~6.0m)となる。周辺調査地の検出面の標高は、第6次調査-約5.1m・第29次調査-約5.5mと今次調査地より低くなっている。おそらく現代の土地利用の差(水田と畠)とも考えられるが、今後の検証材料として記しておく。ちなみに推定塔跡の調査を実施した第24次調査では、検出標高約5.9mである。



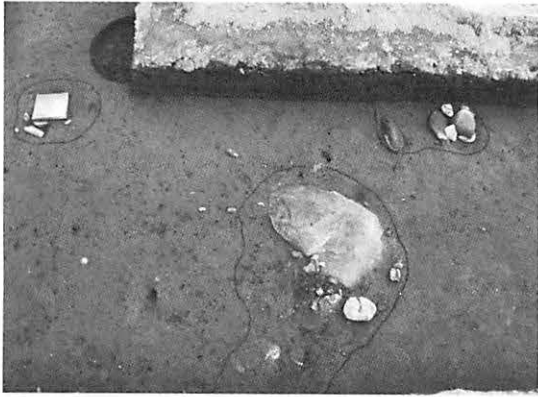
第36図 調査地点位置図

調査は、調査地の中央より東側に幅約2m・長さ約38mの南北に長いトレンチをあけて行なった。北側では一部東側に拡張し、また、調査地の南西隅についても幅約1m・長さ約9mの東西トレンチをあけて調査を行なった。調査の結果、南北トレンチの中央より南側で道路状遺構[町46SF001]を確認した。土層観察から砂利を多量に含む層を2面確認し、その下層からも砂利・砂を多く含む不定形遺構群を検出した。確実な道路幅は約6~7mを測るが、全体的に砂利を含む層が認められた。この町46SF001は、第29次調査の南側で確認されている道路状遺構の続きと考えられる。第29次調査では、14~15世紀の東西溝跡も3条確認されているが、今次調査では整地層があるためか確認できない。

その他の遺構としては、北側で建物跡[町46SB020]や小区画を示すと考えられる小規模な溝状遺構、礎石と考えられる巨石[町46SX010]、柱穴群などを検出した。町46SB020は、磚や礫を礎石とした建物跡と推測される。柱間は約2.8mと長く、拡張区で検出した柱穴は砂利を多く含み、本来は礎石あるいは磚が置かれていたと考えられる。このすぐ横で検出された町46SX010は、約0.5×0.7mを測る巨石である。礎石と考えられるが、周囲に対となるものがみられず、町46SB020との関連も推測される。また、南北トレンチの北側では一部深掘りを行い下層遺構の確認を行った。結果、西側に掘り込むプランを検出した。東西トレンチでは、西側に掘り込むプラン[町46SX025]を検出している。現状で幅約5mを測り、南北方向の溝状遺構の可能性が考えられる。

今回の調査では、ほとんど掘下げを行なっておらず、各遺構の性格や時期は不明なものがほとんどである。しかし、寺の施設と考えられる建物の一部が確認されたこと、推定南側外郭線のやや北側で東西道路跡が推定万寿寺跡の中央付近まで延びていることなど重要な所見が得られた。また、出土遺物に瓦片が多くみられることも寺域内であることを裏付けている。

(中西 武尚)



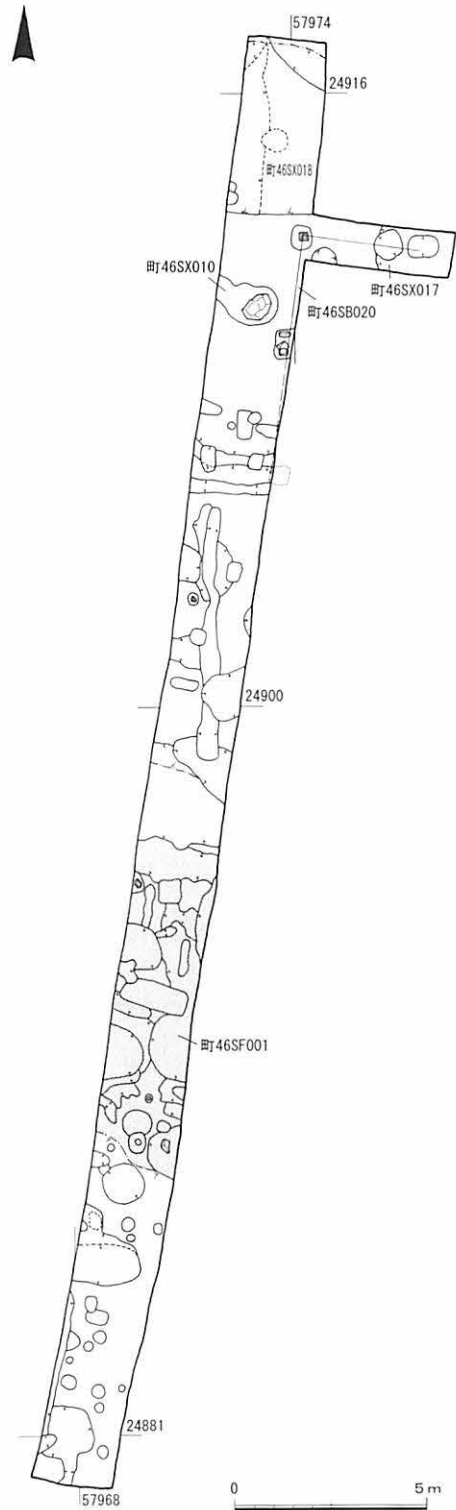
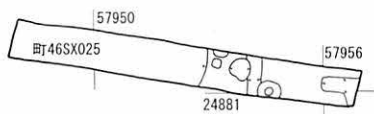
第37図 46SX010検出状況（西より）



第38図 南北トレンチ遺構検出状況（北より）



第39図 町 46SF001 土層観察状況（西より）



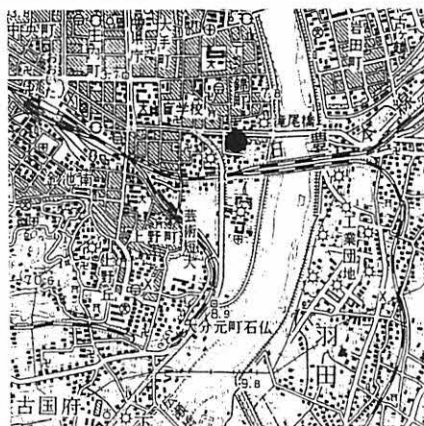
第40図 第46次調査区遺構配置図（1/200）

X 中世大友府内町跡第47次調査（推定称名寺）

調査面積 約34.5㎡ 調査期間 2004.09.16 ～ 04.09.30

地 域 A 調査担当 佐藤道文

調査地は、中世大友府内町跡における推定称名寺に該当する。以前はガソリンスタンドが所在しており、その後更地となっていた。今回、当該地に店舗が建設される計画が上がり、事前協議の結果、建物基礎が想定される遺構面まで達しないことが判明した。しかし、先述したように対象地は称名寺の範囲内で、未だその規模、構築時期等は不明な状況である。そのため㈱九州フードサービスの協力のもと、その解明にあたるべく確認調査を実施した。調査は、遺跡が破壊されないことが判明していることから必要最小限度に留めている（トレンチ配置から1区～3区と設定している）。



第41図 調査地点位置図

遺跡の概要

第47次調査区は、推定称名寺のほぼ中央部に位置している。南に約50mの離れた地点は中世大友府内町跡第11次調査区（県教委）にあたり、16世紀後半の道路状遺構や土塁状遺構が検出され、また井戸跡などの生活関連遺構も発見されている。遺構は客土の下位で確認される耕作土層（2層あり近世～現代のものと位置付けられる）を除去した後に確認した茶褐土を基盤として構築されている。調査区の南側（1区）では低湿地と思われる粘質土プランも認められ、全体的に土壌は水分が多く、湿度が高い状況であった。

検出した遺構は、中世後半のものとしては廃棄遺構（町47SX015）・土坑（町47SK005）・町47SX025などが挙げられる。

近世段階の遺構（溝状遺構：南北方向）はこれらの遺構は掘り込んでいることから、遺跡はその後、耕地化したと考えられる。町47SK005（1区）は径50cm程の廃棄土坑である。出土遺物には在地のロクロ目土師器坏、瓦質火鉢（炭手文）、塼、鉄釘などがある。15世紀後半～16世紀前半に位置付けられるが、火鉢の特徴から時期は降る可能性もある。町47SX015（2区）は在地系土師器（ハコ型）を大量に含む廃棄遺構である。完存するものも多数出土している。近年、館内外を問わず同様の土師器出土例が増加している。共伴する土器から従来の時期と齟齬が現れてきていることから、その編年作業が急務の課題である。

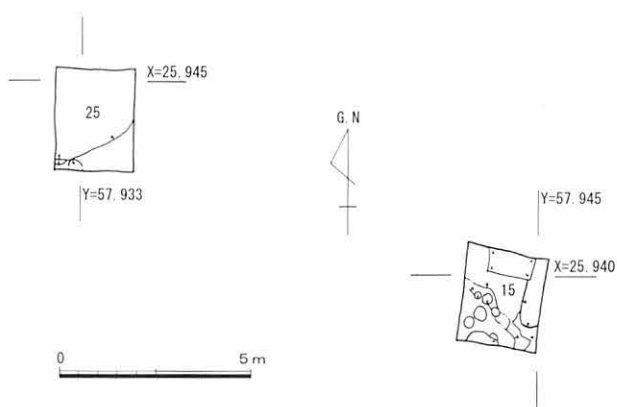
現状では14世紀後半～15世紀前半とされる。町47SX025は井戸跡と思われる大型土坑の一部である。上位に存する遺構からは瓦破片（焼成不良、二次被熱含む）、鋳型？などが出土している。16世紀後半には埋没している。

小結

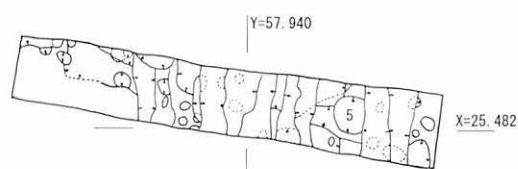
今回の調査からは、寺の構造を示すような遺構はみつかっていない。しかし、町47SX015が確認されたことは、町屋の状況とは様相が異なり、本調査区が15世紀段階にも寺域内であることが推測される。16世紀後半に機能していた遺構は検出されておらず、現状では当該期は空閑地と考えられる。このエリアの調査は、周辺と比べ情報量は少ないことから、今後の調査事例の増加することで、より具体像が描かれると思われる。（佐藤 道文）



第42図 復原想定図より



第44図 調査区全景



第43図 遺構配置図 (S=1/200)



第45図 調査区全景 (その2)



第46図 47SK005遺物出土状況



第47図 47SX015遺物出土状況

中世大友
府内町跡
第47次調査

XI 中世大友府内町跡第50次調査（推定ノコギリ町）

調査面積 約1㎡ 調査期間 2005.02.09～05.02.10

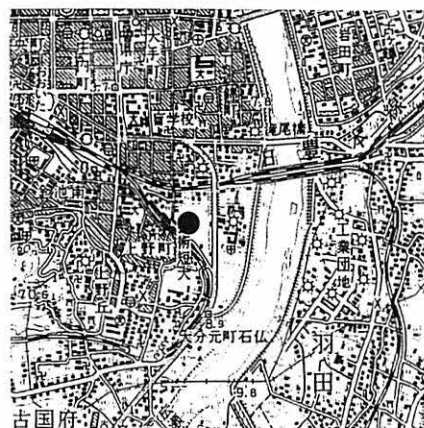
地域 A 調査担当 服部真和

中世大友府内町跡第50次調査は大分市六坊北町に位置し、「戦国時代府内復元図」によれば「御蔵場」の南西側にあたる「ノコギリ町」の街路が想定されている場所である。調査面積は約1㎡と狭い状況であったが、道路状遺構とそれに伴う側溝・石列・柱穴などの遺構群が確認された。

道路状遺構は、砂と砂利が薄く相互に積み重なっており、それが約10cmの厚みをもって堆積し硬化している。これに対し、砂と砂利の混じった硬化していない埋土が約40cm幅で带状に認められ（S-3）、これに並行するように拳大の川原石を一列に並べた石列が検出された。柱穴（S-1）は、道路状遺構の上面から掘り込まれており、平面形状は隅丸方形に近く、長辺は約50cmである。柱穴の底には根石と思われる拳大の礫がまわって検出された。埋土中からは京都系土師皿片・鶴の線刻入り瓦質の

（火鉢ないし香炉）が出土している。時期は16世紀後半から末段階と考えられ、道路状遺構が機能していた下限年代を考える判断材料である。

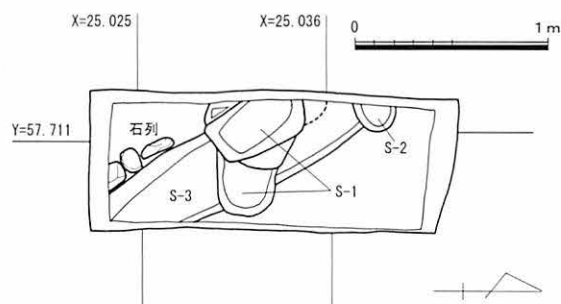
本調査区は、調査面積が極めて狭く制約があったが、先に述べた「ノコギリ町」の街路を確認し「戦国時代府内復元図」を追認できたことは重要な成果であった。（服部 真和）



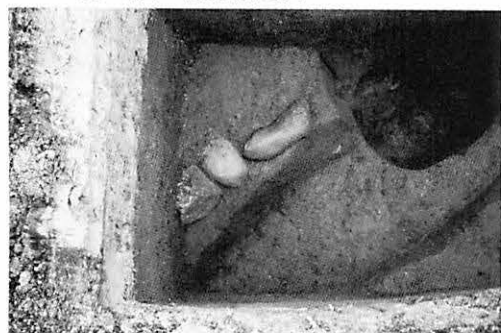
第48図 調査地点位置図



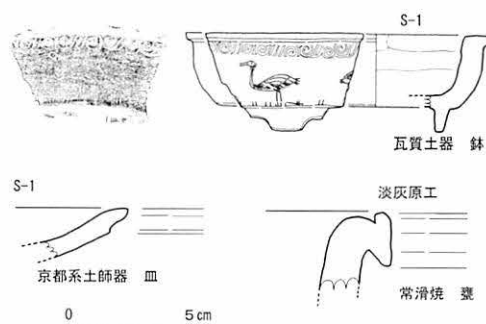
第49図 復原想定図



第50図 遺構配置図 (S=1/40)



第51図 調査区全景



第52図 出土遺物 (S=1/3)

XII 上野遺跡群（上野廃寺跡 2 次調査）

調査面積	92㎡	調査期間	2005.03.28 ～ 05.03.31
地 域	A	調査担当	後藤・山下・荻谷・服部・小住・森岡

<はじめに>

当調査地は、大分川西岸の上野丘陵上に位置しており、上野ヶ丘墓地公園の東側山裾部に所在している。調査は、民間のアパート建設に伴う事前の調査として実施したものである。今回の調査区は、平成10年度に、古代寺院跡と思われる遺構（版築基壇を有する建物跡）が確認された調査区の西側に位置しており、前回の調査では調査区外に延びていたために確認できなかった版築基壇の範囲を確認する事を第一の目的として調査を実施したものである。また、調査期間が短期間であった為、トレンチによる断面的な調査を主体に行った。

<調査概要>

標高33m前後で遺構検出を行った結果、黄色粘質土の版築状遺構を調査区西側において確認することができた。また、試掘トレンチ、攪乱の壁を利用した土層観察によると、この版築状遺構は、南北方向においては、平面での検出範囲よりも北側調査区外に広がっており、版築自体は後世の削平を受けていると考えられる。また、東西方向においても、版築状遺構は後世の削平か、基壇上面からの廃棄等による堆積なのかは不明であるが、平面の検出範囲よりも東側調査区外にひろがっており、版築状遺構の範囲確認には至らなかった。

基壇については、調査当初、平面の検出範囲が、平成10年度調査で確認された礎石建物跡の梁行の軸とほぼ同一方向であることや、東西方向での土層観察によると版築状遺構上面に数多くの瓦片が堆積する事から、瓦積み基壇の裾部付近と考えていたが、一部平面的に掘り下げを行った2・3トレンチにおいても、明確に基壇の範囲を確定できる遺構・石列等は確認することができなかった為、基壇の範囲についても確認には至っていない。おそらく東西方向における、版築状遺構上面の堆積土については、後世の削平によるものであり、基壇の範囲については、調査区西側に達していたものと考えられる。

調査中、多くの瓦片が出土しているが、瓦当を有する瓦片は、軒丸瓦・軒平瓦2点ずつ出土している。軒丸瓦は、平成10年度の調査においても確認された百済系単弁軒丸瓦と上野廃寺跡の独特の文様を有する複弁7葉蓮華文軒丸瓦である。軒平瓦については、1点は細片である為文様については、不明であるが、もう1点は、上野廃寺の独特な文様を持つ均正唐草文軒平瓦であると思われる。

（森岡晃司）



第53図 調査地点位置図



第54図 調査区全景（北側より）

上野遺跡群
(上野廃寺跡)



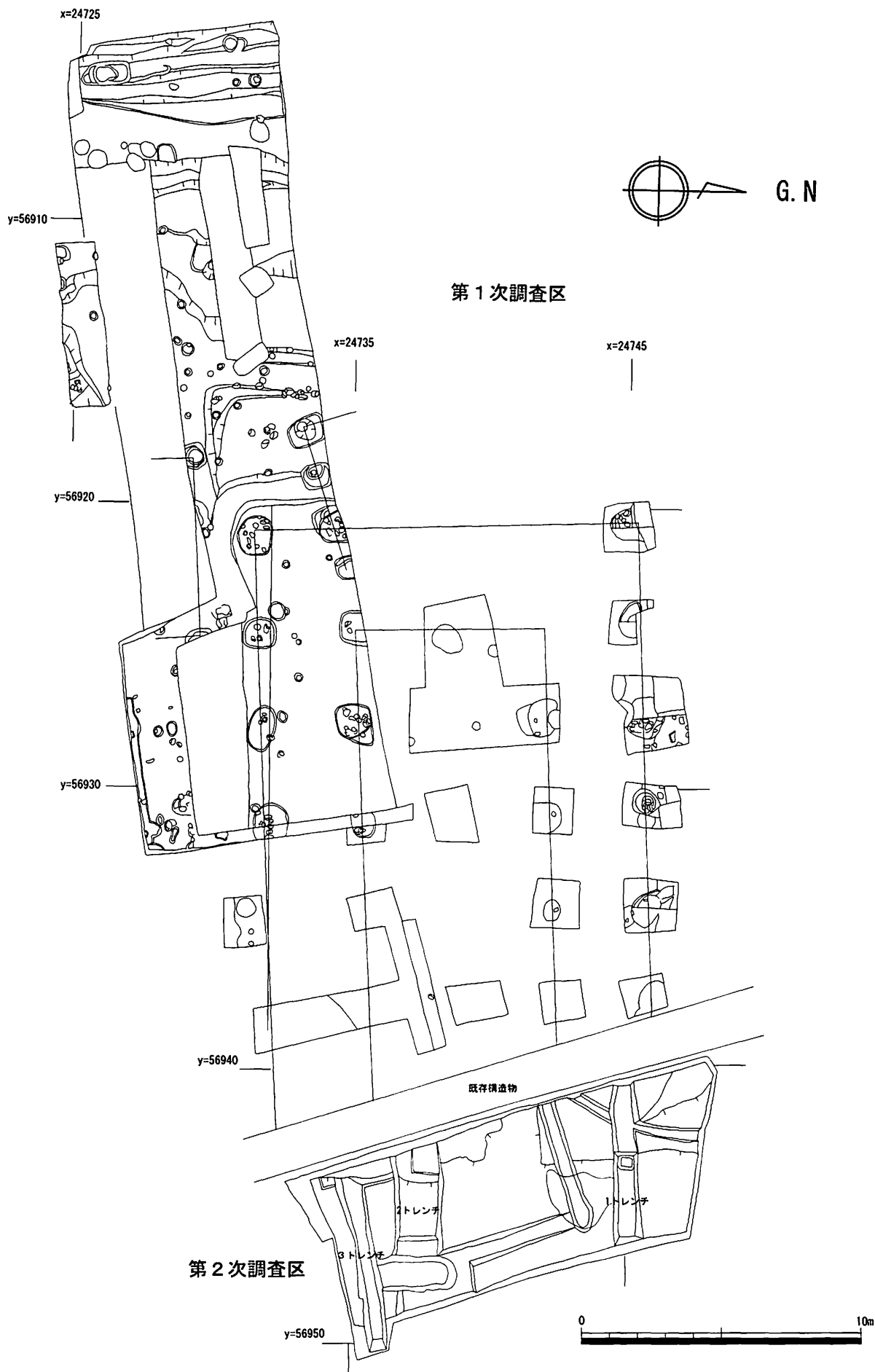
第55図 南北方向土層断面



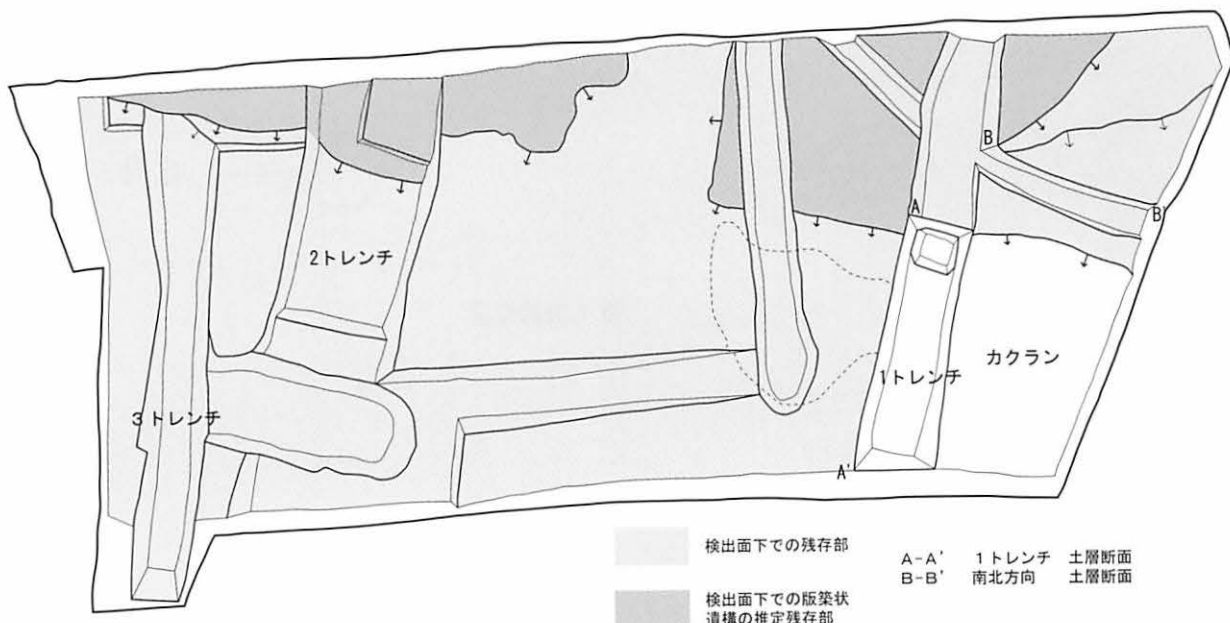
第56図 1 トレンチ南壁土層断面



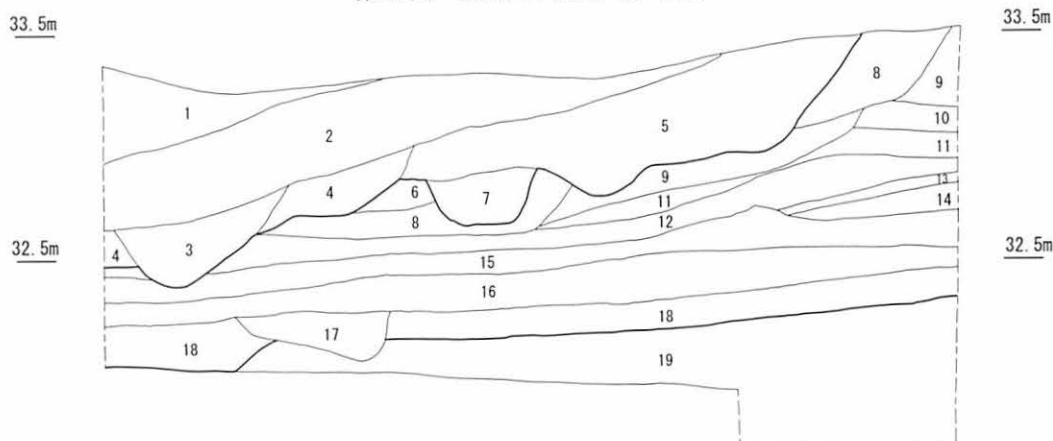
第57図 調査区位置図 (1/2000)



第58図 遺構配置図 (1/200)



第59図 調査区平面図 (1/100)



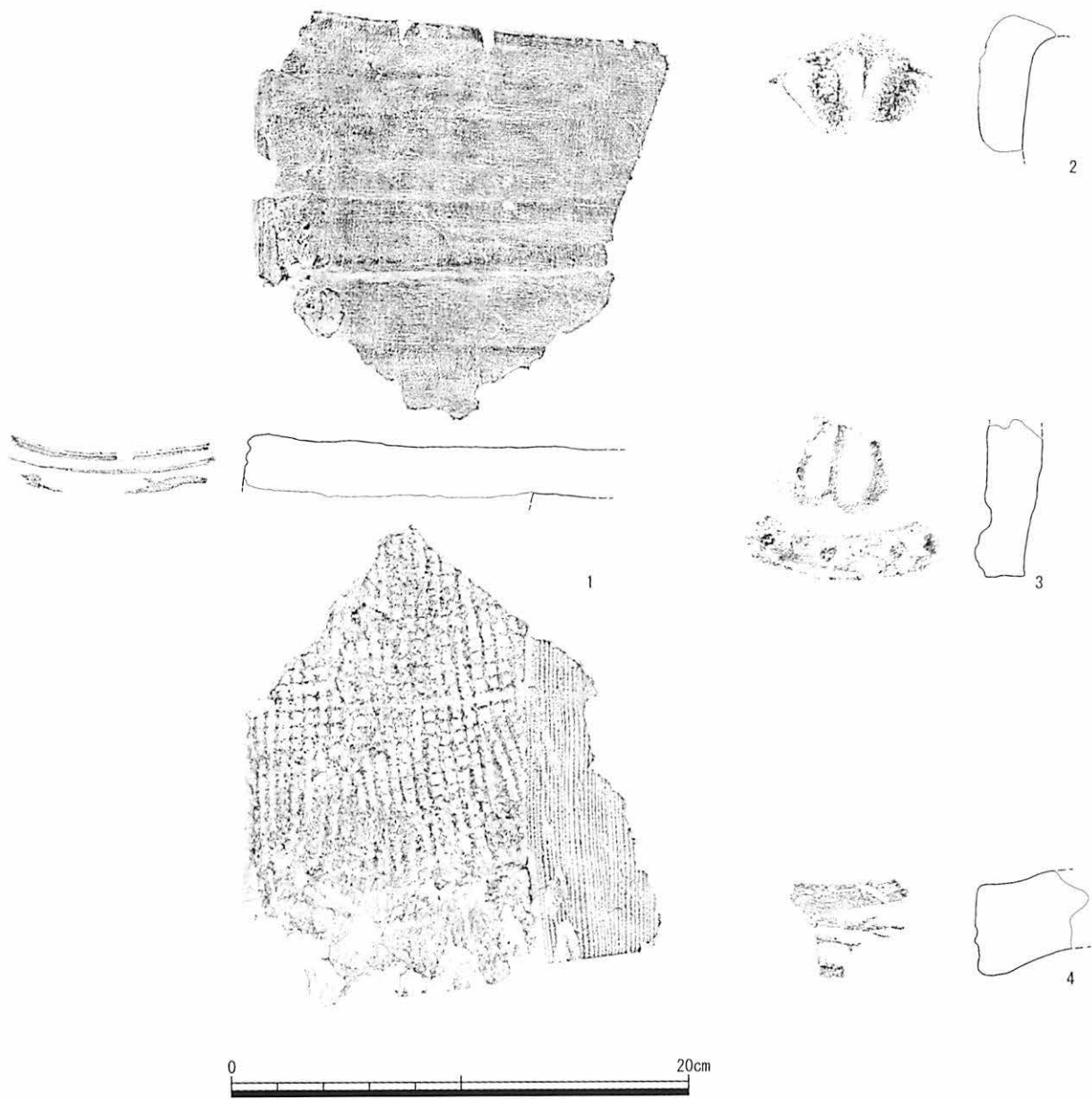
第60図 1トレンチ南壁土層図 (1/30)

- | | | |
|--|------------------------------|------------------|
| 1, 暗茶褐色粘質土
(近現代の積み土、宅地造成による攪乱の影響あり) | 6, 暗茶黄色粘質土 (橙色・白色粒子を少量含む) | 14, 黄色粘質土 (版築基壇) |
| 2, 暗灰褐色粘質土 (瓦片を多く含む) | 7, 暗茶黄色粘質土 (瓦片、橙色・黄色粒子を少量含む) | 15, 黒色土 (版築基壇) |
| 3, 暗茶褐色粘質土
(瓦・土師器片を少量含む、黄色・白色粒子を多く含む) | 8, 茶黄色粘質土 (黄色・白色粒子を少量含む) | 16, 黄色粘質土 (版築基壇) |
| 4, 暗黒褐色粘質土 (黄色・橙色粒子を少量含む) | 9, 黄色粘質土 (版築基壇) | 17, 黒色土 (版築基壇) |
| 5, 暗灰褐色粘質土
(瓦・土師器片を多く含む、橙色粒子を微量含む) | 10, 黄色粘質土 (版築基壇) | 18, 黒色土 (版築基壇) |
| | 11, 黒色土 (版築基壇) | 19, 黒灰色土 (地山) |
| | 12, 黄色粘質土 (版築基壇) | |
| | 13, 黒色土 (版築基壇) | |



- | | | |
|---|---|--|
| 1, 淡灰茶粘質土
(白、橙、黄色粒子を多量に含む) | 4, 暗茶黄粘質土
(黄色粘土ブロックを多く含む
白、橙、黄色粒子を少量含む) | 7, 淡黒灰色土
(黄色粘土を少量含む) |
| 2, 淡茶黄粘質土
(白、橙、黄色粒子を多量に含む) | 5, 暗灰粘質土 | 8, 淡灰黄粘質土
(しまりやや強い 黄色粘土・黒色土ブロックを多く含む) |
| 3, 暗灰茶粘質土
(白、橙、黄色粒子を多く含む
瓦片・礫を多く含む) | 6, 暗灰黄粘質土
(しまり強い 黄色粘土ブロックを多く含む) | 9, 黄色粘質土
(しまり強い 黒色土・灰粘土ブロックを少量含む) |

第61図 南北方向版築状遺構土層図 (1/30)



第62図 出土遺物実測図 (1/3)



第63図 2 トレンチ遺物出土状況 (西より)



第64図 軒平瓦出土状況 (西より)

上野遺跡群
(上野廃寺跡)

XIII 大道遺跡群 7 次調査

調査面積	118㎡	調査期間	2004.01.10 ~ 04.09.28
地 域	A	調査担当	高 畠 豊・羽田野達郎

大道 7 次調査

当調査区は、大分市東大道 1 丁目、上野台地北側の沖積低地に位置する。調査区の周辺においては、南金池遺跡、東田室遺跡、大道遺跡群等の発掘調査が進められ、概ね弥生時代から古代に属する遺物、遺構群が報告されている。また、周辺は大道条里跡に比定されている。このような歴史的環境の中、調査は、実施され、その結果、古墳時代の土坑を一基確認している。以下、主要遺構を列記する。

古墳時代

土坑（S002）

S002は、古墳時代初頭の廃棄土坑で、甕、壺、高坏がほぼ完形に近い形で多数出土している。遺構の平面形態は、円形で、最大幅は、約6.5mで、深さ約0.5mである。土層は、黒灰褐色粘土層を主体とする。

溝状遺構（S001）

S001は、溝状遺構で、最大幅は、約6.5mで、深さ約0.5mである。遺物は出土しているが、時期を確定できる遺物の出土がなかったため遺構の時期は不明である。

以上の調査所見から、当調査区域は、遺構の存在が認められていない区域だったが、廃棄土坑等の遺構が確認出来たことから、周辺域に遺構が展開する可能性が考えられる。また、大道遺跡群で確認される廃棄土坑の状況として、検出される遺構の数は、少ないが、遺構に廃棄されている土器の点数が多いということが見てとれる。

（羽田野達郎）



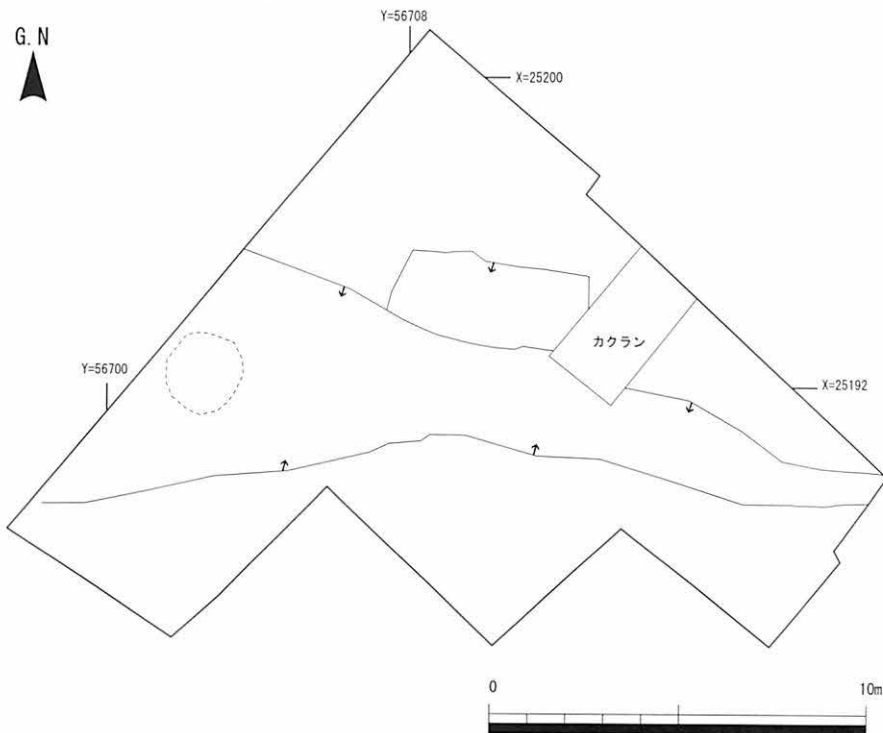
第65図 調査地点位置図



第58図 調査区全景（東側より）



第66図 遺物出土状況



第67図 遺構配置図（1/200）

XIV 大道遺跡群 8 次調査

調査面積	1170㎡	調査期間	2004.11.01 ～ 05.02.28
地 域	A	調査担当	高畠 豊・羽田野達郎

大道 8 次調査

当調査区は、大分市東大道一丁目、上野台地北側の沖積低地に位置する。調査区の周辺においては、南金池遺跡、東田室遺跡、大道遺跡群等の発掘調査が進められ、概ね弥生時代から古代に属する遺物、遺構群が報告されている。また、周辺は大道条里跡に比定されており、条里地割の線は、N-35°-Eであると考えられる。

このような、歴史的環境の中、調査は実施され、その結果、古墳時代の古代では、溝状遺構を一条、近世の土坑が一基確認している。以下、主要遺構を列記する。



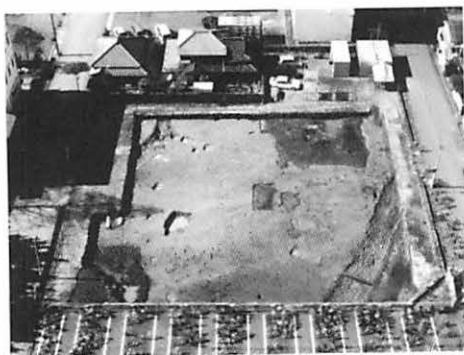
第68図 調査地点位置図

古代

溝 (S001)

S001は、4次・5次調査に接続する溝で、遺構の残存状況は良い。最大幅は、約6.5mで、深さ約0.5mである。大部分は、黒色土によって覆われていた。遺構の断面形状はゆるやかなU字形であった。土層断面においては、下層において、砂質土の堆積が非常に顕著であり、鉄分沈着による硬質化が認められることから、水の流れが存在していたことが推測される。出土遺物には、土師器坏、土師器蓋、土師器甕があげられ、遺構は古代の時代の所存であると考えられる。

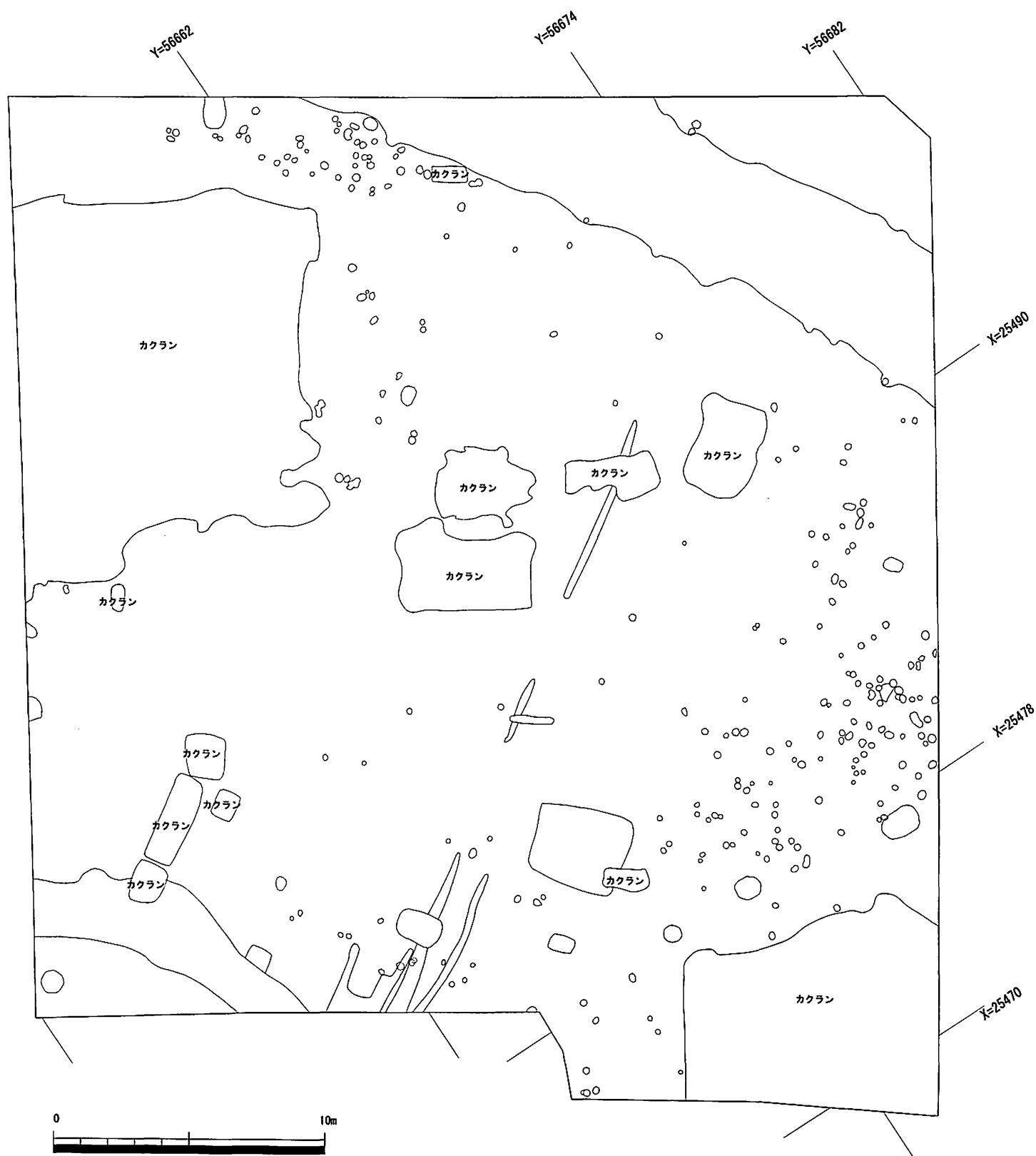
以上の調査所見から、平安時代初頭を中心とする古代の遺構が検出された。今回調査においても、4次調査・5次調査で確認された溝SD003に接続する遺構 (S001) を検出している。この溝からは、4次調査に緑釉陶器や灰釉陶器・平瓦が出土している。これについては、調査地が、国衙比定地と至近にあることに加え、瀬戸内海に面した河口部の微高地上という交通の要地に立地していることを考慮して理解する必要があると考えられる。なお、溝は、水路と考えられるが、調査地の西に比定される大道条里跡のN-35°-E、とは大きく異なっており、条里との直接の関連はうかがえない。また、これまで出土した大道遺跡群内において建物や溝についても今のところ大道条里跡と一致する方向のものは認められない。古墳時代については、4次調査の表土剥ぎ時に古墳時代初頭に位置づけられると見られる鏡片が出土した。当該期の遺構は少ないが、5次調査で古墳時代初頭の土器が多量に廃棄された土坑が5基出土しており、今後の調査に期待される。今後、数年で旧グラウンド全域と周辺 (西側・北側) を広く調査していく予定である。(羽田野達郎)



第69図 調査区全景 (東側より)



第70図 S001検出状況 (西側より)



第71図 大道8次調査遺構配置図 (S=1/200)

XV 玉沢地区条里跡第9次調査

調査面積 2870m² 調査期間 2004.11.08 ～ 05.03.29

地 域 A 調査担当 高畠 豊・奥村義貴・松竹智之

調査地点は玉沢地区糸里跡の南西部にあたり、付近には糸里地割を明瞭に残す水田が広がっている。今回の調査は、組合施工による植田中央土地区画整理事業に伴い、都市計画道路市・玉沢線の路線範囲について、受託事業として発掘調査を実施したものである。平成16年5月～7月に事業予定地全域での確認調査が実施され、その結果、今回の調査対象地は舌状に張り出す微高地とその間に挟まれた低地が交互に分布しており、低地には古代以前の水田が存在することが確認されていた。

調査は、調査期間を考慮し、中世以降の水田土層までを重機により掘削し、古代ないしそれ以前の水田遺構と、これと同時期に存在した微高地上の遺構群を確認することを主目的として行った。

古代と推定される遺構

調査の結果、低地においては、古代に属する可能性のある明確な畦畔を伴う水田面を1面確認した。大畦畔は、調査区中央の低地1で検出されたが、微高地1と微高地2に挟まれた谷状の地形を直線的に横切っており、方位はN-73°-Eである。西端部では南西→北東の段落ちとなっているが、その他では明確な盛り土が残存しており、畦畔よりも南側の水田面との比高約10~20cm、北側水田面との比高約50cmに及んでいる。基底面幅は1.5~2.5mをはかる。この他、低地1ではこれと直行する小畦畔が検出され、低地2でも同一と考えられる層位で小畦畔が検出されている。これらの畦畔に伴う水田面においては、低地1の東部で、この面を直接覆っている洪水層（黄褐色シルト）が確認された。またこの層により埋積した動物の足跡も水田面上で多数検出されている。この水田面や、大畦畔からは、古墳時代の遺物が出土しており、古代以降の遺物は出土していない。しかし大畦畔は、地形に制約されず直線的に構築されており、さらに現存する条里地割の方位N-72°-E~N-74°-Eともよく一致していることから、条里が施行される古代以降の可能性が高いと考えられる。

古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構としては、微高地で竪穴住居4棟、溝2条が検出された。竪穴住居はいずれも方形で主柱穴は2本である。竪穴住居群とSD008については、概ね布留式の時間幅におさまるものと推定される。このうち、SH010はベッド状遺構を有する住居である。炭化材が多量に出土しているが、出土状況から焼失住居ではなく、他の場所で焼けた部材を廃棄したものと思われる。床面に掘られた小土坑からは、朱がまとまって出土しており注目される。また、出土した土器の中には焼成時に内部から破損したいわゆる「破裂土器」が出土しており、付近で土器が焼成された可能性を示唆している。

低地 1 では、先述した水田面の下層から不明瞭ながら畦畔を伴う水田面を確認した。この土層より下層は自然堆積の粘土層であり、人為的な攪拌は認められなかった。この水田土層中からは微高地上の竪穴住居群とほぼ同時期の土器が出土しており、古墳時代前期には水田化されたものと推定される。なおこの土層中から、木製の鼠返しが出土しており、当該期には周辺に高床式の建物を有する集落が存在したものと推定される。

今回の調査では、玉沢地区条里跡における微高地と谷部低地と調査することで、同時期の集落と水田とを明らかにすることができたが、大畦畔の施行時期すなわち玉沢地区の条里地割の成立時期については問題点を残すものとなった。本地域の条里施行時期についてはさらに検討が必要である。（高畠 豊）



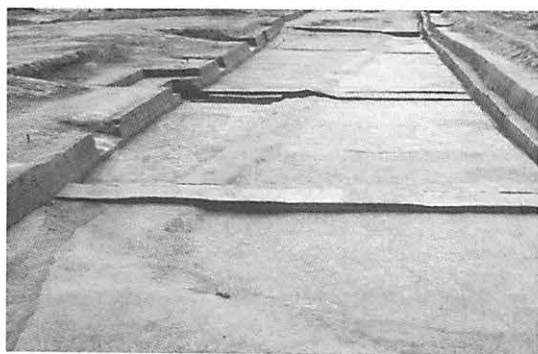
第72図 調査地点位置図



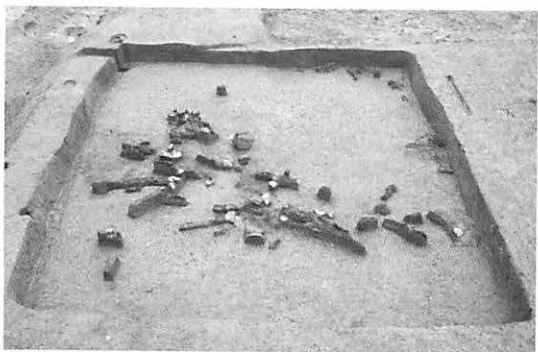
第73図 調査区全景空中写真（西から）



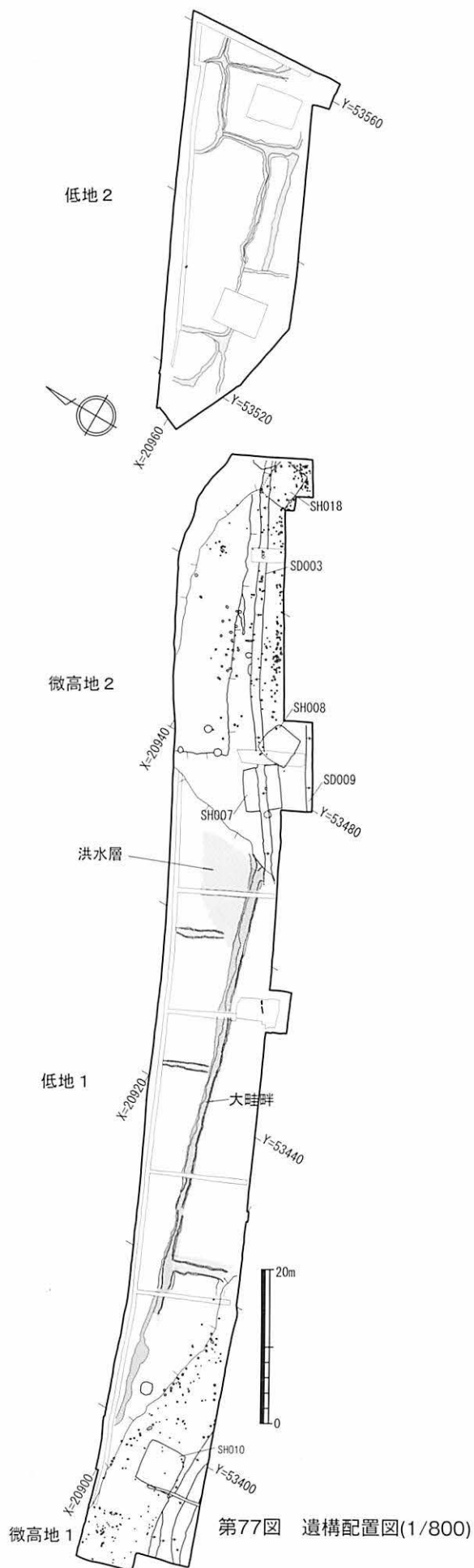
第74図 最下層鼠返し出土状況（東から）



第75図 大畦畔検出状況（東から）



第76図 SH010遺物出土状況（東から）



XV I 宮苑井ノ口遺跡（第2次調査）

調査面積 約1,049㎡ 調査期間 2004.05.06～04.12.13

地 域 B 調査担当 塔鼻光二・荻 幸二

今回の調査は平成14年度から続く賀来西区画整理事業に伴う市道建設工事の事前調査として実施した。調査期間は、平成16年5月6日～12月13日である。

調査の結果、弥生時代から古墳時代初めにかけての集落跡、墓地、生産地である水田跡がセットとなる良好な遺構群が検出された。なお、開発計画に、調査区をⅠ区・Ⅱ区・Ⅲ区と分けて調査を行った。

以下、主要遺構について述べていく。

第Ⅰ調査区

県教育委員会が調査を実施した部分を挟むように南北方向に延びる約550㎡の調査区を設定し、北側をⅠa区、南側をⅠb区と呼称した。

Ⅰa区南端及びⅠb区で住居跡20基、焼土坑が11基、甕棺墓が1基、土坑が11基、柱穴が多数検出された。

水田遺構においては、Ⅰa区では近世水田の下面に4枚の水田が確認された。その水田に伴う10条の溝状遺構及び畦畔が確認されたが、近世の水田床土層の鉄分やマンガンの影響で検出が困難であった。

住居跡群の時期は、出土遺物の年代比定によると弥生時代中期から古墳時代前期の所産と考えられる。

第Ⅱ調査区

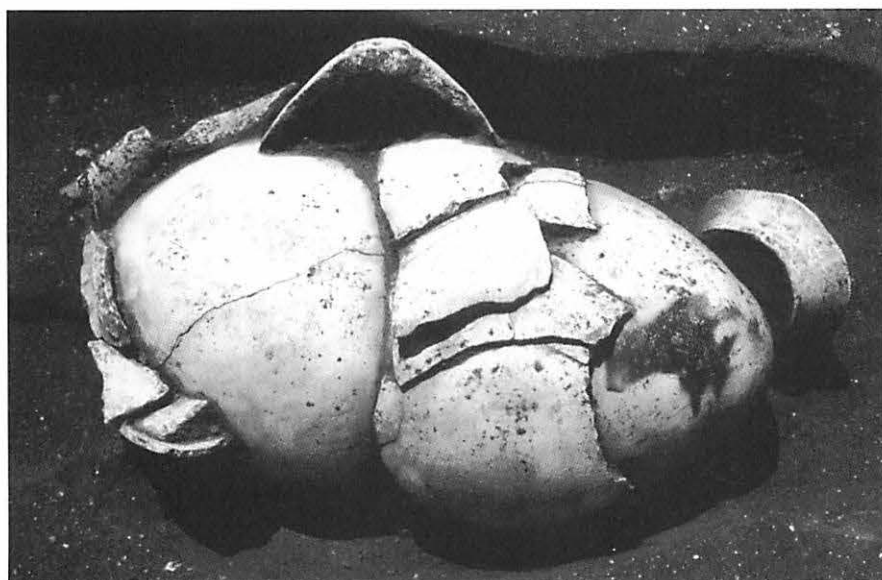
開発計画に、調査区を分割しⅡa区・Ⅱb区と呼称している。

Ⅱa区の調査面積は、約97㎡である。調査の結果、近世水田の下面に12～13世紀代の遺物を包含する第1号水田層と第2号水田層が確認され、それに付随する畦畔や取水口などが検出されている。

第1号水田においては、畦畔が2条、耕作痕が1条検出された。第2号水田においては、南北方向の畦畔が6



第78図 調査地点位置図



第79図 第Ⅰ調査区第1号甕棺墓（東方向より）

条、東西方向の畦畔が5条確認され、水口が6本検出された。

Ⅱb区の調査面積は、約152㎡である。調査の結果、近世水田の下面に12～13世紀代の遺物を包含する2枚の水田層と9世紀代の遺物を包含する水田層とそれぞれに付随する畦畔が検出されている。

第1号水田では、9条の畦畔が検出され、耕作痕が確認されている。第2号水田では、畦畔は確認されなかったが、牛の足跡が検出されている。第3号水田では、10条の畦畔が検出されている。

第Ⅲ調査区

調査面積は約250㎡である。調査の結果、調査区の大部分において、近世の水田下面に4枚の水田層とそれに付随する施設が検出されている。水田層は、12～13世紀代の遺物を包含する水田層が2枚、9世紀代の遺物を包含する水田層が2枚である。

第1号水田では、5条の畦畔が確認された。第3号水田では、15条の畦畔、畦畔に伴う溝状遺構を1条、取水口と考えられる溝状遺構を9条確認している。

まとめ

本遺跡が形成された、沖積平野はこれまでの調査成果から、地下には複雑に旧河道が走っていることが判明している。河川は洪水を起こす度に変遷していくものであるから、当平野では頻繁に洪水が起こっていたことが想定される。すなわち、河道の変遷とそれに伴う地形変動から土地利用の様相が解明できるといえる。

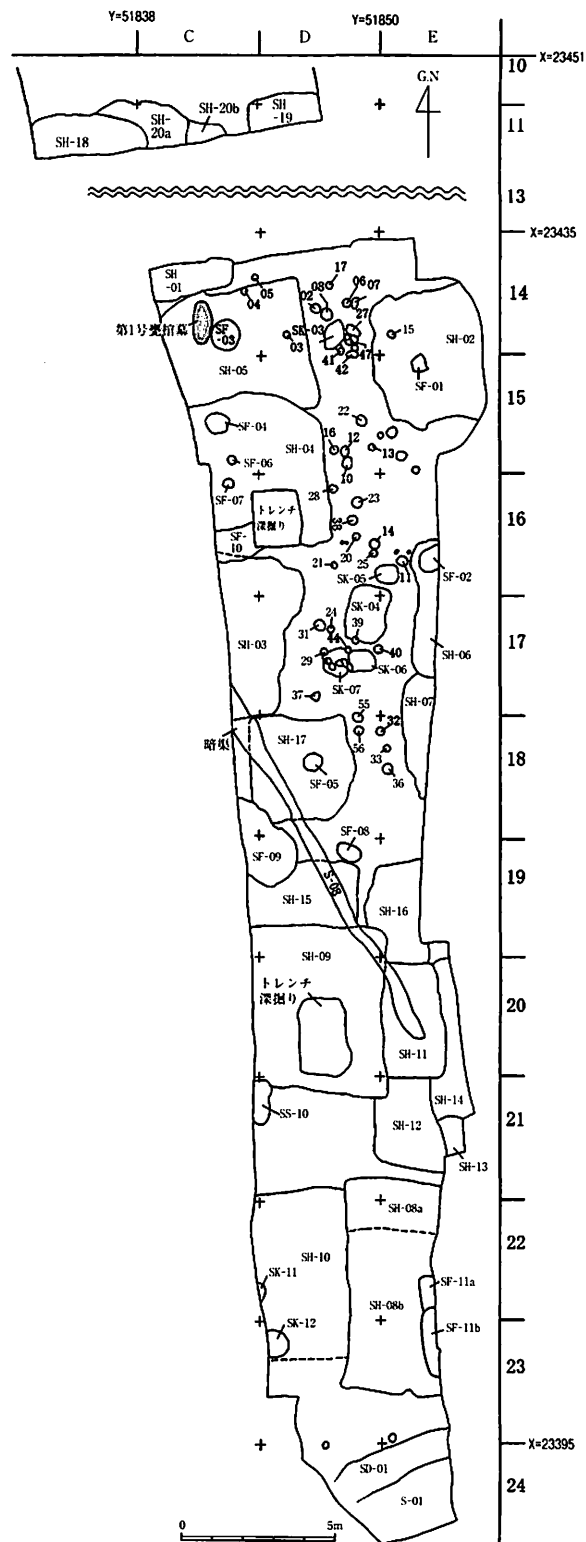
第Ⅰ調査区は、旧河道で形成された地形を利用して、北側の緩斜面を水田域、南側の微高地を集落域という土地利用を機軸とし、弥生時代後期～古墳時代前期はその間に墓域が形成されるなどの土地利用が確認された。

第Ⅱ・Ⅲ調査区でも、旧河道の中州、ポイントバーで形成された微高地と河道の斜面を利用して、水田が形成されていることが確認された。

今回の調査においては、本地区の具体的な人々の営みの状況を明らかにするとともに、大分地域の沖積地開発の歴史を紐解く上で大変重要な成果を得ることができたといえよう。(荻 幸二)

参考文献

大分市教育委員会2005『宮苑井ノ口遺跡 第2・3次発掘調査報告書-大分市都市計画事業賀来西地区区画整理事業に伴う発掘調査報告書-』



第80図 第Ⅰ調査区集落遺構配置図

XV II 横尾遺跡第92次調査 D-36地点

調査面積 約600㎡ 調査期間 2004.04.22～04.06.30

地域 E 調査担当 塩地・古川・衛藤・岩尾・山本

調査地は、大分市大字横尾字有田に位置し、乙津川左岸に沿って南北に広がる鶴崎台地東端の尾根状先端部にあたる標高約30m地点に所在する。調査区北側には古墳時代中期に比定される円墳2基と石蓋土墳墓1基が確認された有田古墳群が隣接し、調査区東側に位置する第88次調査においては古墳の周溝である可能性の高い周溝遺構が検出されており、当該地一帯に古墳群の存在が示唆される。また、有田古墳群の北側には、丘陵の東側に向けて谷が開口しており、この一帯に横尾貝塚ならびに縄文時代後期前葉頃に比定されるドングリ貯蔵穴群や、縄文時代早期末頃に比定される「水場の遺構」等が確認された第82次調査地が所在する。今回の調査については、先述した谷の西側丘陵部における縄文集落の検出をはじめ、一帯に広がる古墳群の範囲確認さらには、各時代の遺構分布状況の把握を目的として行われた。調査を実施した結果、暗茶褐色土を基盤面として多数の遺構群が検出された。



第81図 調査地点位置図

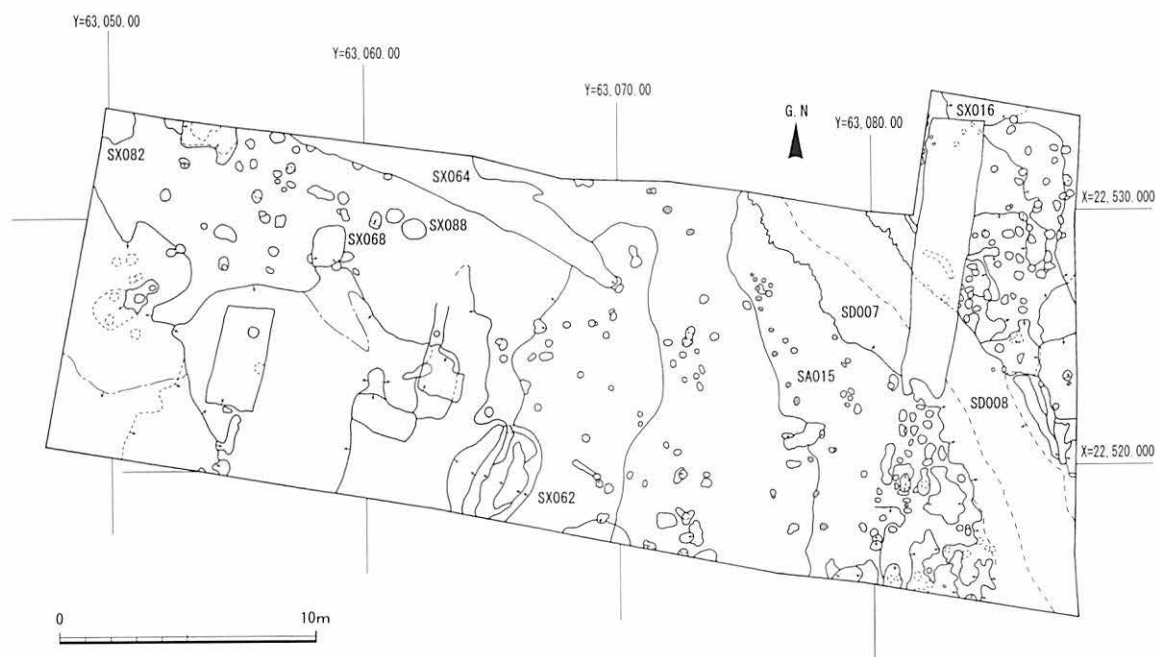
以下に、今回確認された各時代の遺跡様相についてまとめる。

古代

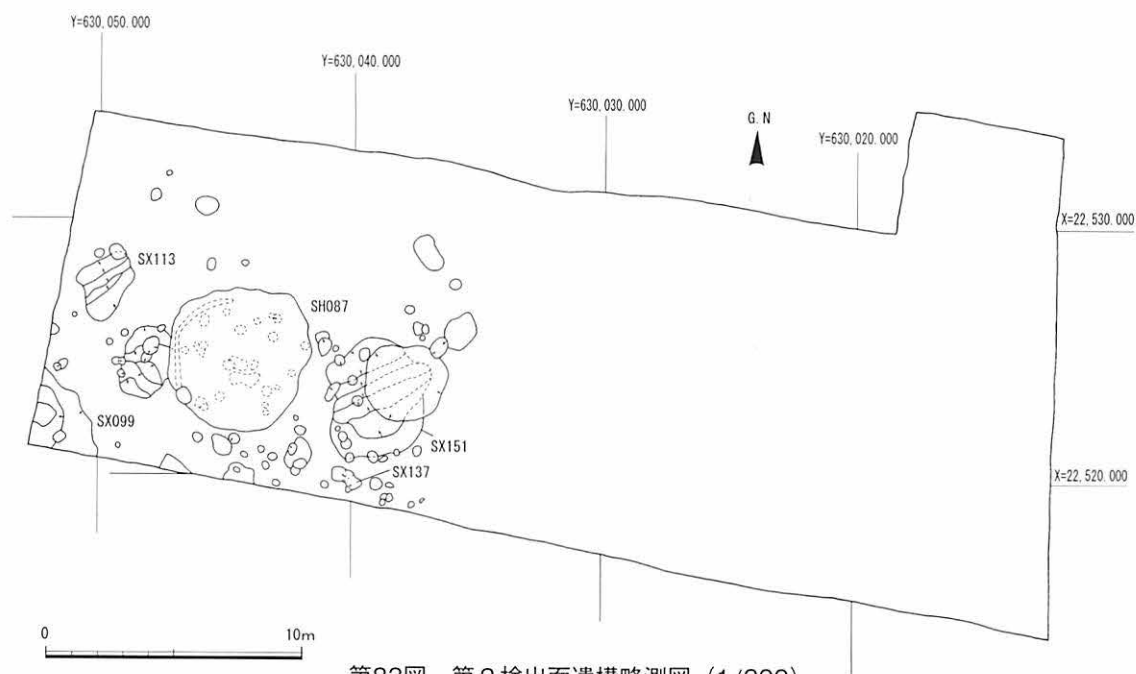
当該期の遺構としては土坑、竪穴住居跡などが確認されている。

土坑 (SX068) 平面隅丸方形プランを呈す。土墳墓の可能性が示唆される遺構である。埋土は2層に分層され、上層は暗茶色ブロック土、下層は黒茶色ブロック土である。暗茶色ブロック土中より骨片らしき小破片を採取しており、分析の結果が期待される。埋没年代については、出土遺物が土師器の小片数点のみであり、詳細に

横尾遺跡
第92次調査
D-36地点



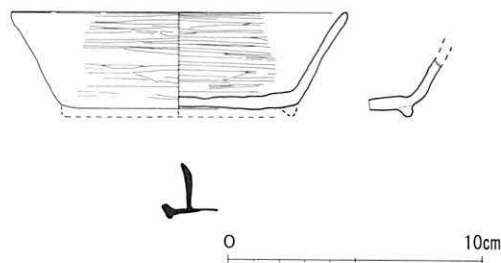
第82図 第1検出面遺構略測図 (1/300)



第83図 第2検出面遺構略測図 (1/300)

については判断できない。既往の当該地周辺調査においても墳墓が確認されており、古代の墳墓群が点在する可能性が想定される。

土坑 (SX082) 調査区北西端に位置し、一部調査区外に広がる。現状で平面楕円形プランに復元される遺構である。埋土は2層に分層され、上層は暗褐色ブロック土、下層は暗茶黄色ブロック土である。大宰府編年Ⅶ期に比定される黒色土器A類碗c、大友土器編年9-Ⅳ期に相当する土師器坏aなどが埋土上層から出土した。その帰属年代より、埋没年代については9世紀後半頃に比定される。



第84図 92SX088出土墨書土器実測図 (1/3)

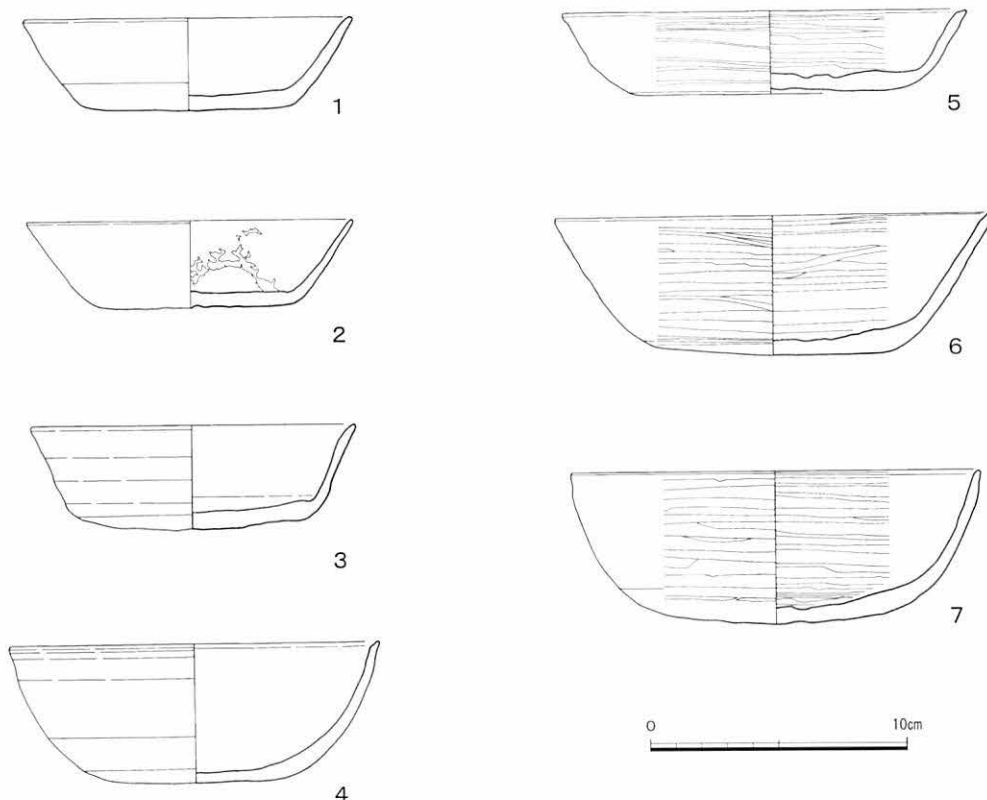
土坑 (SX088) 現状で平面円形プランを呈すと想定される遺構である。埋土は黒灰色土の単一層である。大友土器編年9-Ⅲ~9-Ⅳ期に相当する土師器坏a、同坏cが出土しており、その帰属年代より、埋没年代については9世紀中頃~後半頃に比定される。その中でも現段階では判読できないものの、墨書土師器の存在は特筆される。墨書は外底部に認められ、文字数は1文字と想定されるものである。

土坑 (SX137) 現状で平面隅丸方形プランを呈す遺構である。埋土は黒灰色土の単一層である。埋土中位において土師器坏7点と土師器甕片1点がまとまって出土している。とりわけ坏については、すべて口縁部を上にした状態で検出され、遺存状況も比較的良好であることから、一見、埋納遺物



第85図 92SX137遺物出土状況 (東より)

と考えられるものの、完形品ではなく、接合関係も認められない点や甕片が共伴することから、現段階では一括に廃棄された遺物群と判断される。当該遺構の埋没年代については、大友土器編年9-Ⅲ期に相当する土師器坏aが4点出土しており、その帰属年代より9世紀後半頃に想定される。ここで注目される事象としては土師器坏



第86図 92SX137出土遺物実測図 (1/3)

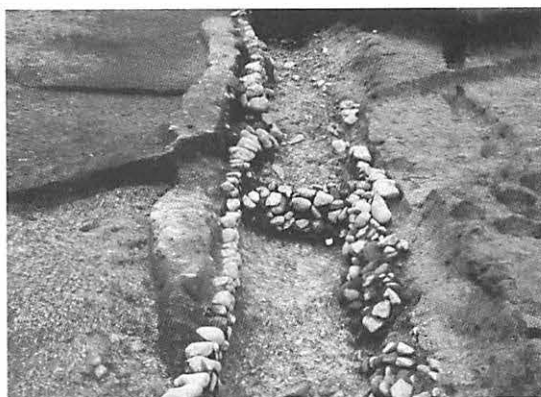
aのうち、器形が大きく、ミガキa 2が丁寧に施されるなど前代の属性が顕著に認められる一群が存在することである。管見の限り、県内でもこのような一括資料は皆無であり、引き続き検討を要する。

竪穴住居跡 (SH087) 詳細については後述するものの、古代に比定される遺物が一定量出土していることから、今回は当該期の遺構として報告する。現状で径5mを測る平面円形プランを呈す遺構である。床面に貼り床を確認し、壁溝が認められる部位がある。主柱穴は4本で、中央部に焼土と炭化物を含む炉跡が検出されている。最低1度の建て替えが想定される。埋土からは、9世紀前半頃に比定される土師器杯a片、蓋片、甕片と共に弥生前期後半頃に比定される壺、弥生後期後葉頃に比定される鉢、同壺、ミニチュア土器などが一緒に出土しているが、その残存率は古代に比定される遺物に比べて、弥生時代に比定される遺物の方が高い。管見の限り、県内でも当該遺構のような平面円形プランを呈す古代の竪穴住居跡の報告例は確認できない。一方、残存率の高い出土遺物の帰属年代である弥生時代後期後葉頃の竪穴住居跡については、当該地周辺においても平面円形プランを呈す事は看過できない。これらのことから、現段階においては古代の竪穴住居跡と断定できる根拠は皆無であり、調査段階で判別できなかったものの、弥生時代に比定される竪穴住居跡の上面に、古代に比定される堆積層もしくは別遺構が重複しており、遺物が混入した可能性が高いと想定される。

中世

当該期の遺構としては溝状遺構 (SD064) が確認されている。遺物は瓦質の播鉢などが出土しており、15世紀代に比定される。水路利用の痕跡は認められず、用途は不明である。

近世



第87図 92SD088石列検出状況 (南より)

当該期の遺構としては溝状遺構（SD007・008）、柵跡（SA015）が確認されている。

溝状遺構（SD007・008） 南北方向に調査区外へと並走する溝状遺構である。土層観察の結果、両者には新旧関係が認められ、(古い方からSD007→SD008) SD008においては石列が検出されている。石列は現状で拳大の礫が3段分確認され、SD007と重複する西側の石列は裏込め土により固定されている。一方、東側の石列は原位置を留めておらず、詳細は不明であるものの、溝の壁面に直接礫が積まれていたようである。西側のように重複する遺構がなく、安定した堆積土層が露出しているためか、裏込め土は認められない。

SD008の石列内の埋土は3層に分層され、上から大きくブロック土層と礫崩落土層に区分される。水路利用の痕跡は認められない。18世紀後半頃に比定される肥前蓋付鉢（段重）片や関西系陶器碗片などが出土しており、その帰属年代より、SD008の埋没年代については18世紀後半頃と比定される。また、SD007については出土遺物が僅少であり、詳細は不明ながらも、SD008の埋没年代と近接した時期である可能性が高い。

柵跡（SA015） SD007の西側にはほぼ併行する形で確認された遺構である。柵間はほぼ2mの等間隔で、SD007、008に規制されて構築した可能性が示唆される。



第88図 92SA015検出状況（北より）

その他に、地層横転遺構6基（SX016・062・099・113・151・159）が確認されている。内3基（SX113・151・159）の最終埋土はアカホヤ火山灰層であり、その下位に今回の遺構検出面（基盤面・暗茶褐色土）と同一層と判断される堆積土層が位置する。このため、今回の遺構検出作業ではアカホヤ降下以前に堆積した土層を基盤面として形成された、遅くとも縄文時代早期末頃までの遺構確認を完了した可能性が高いと判断し、調査を終了した。

小結

今回の調査では、縄文時代の遺構及び古墳群の広がりを示す明確な遺構は確認出来なかったものの、古代の遺構群が調査区西側に広がることが確認された。本遺跡からは、使用痕の確認された風字硯や越州窯系青磁碗など優位性が認められる遺物群が出土しており、さらに今回の調査で墨書土器が出土したことにより、当該地に識字層の存在を跡付けたとして大過ないものと判断される。その存在については、第88次調査で確認された火葬墓の可能性が示唆される方形周溝遺構との関連が注目される。既往の研究成果により、火葬墓の被葬者は律令官人である郡司候補者及びその一族の有力氏族と位置づけられている。当該地に8～9世紀の大規模な遺構を形成した集団については、検出遺構や出土遺物の様相からも郡司候補者及びその一族である可能性は十分想定されるものである。今後の調査に期待したい。

（岩尾美保子）

<参考文献>

小柳和宏 1988 豊後国における弥生時代住居 『おおいた考古Ⅰ』 大分県考古学会

坪根伸也・塩地潤一 2001 「豊後国の土器編年」 『大分・大友土器研究会論集』 大分・大友土器研究会

塩地潤一 2004 「豊後国における8・9世紀の遺跡動向－乙津川流域を中心として－」 『第7回北海道古代官衙研究会資料集』
北海道古代官衙研究会

XVⅢ 横尾遺跡第93次調査（D-35・D-40地区）

調査面積 約620㎡ 調査期間 2004.07.01～05.03.31

地 域 E 調査担当 古川匠・山本哲也・岩尾美保子・衛藤亮介・大野瑞恵

本調査区は大分市大字横尾字江又に所在する。平成15年度に確認調査を行った第87次調査区が北に隣接し、さらに30mほど北に第82次調査区が存在する。東側に横尾貝塚が立地し、周囲には縄文時代の遺構が数多く存在する。

縄文時代前期前葉

今年度の確認調査は縄文時代後期前葉の遺構面で終了しているが、さらに下層の遺構も同一平面で一部検出している。この層（SX125）は隣接する第87次調査区でも確認され、縄文時代前期前葉に比定される。第87次調査区で検出された小規模貝塚（第87次SX026）の一部と考えられる獣骨層（SX130）や土坑数基を確認している。

縄文時代後期前葉～古代

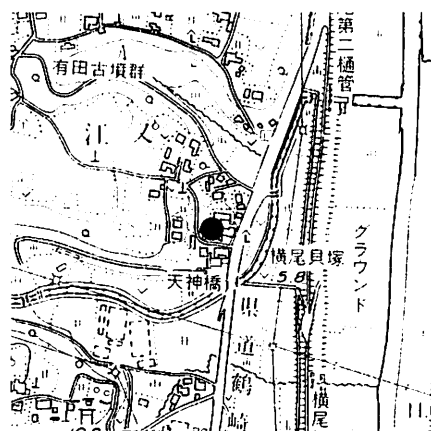
SX095を検出面とする遺構群である。SX095は第87次調査区で後期前葉の遺構面に比定される堆積層（第87次SX024）と同一である。包含する遺物として、礫B式深鉢、羽島下層Ⅲ式深鉢の破片が出土している。堆積の範囲は谷底に当たる平坦面にはほぼ限定され、より標高の高い西側の斜面地にはほとんど確認されなかった。この遺構面では特筆すべき遺構が見つかった。

調査地東端と調査地中央付近で竪穴状遺構を1基ずつ検出した（SX100、SX115）。どちらも調査区南壁に一部がかかり、土層の状況からこの文化面を基盤層とする遺構であることは確実である。またいずれの竪穴状遺構も、底面で中央部に土坑を確認し、柱穴の可能性のあるピットもその周囲に検出した。とりわけ、SX100では張り床の可能性のある層が検出されていることから住居の可能性が想定される。ただし、いずれの遺構からも焼土、灰などは確認されず、また全長が3m未満と小規模であることから、住居と断定することはできない。

さらに、土坑を数基検出した。そのうち2基は土坑墓である。ST085には伸展姿勢の人骨一体が埋葬されていた。この人骨は左腕、左肩甲骨以外の部位はほぼ完全に遺存し、かく乱をほとんど受けていない状態で出土した。上半身に密着して周囲に小児人頭大ほどの自然石がすえつけられ、また足先が交差し左右のひざ関節が近接するやや不自然な姿勢であり、埋葬時に下半身が緊縛されていた可能性がある。ST120は攪乱を受けたために土坑の大半が削平されており、人骨の上半身と右足が失われているが、骨盤と左足がほぼ原位置を保って検出された。出土状況から、屈葬姿勢であった可能性がある。SX105からは頭蓋骨の一部が出土し、これも土坑墓であった可能性が高い。ST085、SX105、ST120からは、副葬品等の確実に遺構に伴う遺物を確認していない。他の土坑は平面プランが安定し土坑底が平坦である等の特徴を有するが、原位置を保つ遺物、有機物などは一切確認されておらず、その性格は不明である。

この堆積層（SX095）に形成された遺構から出土する遺物は基盤層に包含される礫B式土器が大半を占め、混入と考えられる。一方でSX132からは小池原下層Ⅱ式の深鉢口縁部が出土しており、SX085からは須恵器甕片が出土していることから、この遺構群の時期は縄文時代後期前葉～古代と考えられる。

直上の堆積層（SX065、SX070）から出土する遺物は縄文前期から後期の土器が多数であるが、少数ながら古代の土師器片が出土していることから堆積年代を古代に比定できる。この層を基盤とする土坑を2基、調査区土層で確認した。平面では認識できないが、SX070を基盤層とする遺構面が存在するようである。



第89図 調査地点位置図

横尾遺跡
第93次調査
D-35・D-40地点

中世前期

SX070の上面には中世前期の堆積層が複数確認され（SX035、SX040、SX045、SX060）、第93次調査区出土分の大部分を占める、最も大量の縄文土器が包含されている。しかし一定量の古代の土師器、須恵器類も出土し、また、SX035からⅢ-2期（尾上1983）に編年される和泉型瓦器碗や内外面にハケ目が見られる土鍋、SX045から輸入白磁皿Ⅷ類破片、SX060から輸入白磁碗Ⅳ類などの、中世前期に比定される遺物が出土している。最も下位のSX045、SX060出土遺物の年代は12世紀後葉に、最も上位のSX035出土の和泉型瓦器碗が13世紀前葉に位置づけられることから、これらの堆積は非常に短期間に形成されていることが分かる。

また、この堆積層を基盤面とする遺構を数多く検出しており、調査区の東端を除きほぼ全面に、規則的な配置こそ示さないが、柱穴、土坑が多く分布する。これらの遺構は特に調査区の西半で各堆積層に確認され重複関係も示すことから、短期間に繰り返し人為的な地形改変が施されたようである。

この時期の文化面は調査区西側の1/3程は自然地形の段丘礫層が露出するが、西から東に下る斜面は堆積土が厚く、斜面の上部が堆積土によって地形が改変され斜面の下部に比べて傾斜が緩やかとなっている。この緩やかな斜面の南半部分で副葬品が伴う土坑墓を2基（ST020、ST022）確認している。ST020には研磨土師器、小刀が副葬され、ST022には曲物製鏡箱に納められた銅鏡、毛抜き、鉄製紡錘車、白磁碗Ⅳ類が副葬され、さらに土鍋が伏せた状態で納置されていた。ST020はSX040を基盤層とし、12世紀後葉以降に位置づけられる。ST022は段丘礫層を基盤面とし、堆積層との対応関係は不明であるが、白磁碗Ⅳ類の存在と土鍋の特徴から12世紀後葉に位置づけられる。大分市内で初めて中世墓から出土した銅鏡には外周部分に曲物状の木質がほぼ全面に付着しており、鏡のみを収めた曲物製の鏡箱に納入されていたようである。類例としては和歌山県吉備町天満Ⅰ遺跡（註）などがある。

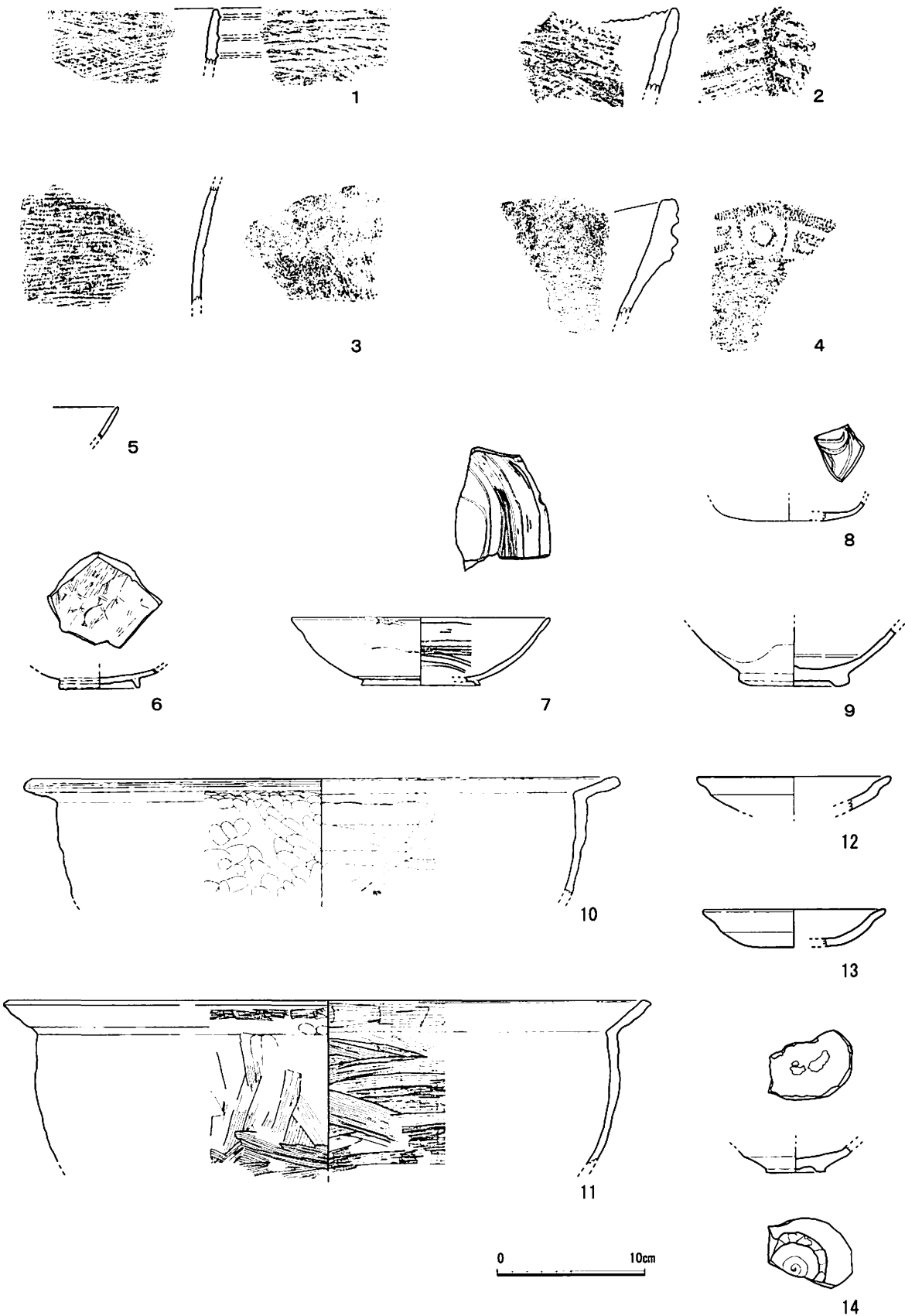
中世後期

中世前期の堆積層の上面に調査区のほぼ全域を覆う同一の堆積層を確認している（SX004）。この層には遺物がほとんど包含されず、より下位の堆積層では出土遺物のうち縄文土器が多数を占めるのに対し古代の土師器が大部分を占め中世の輸入陶磁器が一定量出土するなど、明らかに異なった様相を呈す。京都系土師器口縁部、胎土目朝鮮産陶器碗高台部が出土していることから、この層の年代は16世紀後半頃に比定される。

まとめ

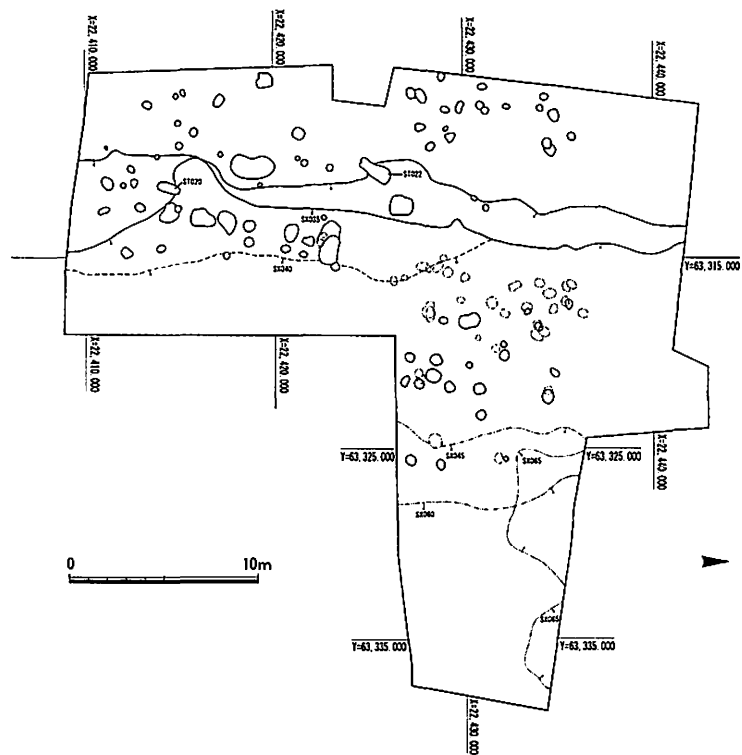
本調査の目的は縄文時代の居住域の確認である。縄文時代後期に比定される可能性のある文化面で竪穴状遺構と土坑墓が検出された点で、得た成果は大きい。竪穴状遺構2基は隣接する第87次調査地点でこの時期の地床跡が確認されていることと照合すれば、この場所が居住空間であった可能性を示唆する。また、土坑墓はいずれも人骨を伴うものでありお互いに近い地点に立地することから、この場所が墓域としても機能したことが推測できる。ただし、既刊の『平成16年度大分市市内遺跡調査概報』の報文ではこの遺構面の時期を縄文時代後期前葉頃と推定したが、調査終了後の出土遺物の整理により、ST085の出土遺物に古代の須恵器甕片が含まれることを確認した。混入の可能性があるが現状ではこの人骨が縄文時代後期前葉の所産とは確言できない。従って今後、理化学的年代測定によって、依然年代が不明な他の人骨資料（SX105、ST120）を含め、年代を確定する予定である。

（註） 関 真一2005『天満Ⅰ遺跡発掘調査報告書』和歌山県有田郡吉備町調査報告書第5集

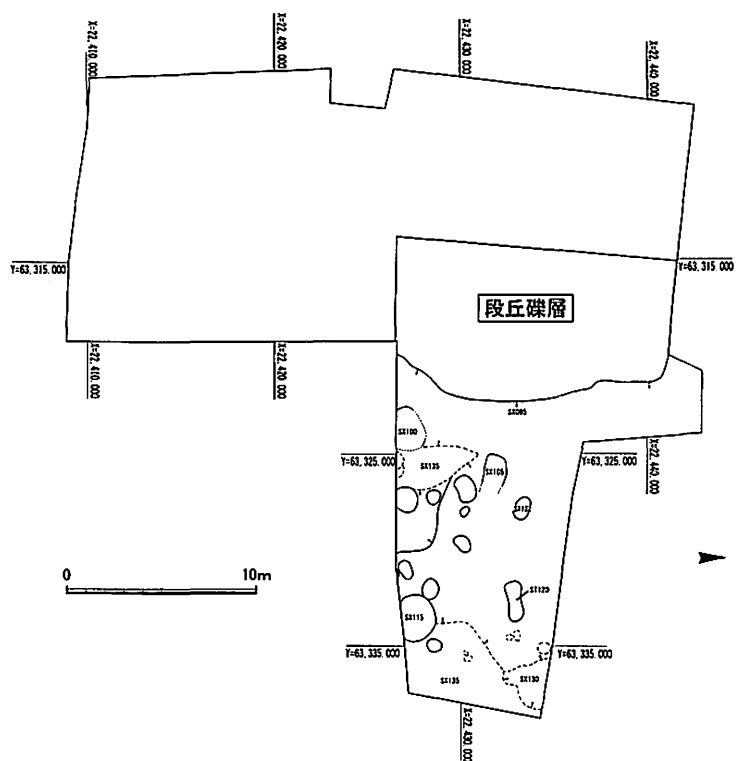


第90図 出土遺物実測図 (1/4)

- | | | |
|-----------------------|-------------------|---------------------|
| 1. 轟B式深鉢 (SX095) | 6. 畿内系瓦器碗 (SX040) | 11. 土師質鍋 (SX035) |
| 2. 羽島下層3式平行深鉢 (SX095) | 7. 和泉型瓦器碗 (SX035) | 12. 京都系土師器皿 (SX004) |
| 3. 羽島下層3式平行深鉢 (SX095) | 8. 白磁皿Ⅷ類 (SX045) | 13. 京都系土師器皿 (SX004) |
| 4. 小池原下層II式深鉢 (SX132) | 9. 白磁碗Ⅳ類 (SX065) | 14. 朝鮮産陶器碗 (SX004) |
| 5. 土師器 杯 (SX065) | 10. 土師質鉢 (SX035) | |



第91図 第1・2遺構面略測図 (1/400)



第92図 第3遺構面略測図 (1/400)

XI X 横尾遺跡第96次調査 (D-34地区)

調査面積 90㎡

調査期間 2005.01.31 ～継続中

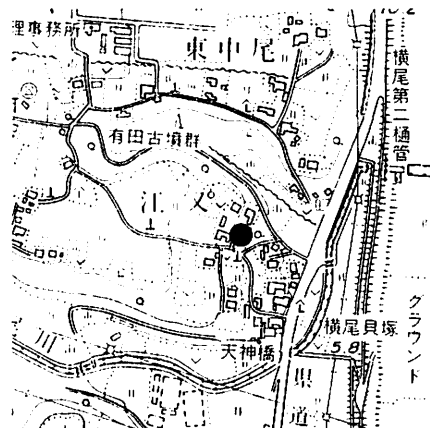
地域 D

調査担当 古川匠・山本哲也・衛藤亮介・大野亮介

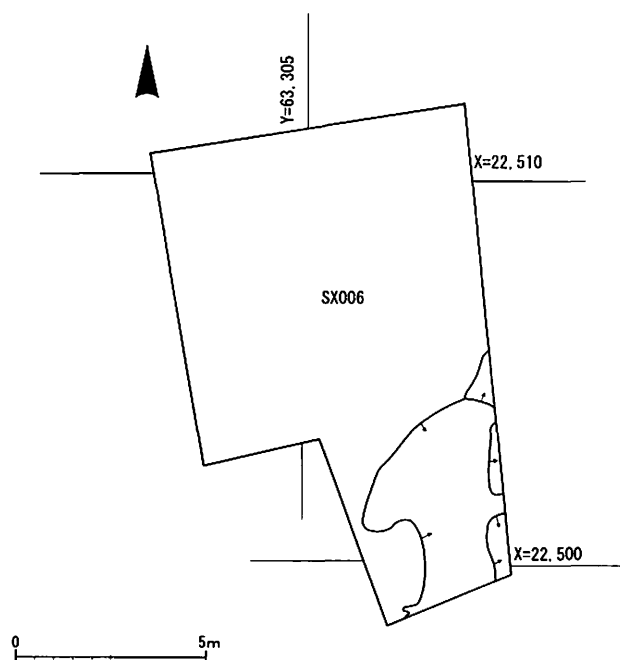
横尾遺跡第82次調査区から北西へ35mほどの地点に位置する。第82、第87、第93次調査区が所在する、北に開口する小規模な埋没谷と、より北側で展開する、東に開口する大規模な谷との結節点に形成された舌状地形に当たる。

表土直下には16世紀末から17世紀初頭に比定される堆積層(SX006)より唐津系陶器碗高台部が出土した。第93次調査で調査区一面に検出された堆積層(第93次SX004)と特徴を共有している。この堆積層は第97次調査区にも確認されており一帯に同一の堆積層が展開していた可能性が想定される。今年度の調査はこの堆積層の掘り下げ途中で終了している。本調査区は次年度に調査を継続する予定であるが、既往の調査ではこの段丘面上では第91次調査区第3

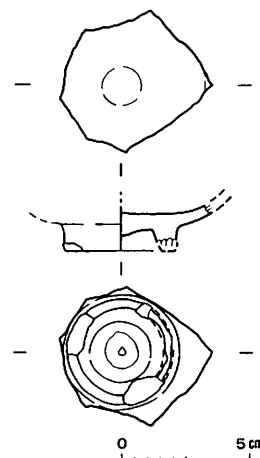
トレンチを除き、表土下で堆積層が確認されずに段丘礫層が検出されることから、大規模な地形改変が幾度かにわたって行われたと考えられる。しかし本調査区はその影響が軽微なようで、堆積層が調査区一面に検出されることから、中世後期以前の遺構面が今後の調査で確認される可能性がある。(古川 匠)



第93図 調査地点位置図



第94図 遺構平面図 (1/200)



第95図 SX006出土肥前系陶器碗 (1/3)

横尾遺跡
第96次調査
D-34地点

XX 横尾遺跡第97次調査 (D-34地区)

調査面積 290㎡ 調査期間 2005.01.31 ~ 05.03.31

地域 D 調査担当 古川匠・山本哲也・衛藤亮介・大野瑞恵

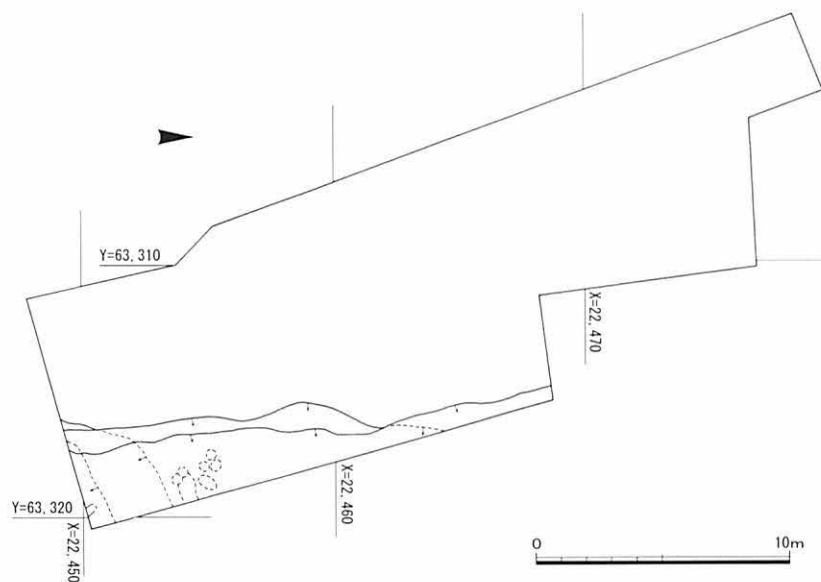
当調査区の立地は、第82次、第87次調査地点が位置する北に開口する小規模な埋没谷から西側の台地上平坦面に向かって上がる斜面地形であり、第93次調査区の北隣に位置する。第82、第87次調査地点に於いては、中世の堆積層から大量の縄文土器が出土しており、西の方角からの移動が想定されている。当調査区はその帰属地の候補の一つに挙げられ、そして第82次調査区の縄文時代早期末頃の「水場の遺構」に関連する遺構の存在も想定されたため、国庫補助事業による確認調査を実施した。

調査区内の大半を斜面が占めるが、表土直下から堅固な礫層が現れ、第93次調査で見られた古代から戦国時代の堆積は確認されない。さらに調査区の北部は宅地の造成に伴って大規模な地形改変を受け、礫層で形成される本来なだらかな斜面が急角度に削られている。斜面においては遺構が一切確認されなかった。

調査区東端部の斜面下の平坦面では第93次調査地点の状況に対応する、中世前期から戦国期に比定される堆積層（第93次SX004、SX035、SX040）が確認された。また、12世紀後葉～13世紀前葉頃に想定される第93次SX040と同一の層で柱穴、土坑を数基検出した。しかしこれらの堆積層の範囲は狭く、遺物の絶対量も少ない。縄文時代の遺物の出土量もごく少量である。今年度の調査は中世前期の遺構面で終了したが、さらに下位に縄文時代の遺構が展開する可能性は低いようである。（古川 匠）



第96図 調査地点位置図



第97図 遺構平面図 (1/300)

X XI 横尾遺跡第98次調査D-24地点

調査面積 217㎡ 調査期間 2005.03.14 ~ 05.03.28

地域 E 調査担当 衛藤・塩地

調査地は大分市大字横尾字東中尾に位置し、横尾貝塚の北西部に乙津川に向けて開口する谷の北側隣接地にあたる。当該地周辺には既往の調査により古代～中世にかけての遺構群が検出されており、とりわけ中世前半期に比定されている掘立柱建物群の存在は、眼下に広がる谷を埋める当該期の大土木地業との関連性が指摘されるものである。横尾貝塚西側隣接地に所在する谷を埋めるこの造成土には縄文時代後期前葉頃に比定される大量の縄文土器が内包されていることから中世前半期に比定される掘立柱建物群が展開する段丘面上にも縄文時代の遺構群が存在する可能性を鑑み、調査を行った。

今回の調査は横尾貝塚周辺部における縄文集落の範囲確認を目的とした横尾遺跡確認調査事業として実施したものである。出土遺物については現在コンテナ2箱に保管している。調査の結果、淡茶白色シルト質土を基盤面として、掘立柱建物跡(98SX002)をはじめ、土坑や柱穴跡が検出された。

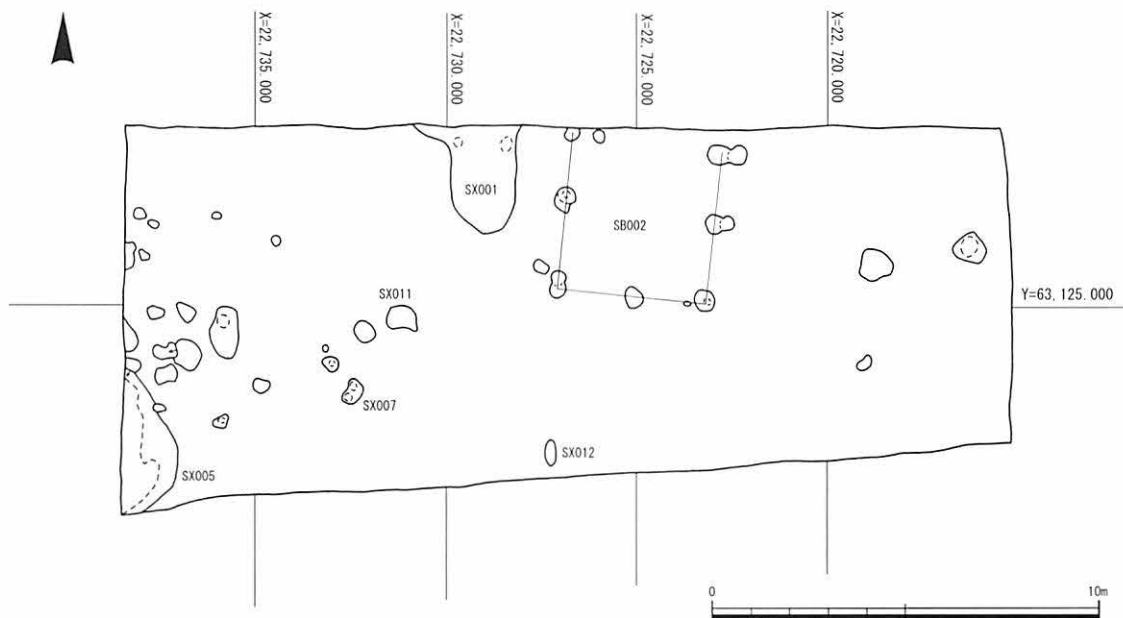
掘立柱建物跡(98SX002)については、2×2間以上の南北棟であり、主軸方向については真北よりやや東側に振れる。出土遺物は僅少であり、遺構の存続年代は断定できないものの、土師器の破片が出土していることから、その帰属年代より古代以降に比定される。

また、土坑(98SX005・007・011・012)については、古代(9世紀前半以降)に比定されるもので、98SX005・012からは緑釉陶器片、98SX011・102からは黒色土器A類片が出土している。

以上のことから、当該地一帯には古代の遺構群が展開している蓋然性は極めて高くなったと判断される。一方、今回の調査の目的である縄文時代の遺構群については、古代の遺構検出面において遺構ならびに遺物も皆無であり、さらにその下位の堆積土層についても当該地西側一帯に展開する粘土層ならびにその風化土層に対応するものであることから下位において遺構が確認される可能性は極めて低く、本調査区においてその存在を示唆することは困難であると考えられる。(塩地潤一)



第98図 調査地点位置図



第99図 遺構略測図 (1/200)

横尾遺跡
第98次調査
D-24地点

XII 丹生川坂ノ市条里跡（第1地点）

調査面積	190m ²	調査期間	2005.01.21 ～ 05.02.23
地域	G	調査担当	五十川雄也・羽田野裕之

位置

丹生川坂ノ市条里跡は大分市東部を北流する丹生川流域の沖積平野一帯に広がる。調査地は丹生川上流域の西岸に位置し、大字「丹川」、字「野間口」に位置する。

遺構・遺物

第1地点の検出した遺構は、溝・ピット・土坑・自然流路である。

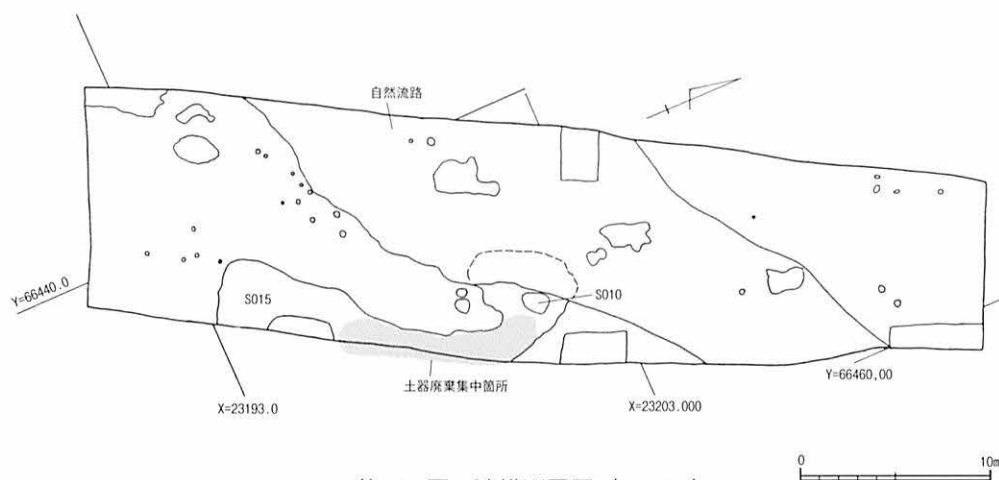
ピットは、その検出状況から、掘立柱建物跡などを構成するものではない。また自然流路や溝との関連の有無も不明である。出土遺物は土器小片が出土した。時期は不明である。

土坑の多くは、残存状況が悪く、平面プランが不整形であり、土層観察からもその性格までは把握できなかった。また出土遺物も土器片がほとんどで、時期の特定には至らない。ただし、S010の土坑は、溝や自然流路と関連がありそうで、残存状況は悪いが、弥生後期後葉から終末の甕を埋置する状況で出土した。

溝（S015）・自然流路は、溝が底部のレベル差から南から北のに向かって低い状況であった。溝からは自然流路と接する付近で土器の一括廃棄を確認した。土器は弥生後期後葉の甕・壺・高坏などの破片である。溝の性格は、土器一括廃棄の状況と溝の埋没過程で自然流路との接点で掘られている土坑（S010）から、また周辺で弥生時代の住居跡などの生活に関連する遺構群が検出時されていない状況を踏まえると、灌漑用水路に伴う祭祀の可能性が高いのではないだろうか。（五十川雄也）



第100図 調査地点位置図



第101図 遺構配置図 (1/400)



第102図 遺跡全体図 (上が西)



第103図 土器一括廃棄状況

XXIII 丹生川坂ノ市条里跡（第2地点）

調査面積 130㎡ 調査期間 2005.01.21 ~ 05.02.23
地 域 G 調査担当 五十川雄也・羽田野裕之

位 置

丹生川坂ノ市条里跡は大分市東部を北流する丹生川流域の沖積平野一帯に広がる。調査地は丹生川上流域の西岸に位置し、大字「丹川」、字「野間口」に位置する。調査区は第1地点よりも西に約200mのところである。

遺構・遺物

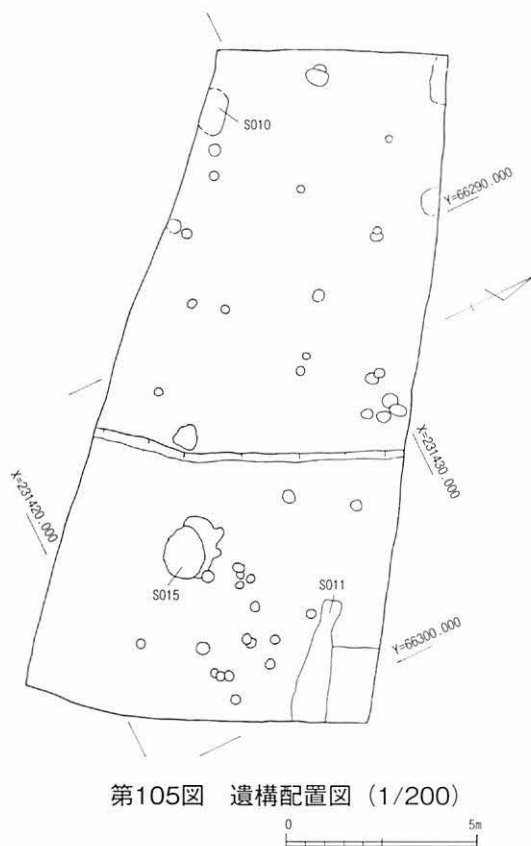
この調査地点で検出した遺構は、土坑・溝・ピット・掘立柱建物跡2棟+*a*などである。それぞれの遺構からの出土遺物は少ないが、遺構検出面の直上層は古墳時代～古代の包含層が厚さ20cmほどで広がっており、検出した遺構は古代以前と考えられる。

土坑はS015から、弥生時代後期の甕片が出土した。S010からは底面から炭化物や焼土が検出できたが、遺物はほとんどない。

溝（S011）は、古代の土器片が出土した。溝の残存状況は不良で、南北に延びている状況である。

掘立柱建物跡は2棟確認した。2棟とも調査区内で完結するものではない。柱穴からの出土遺物が少量の破片のため、時期の特定は難しいが、古代以前である可能性が高い。またSB2を構成する柱穴の残存状況は良好で、柱木が残存していた。

ピットは、前述した掘立柱建物跡を構成するものがあり、さらに調査区の南側でもピットの集中箇所が見られることから、調査区外に渡って、掘立柱建物跡もしくは柵跡などを構成するのかもしれない。（五十川雄也）



第105図 遺構配置図（1/200）



第104図 調査地点位置図



第106図 調査区全体（上が西）



第107図 SP016柱木出土状況

丹生川
坂ノ市条里跡
（第2地点）

XXV 丹生川坂ノ市条里跡（第3地点）

調査面積 615㎡ 調査期間 2005.01.21 ～ 05.02.23
地 域 G 調査担当 五十川雄也・羽田野裕之

位 置

丹生川坂ノ市条里跡は大分市東部を北流する丹生川流域の沖積平野一帯に広がる。調査地は丹生川上流域の西岸に位置し、大字「丹川」、字「奥園」に位置する。調査区は、台地と沖積地の境の緩斜面にある。

さらに周辺に展開する字名を見ると「堀内」・「宗角寺」・「古市」・「門前」などがあり、中世期の集落が展開していたものと思われる。また調査区から丹生川を挟んで東に大友11代の太友親著の墓も所在している。

遺構・遺物

第3地点の検出した遺構は、縄文時代晩期末の埋甕2基と包含層、中世の造成土・柱穴群・土坑などである。

縄文時代晩期末の埋甕の2基（S001とS002）は、S002の残存状況は



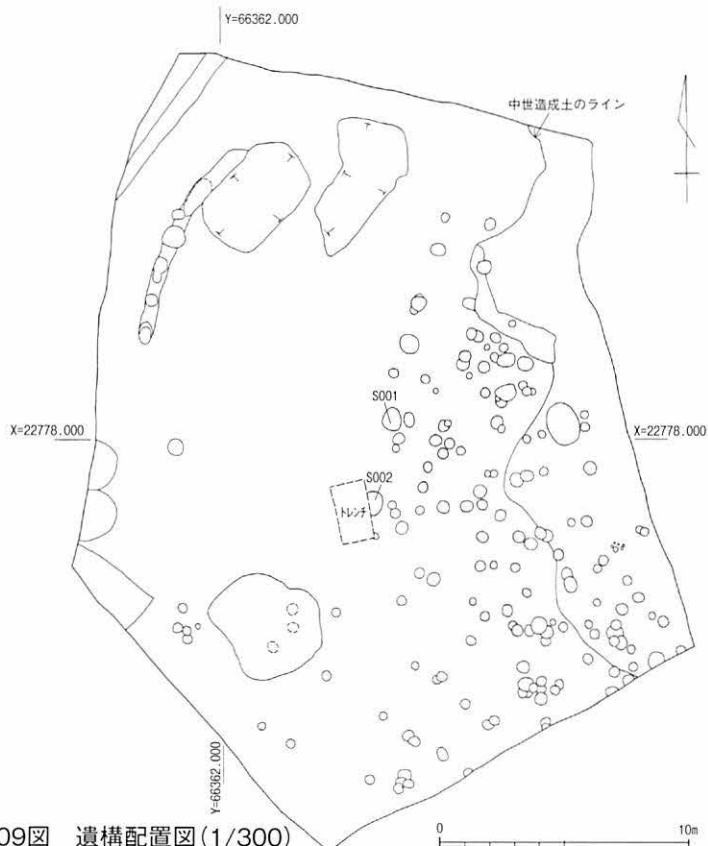
第108図 調査地点位置図

良好で、S001は胴部から下が残存するのみである。S002は甕を直立の状態で埋置している。土器は2基の埋甕とも下黒野式と呼ばれるもので、甕内部からは人骨などの出土は明確に確認できなかった。またS002の底部には意図的に穿孔があげられていた。

包含層は埋甕の遺構に切られる状況であった。包含層からの出土遺物は少量で、小片のため時期の特定は困難である。

中世の遺構は、立地が緩斜面であることから、造成を行い（造成土：S100）、そこに柱穴群を確認した。柱穴は現状で約10棟の建物跡を構成する。その重複・切り合い関係から2～3時期で展開しそうである。出土遺物はほとんどが、土師質土器杯・皿であり、陶磁器類は出土した土師器の量の2%弱ほどである。

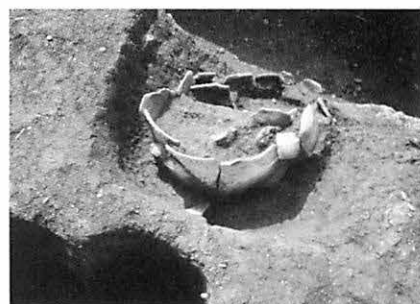
柱穴や造成土、土坑からの出土遺物から、14世紀～15世紀を中心とした集落跡と思われる。補足ではあるが、隣接した土地から試掘調査で石組みの井戸跡や土師器祭祀土坑などを検出している。（五十川雄也）



第109図 遺構配置図 (1/300)



第110図 遺跡遠景 (西より)



第111図 埋甕(S000)出土状況(東より)

XV 城原・里遺跡第8次調査

調査面積 837.8㎡ 調査期間 2004.06.15 ~ 05.01.13
地 域 G 調査担当 池邊千太郎・羽田野裕之

城原・里遺跡は、大分市大字里に位置し、東西に延びる標高約40mの丘陵東端に所在する。第8次調査地点は、同遺跡の中でも比較的微高地上に位置し、約400m離れた西側には海部郡衙の政庁と考えられている第2次～4次調査（中安遺跡）が所在する。

今回の調査は第7次調査区の南西側にあたり、A・B・Cの3ヶ所に調査区を設定した。A区は、第5次B区・第6次調査区の北側である。B区は、第7次調査区の西側に位置する。C区は、第7次D区で検出された建物跡の南区域における遺構確認の一環として、第7次調査D区より約13m南側に、幅約3m、長さ約10mの調査区である。以下に各調査区についてその概要をまとめる。

A区 確認された遺構は、2条の溝状遺構、溝あるいは段落ちの遺構と考えられる不明遺構13基のピット等が確認された。中央部を東西に走る溝状遺構(S010)は、最大幅約2.5m、深さ0.04mである。調査区の南側を東西に走る不明遺構(S015)は、現状で最大幅0.8m、深さ0.1mである。いずれも弥生土器が出土していることから、第5・6次調査で確認された弥生時代の住居跡や柱穴の関連が指摘できる。

B区 調査区からは、多数の柱穴、4軒の竪穴住居跡、掘立柱建物跡・総柱建物跡が11棟検出された。互いの建物群は、重複がいたって少なく整然とした配置であったが、配置状況や出土遺物の年代、さらには主軸方向や一部の重複関係から、大きく4系列に区分した。なお南側にはC区で検出された堆積土と同一のものがみつかり、ここから中世の瓦質の播鉢が確認されている。この層を剥ぐとSB031の建物柱穴を検出することができた。

●「主軸方向が真北より西に4°～5°振る建物群(SB024・SB023?)」

SB024は、調査区の東側で確認され、南北方向に桁行が延びた掘立柱建物跡である。7間×3間で身舎面積が調査区の中で最も大きい。一部の柱穴で土層観察した結果、規模は、直径約1.0m、深さ約0.5mであった。柱穴(S072)埋土からは、かえりの付いた須恵器の蓋(R011)の破片が出土し、特徴により飛鳥編年Ⅳ期の7世紀後半代に位置付けられる。建物の東側には桁行方向に柱穴が並び、柱穴の規模が径約0.6m、深さ約0.24mと建物の柱穴より小さいため、庇と考えられる。SB023は、SB024の西側に平行した場所で検出した。規模は不明である。主軸方向や時期に関しては検討する余地があるが、現状では主軸方向が西に4°～5°振るものと考えられる。

●「主軸方向を真北より東に2°振る建物群(SB022・SB031・SB032?)」

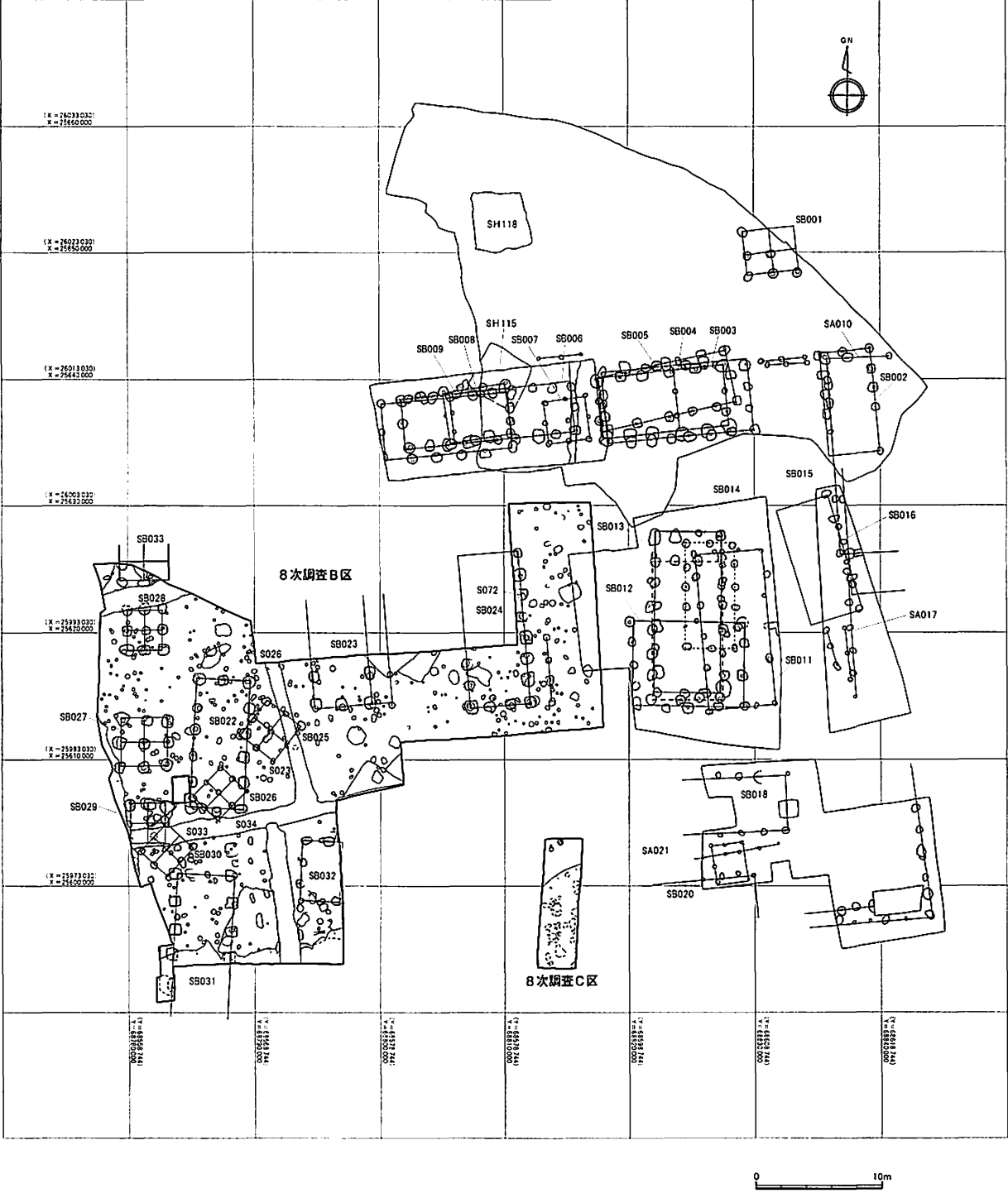
3棟の建物は、それぞれの柱筋は揃わないが、SB022とSB031は南北方向を主軸として、現状で南北25m以上に延びる建物配置で、柱間も同一規模である。SB022の柱穴は、直径約1.0m、深さ約0.7mの規模であった。SB032はSB022・031に直行し、更に東側に延びる可能性があり、検討の余地がある。出土遺物は、SB022の柱穴(S023)の掘り方埋土から須恵器のかえりの付いた蓋(R004)の破片、柱穴(S033)の掘り方埋土から須恵器の蓋(R007)のつまみ部分、柱穴(S034)の掘り方埋土から須恵器の高台付坏(R008)の破片が出土し、特徴により飛鳥編年Ⅳ期の7世紀後半代に位置付けられることが分かった。

●「調査区の西側に縦列に配置された総柱建物群(SB027・SB028・SB029・SB033)」

4棟の総柱建物跡は、東側の柱筋が揃っていることから正面観を東側に意識して建てられた可能性がある。SB027の柱穴は、径約0.9m、深さ約0.4mの規模であった。出土遺物が小片であるため時期は確定できないが、



第112図 調査地点位置図



第113図 第5・7・8調査遺構平面図 (1/500)

SB028の柱穴の一部が中世の溝に壊されていることや主軸方向がこれまで確認された7世紀後半代の建物方向と類似すること、堆積土の観察から7世紀後半代の範疇に収まるものと考えられる。この総柱建物跡は、小規模であるが、約13㎡と約10㎡の2法量の身舎面積が存在する。

●「東に大きく振る総柱建物群(SB025・SB026・SB030)」

3棟の総柱建物跡は、これまで検出した建物の方位とは異なり、東に大きく振る。SB025の柱穴は、径約0.4m、深さ約0.11mである。総柱建物群の堆積土は、古墳時代によく見られる暗褐色土であること、古墳時代に比定されるSH115の住居跡と同一方位を取ること、SB022との重複関係から、少なくとも古墳時代から7世紀後半以前までの年代幅に収まるものと考えられる。

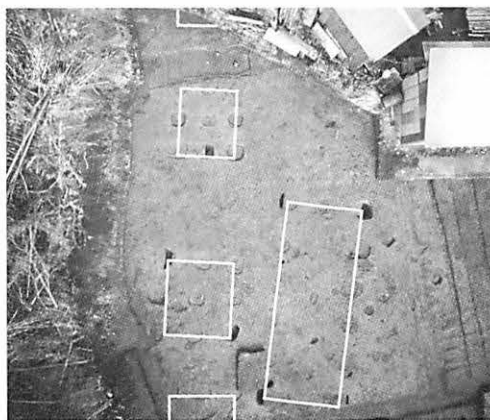
C区 遺構は、北側に柱穴が確認されたほか、調査区の中央から南側にかけて基盤面を掘り下げた後に異なった堆積土を埋めた状況が確認された。堆積土はB区南側でも確認され中世の遺物が含まれていることから中世以降の所産と考えられる。この堆積土を一部除去したところ、下部より比熱を受けた面や柱穴群を検出した。柱穴のなかには、これまで検出された掘立柱建物跡と同等のものが確認された。他にも直径約1mに達する柱穴が数基確認された。こうした結果により、C区周辺にも古代の掘立柱建物跡が存在することが判明した。

今回の調査により、当調査地のB区において7世紀後半～8世紀前後にかけての建物が展開していたことが判明した。建物群は、各々の方位差や配置の評価によって、現状で少なくとも3回以上の配置変更が認められる。

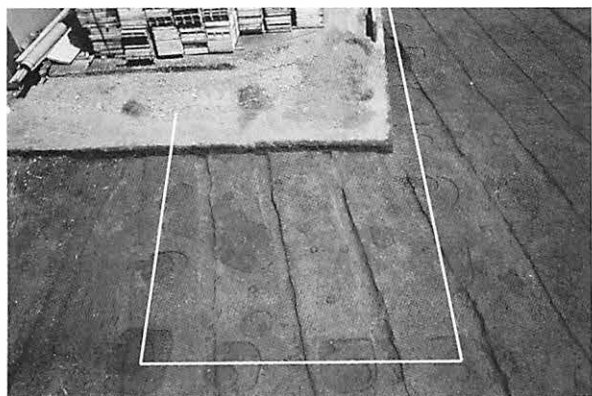
昨年度までの調査結果を総合すると、SB024の建物評価に関しては、主軸方向や出土遺物より建物群3期に



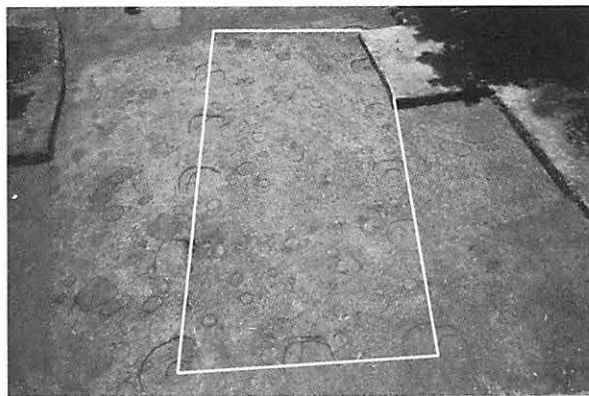
第114図 遺跡全景合成写真（上が北）



第115図 SB022検出状況（北より）



第116図 SB024（南から）



第117図 SB027・028・033（南から）

該当し、当該期の建物配置状況はL字型またはコの字型の建物配置の中心部に位置する建物と考えられる。なお、C区で確認された掘立柱建物跡の一部と思われる柱穴や南に延びているSB031の存在から、C区周辺あるいは建物施設推定範囲の南東側にも建物が展開し、3期の建物群がコの字型配置を擁する可能性も示唆できる。今回の調査では、建物群1・2期に比定される建物群と方位を同じくする建物跡が存在しないため、建物配置が閉塞し口の字型の配置を構成しない可能性が高い。

主軸方向を真北より東に2° 振る建物群(SB022・SB031・SB032?)は、当地西端部において確認されていることから、現状ではいずれかの段階における施設の外郭線の一端を構成する建物群と考えられる。

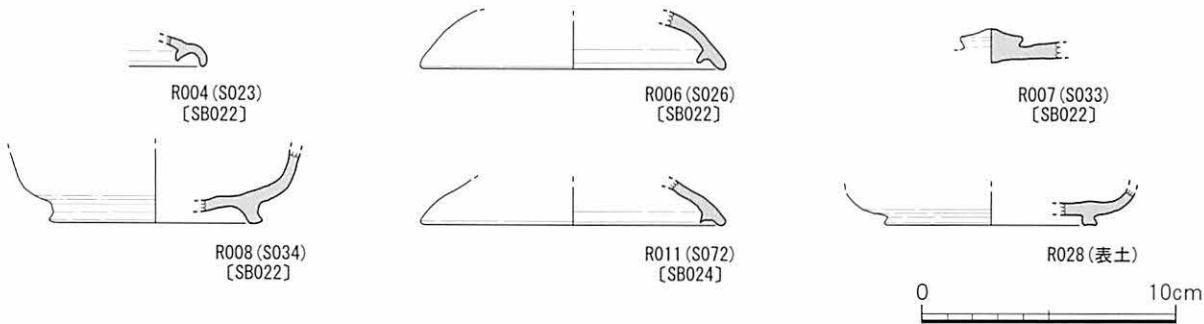
調査区の西側で確認された倉庫群(SB027・SB028・SB029・SB033、SB025・SB026・SB030)の存在も、城原・里遺跡でこれまで確認されなかった点で看過できない事象である。つまり、当地の丘陵の西端部に建てられていたことや掘立柱建物との配置状況を考慮すると、この場所が倉庫群の領域として確保されていたのであろう。

以上のことから、今年度確認された掘立柱建物跡群は、これまで第5次・第7次調査で確認された建物群に強く関連するものであり、特に建物群1期～3期の建物群は、変則的なコの字型、L字型などで構成された官衙的な施設やそれに類する施設と想定される。しかし、全国的に見て評段階の官衙施設は、定型化しておらず未だ不明な点が多いため、今後の調査が期待される。

(羽田野 裕之)

遺構名	規 模	柱間寸法(桁行×梁行)	建物方位	身舎面積
SB022	5間×2間、10.1×4.14m	2～2.1m×2m	南北 N-2° -E	42.87㎡
SB023	2間×2+ a 間、4m×4.6m+ a m (東に庇付き?)	2.3～2.4m×2.2～2.4m	南北 N-4～5° -W	18.07以上㎡
SB024	7間×3間、10.19m×4.9m (東に一部庇付き?)	1.6～1.7m×1.5m	南北 N-4° -W	59.75㎡
SB025	2間×2間、3.5m×3.3m	1.8m×1.6m	北東 N-36° -E	11.44㎡
SB026	2間×2間、3.3m×2.7m	1.6m×1.3～1.4m	北東 N-43° -W	8.94㎡
SB027	2間×2間、3.5m×3.5m	1.7～1.8m×1.7～1.8m	南北 (真北)	12.78㎡
SB028	2間×2間、3.4m×3.0m	1.4～1.5m	南北 (真北)	9.96㎡
SB029	2間×2間?、?m×3.0m	1.4～1.5m	南北 (真北)	9.06㎡
SB030	2間×2間、2.9m×3.0m	1.5～1.6m	北東 N-52° -E	8.13㎡
SB031	3間×3+ a 間、4.6m×6.3+ a m	2.2～2.4m	南北 N-2° -E	42.83以上㎡
SB032	2間×3間、2.8m×4.9m	1.7m×1.4m	南北 N-2° -E	14.82以上㎡
SB033	2間×2間、3.5m×? m	1.7～1.8m×1.7～1.8m	南北 (真北)	? ㎡

第118図 掘立柱建物跡一覧表



第119図 出土遺物実測図 (1/3)

第Ⅳ章 受領図書一覧

1. 調査報告書

北海道	帯広市教育委員会	
	吉田 巖 資料集16	2003
	吉田 巖 資料集17	2004
山形県	山形市教育委員会	
	吉原Ⅱ遺跡 第3次発掘調査報告書	2003
	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第16集	
	双葉町遺跡(山形城三の丸跡)発掘調査報告書(近世編)	2004
	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第17集	
	山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書	2004
	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第18集	
	吉原Ⅰ遺跡・吉原Ⅱ遺跡・吉原Ⅲ遺跡・吉原Ⅳ遺跡・吉原Ⅴ遺跡・若宮の楯跡発掘調査報告書	2004
	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第19集	
	観音堂遺跡発掘調査報告書	2004
	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第20集	
	成沢西遺跡発掘調査報告書	2004
	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第21集	
	河原田遺跡梅野木前2遺跡発掘調査報告書	2004
	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第22集	
	山形市埋蔵文化財調査年報(平成14年度)	
福島県	いわき市教育委員会	
	根室遺跡	2005
	いわき市埋蔵文化財調査報告 第109冊	
	菊竹遺跡 - 古墳時代墓域・平安時代集落跡の調査 -	2005
	いわき市埋蔵文化財調査報告 第110冊	
	折返B遺跡 1区	2004
	いわき市埋蔵文化財調査報告 第106冊	
	郡山市教育委員会	
	大安場古墳群 - 第5次調査報告 -	2004
	守山城跡 - 第2・3・4次調査報告 -	2004
栃木県	足利市教育委員会	
	足利市の近代化遺産	2004
	足利市文化財調査報告書 第3集	
	平成13年度文化財保護年報	2003
	足利市埋蔵文化財調査報告 第48集	
	平成14年度文化財保護年報	2004
	足利市埋蔵文化財調査報告 第50集	
	平成15年度文化財保護年報	2004
	足利市埋蔵文化財調査報告 第51集	
	足利市埋蔵文化財分布調査報告11	2004
群馬県	専修大学文学部考古学研究室	
	山名伊勢塚古墳発掘調査概報(1)	2004
	山名伊勢塚古墳発掘調査概報(2)	2004
千葉県	市川市教育委員会	
	下総国府跡	2001
	国府台遺跡緊急確認調査報告書	
	国立歴史民俗博物館	
	国立歴史民俗博物館研究報告 第109集	2004
	国立歴史民俗博物館研究報告 第110集	2004
	国立歴史民俗博物館研究報告 第111集	2004
	国立歴史民俗博物館研究報告 第112集	2004
	国立歴史民俗博物館研究報告 第114集	2004
	国立歴史民俗博物館研究報告 第115集	2004
東京都	国土交通省・文部科学省・文部科学省構内遺跡調査会	
	文部科学省構内遺跡	2004
	国立歴史民俗博物館研究報告 第117集	2004
	国立歴史民俗博物館研究報告 第118集	2004
	国立歴史民俗博物館研究報告 第119集	2004
	国立歴史民俗博物館研究報告 第120集	2004
	国立歴史民俗博物館研究年報12 2003年度 史料編9 近世	2004

小学館	
豊後府内城・岡城 週刊 名城をゆく40	
東京都北多摩南部建設事務所・三鷹市教育委員会・三鷹市遺跡調査会	
天文台構内遺跡Ⅲ	2004
三鷹市埋蔵文化財調査報告 第27集	
烏屋敷遺跡Ⅲ	2004
三鷹市埋蔵文化財調査報告 第26集	
東京都埋蔵文化財センター	
多摩ニュータウン遺跡 No520遺跡	2004
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第137集	
多摩ニュータウン遺跡	2004
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第145集	
多摩ニュータウン遺跡 -No920遺跡-	2004
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第146集	
多摩ニュータウン遺跡No72,795,796 (Ⅱ)	
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第150集	
多摩ニュータウン遺跡	2004
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第151集	
多摩ニュータウン遺跡 No192遺跡	2004
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第152集	
多摩ニュータウン遺跡	2004
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第153集	
多摩ニュータウン遺跡	2004
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第154集	
多摩ニュータウン遺跡 -No243・244遺跡- (古墳時代以降)	第1分冊-本文編-
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第155集	
多摩ニュータウン遺跡 -No243・244遺跡- (古墳時代以降)	第2分冊-付録・図版編-
東京都埋蔵文化財センター調査報告 第155集	
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会	
武蔵国府関連遺跡調査報告31	2004
府中市埋蔵文化財調査報告 第33集	
武蔵国府関連遺跡調査報告32	2004
府中市埋蔵文化財調査報告 第34集	
武蔵国府関連遺跡調査報告33	2004
府中市埋蔵文化財調査報告 第35集	
武蔵国府の調査23 昭和60年度	2003
武蔵国府の調査25 平成7年度	2004
武蔵国府の調査26 平成8年度	2004
森トラスト(株)・千代田区東京駅八重洲北口遺跡調査会	
東京駅八重洲北口遺跡 第1・2分冊	2003
(株)新日本建物・三井住友建設(株)・(株)武蔵文化財研究所	
武蔵国府関連遺跡調査報告	2004
武蔵国府関連遺跡調査報告	2004
神奈川県 逗子市教育委員会	
国指定史跡名越切通 崩落対策検討報告書	2004
新潟県 中城町教育委員会	
下名倉遺跡4次	2004
中城町埋蔵文化財調査報告 第28集	
大塚遺跡第3次	2004
中城町埋蔵文化財調査報告 第29集	
草野遺跡2次	2004
中城町埋蔵文化財調査報告 第30集	
屋敷遺跡2次	2004
中城町埋蔵文化財調査報告 第31集	
草駄天山遺跡	2004
中城町埋蔵文化財調査報告 第32集	
富山県 財団法人 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	
道場Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告	2004
富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第22集	
埋蔵文化財調査概要 -平成15年度-	2004
紀要 富山考古学研究 第7号	2004
黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡発掘調査報告	2004
富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第25集	
山梨県 一宮町教育委員会	
松原遺跡	2004
史跡甲斐国分寺跡	1982
史跡甲斐国分寺跡Ⅱ	1983

	いちのみやの遺跡 一宮町埋蔵文化財発掘調査概要報告書－平成8年度 一宮町文化財調査報告 第25集	1998
	いちのみやの遺跡 一宮町埋蔵文化財発掘調査概要報告書－平成9年度 一宮町文化財調査報告 第27集	1999
	筑前原畠跡	1986
	大原遺跡発掘調査概報	1990
甲府市教育委員会	史跡 武田氏館跡Ⅱ 甲府市文化財調査報告25	2004
	甲府市内遺跡Ⅰ 甲府市文化財調査報告26	2004
	本郷B遺跡 甲府市文化財調査報告27	2004
	社会福祉法人 酒翔会・大坪遺跡発掘調査会 大坪遺跡 平成12年度調査地点の報告	2004
	山梨県石和土木事務所・一宮町教育委員会・一宮町遺跡調査会・南西田遺跡発掘調査団 南西田遺跡調査報告書 一宮町文化財調査報告 第26集	1998
	山梨県峡中地域振興局・(財)山梨文化財研究所 平石遺跡	2002
	山梨県峡中地域振興局・甲府市教育委員会 塩部遺跡Ⅰ 甲府市文化財調査報告24	2004
	(南)松本興業・(株)土佐屋・一宮町教育委員会・一宮町遺跡調査会 竜ノ木遺跡	1995
静岡県 袋井市教育委員会	平成14年度 掛之上遺跡13・16・17 本文編・写真図版編	2003
	平成14年度 掛之上遺跡14・15・19 本文編・写真図版編	2003
	平成14年度 掛之上遺跡18 本文編・写真図版編	2003
	愛野向山Ⅱ遺跡	2004
	愛野向山Ⅱ遺跡・愛野向山B古墳群発掘調査報告書	
	地蔵ヶ谷古墳群・横穴群Ⅰ・Ⅱ 袋井市考古資料集 第4集	2004
愛知県 財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター	平成15年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報	2004
	江戸時代の瀬戸・美濃窯	2004
	名古屋市教育委員会 埋蔵文化財調査報告書49 名古屋市文化財調査報告63	2004
	埋蔵文化財調査報告書50 名古屋市文化財調査報告64	2004
	高蔵遺跡第44次発掘調査の概要	2004
	高蔵遺跡第45次発掘調査の概要	2004
	朝日遺跡第13次発掘調査の概要	2004
	名古屋市住宅都市局・財団法人 名古屋都市整備公社 金山北遺跡第一次発掘調査報告書 金山北遺跡	2004 2004
	名古屋市上下水道局下水道本部 千音寺遺跡発掘調査報告書	2004
	名古屋大学 名古屋大学文学部 研究論集149	2004
	西日本電信電話株式会社名古屋支店 名古屋城三の丸遺跡－平成12年度NTT電話工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－	2001
岐阜県 土岐市教育委員会	窯洞1号窯跡発掘調査報告書	2003
	土岐市教育委員会・(財)土岐市埋蔵文化財センター 下石西山窯跡発掘調査報告書	2004
	岐阜市教育委員会・財団法人 岐阜市教育文化振興事業団 史跡 加納城跡 財団法人 岐阜市教育文化振興事業団報告書 第12集	2003
	タイルピアセンター歴史民俗資料館 タイルピアセンター年報 No10	2004
	三重県 松阪市教育委員会 史跡宝塚古墳 本文編・図版編 松阪市埋蔵文化財報告書1	

	四日市市教育委員会	
	一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ	2004
	山奥遺跡Ⅱ	2004
	四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書32	
滋賀県	滋賀県安土城郭調査研究所	
	滋賀県安土城郭調査研究所年報 2003年度	2004
	滋賀県教育委員会	
	特別遺跡 安土城跡環境整備事業概要報告書X I	2004
京都府	京都府城陽市教育委員会	
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第47集	2004
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第48集	2004
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第49集	2004
	財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター	
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第37集	2004
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第34集	2004
	長岡京跡右京第785次発掘調査報告	2004
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第38集	
	長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成14年度	2004
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第39集	2004
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第40集	2004
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第42集	2004
	長岡京跡右京第801次発掘調査報告	2004
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第41集	
	長岡京跡右京第807次発掘調査報告	2004
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第43集	
大阪府	大阪大学大学院文学研究科	
	西日本における前方後円墳消滅過程の比較研究	2004
	大阪大学埋蔵文化財調査委員会	
	大阪大学埋蔵文化財調査室年報1	2004
	貝塚市教育委員会	
	貝塚市の史跡と文化財	2003
	貝塚市遺跡群発掘調査概要26	2004
	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第65集	
	熊取町教育委員会	
	熊取町遺跡群発掘調査報告書・XⅦ	2004
	熊取町埋蔵文化財調査報告 第44集	
	堺市教育委員会	
	堺市文化財調査概要報告 第102冊	2004
	堺市文化財調査概要報告 第103冊 堺環濠都市遺跡発掘調査概要報告	2004
	高槻市教育委員会	
	嶋上遺跡群28	2004
	高槻市文化財調査概要31	
	史跡 今城塚古墳	2004
	豊中市教育委員会	
	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成15年度(2003年度)	2004
	小曽根遺跡	2004
	八尾市教育委員会	
	八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書	2004
	八尾市教育委員会・財団法人八尾市文化財調査研究会	
	八尾市立埋蔵文化財調査センター報告5 平成15年度	2004
兵庫県	赤穂市教育委員会	
	東有年・沖田遺跡	2003
	赤穂市文化財調査報告書56	
	有年原・北山遺跡	2004
	赤穂市文化財調査報告書57	
	上菅生遺跡	2004
	赤穂市文化財調査報告書58	
	赤穂の注連柱・百度石・手洗石	1999
	赤穂市文化財調査報告書47	
	尼崎市教育委員会	
	尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成7年度(5)	2004
	尼崎市内遺跡 復旧・復興事業に伴う発掘調査	2004
	尼崎市文化財調査報告 第33集	
	尼崎市埋蔵文化財 遺跡分布地図及び手引き	2004
	加東郡教育委員会	
	CD-ROM埋蔵文化財調査年報 -2002年度-	2004
	加東郡埋蔵文化財報告31	

奈良県		
財元興寺文化財研究所		
日本における戒律伝播の研究		2004
桜井の版木 - 談山神社・能満院 -		2004
奈良の講と神仏		2003
中近世の地方山岳信仰に関する調査研究報告書		2004
元興寺文化財研究№84		2004
元興寺文化財研究№85		2004
財元興寺文化財研究所・元興寺文化財研究所民俗文化財保存会		
元興寺文化財研究所 研究報告2003		2004
飛鳥資料館		
飛鳥の湯屋		2004
古代の梵鐘		2004
財団法人 桜井市文化財協会		
桜井市内埋蔵文化財 1997年度 発掘調査報告書 2		1998
カタハラ古墳群発掘調査報告書		2000
桜井市内埋蔵文化財 2000年度 発掘調査報告書 1		2001
桜井市内埋蔵文化財 2002年度 発掘調査報告書 2		2003
桜井市内埋蔵文化財 2003年度 発掘調査報告書 2		2003
桜井市教育委員会		
桜井市 平成14年度国庫補助による発掘調査報告書		2003
桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 24集		
天理大学考古学・民俗学研究室		
古事		2004
天理大学考古学・民俗学研究室紀要 第8冊		
独立法人文化財研究所・奈良県文化財研究所埋蔵文化財センター		
古代の官衙遺跡 II 遺物・遺跡編		2004
奈良県教育委員会		
巨勢寺		2004
奈良県立橿原考古学研究所調査報告第87冊		
奈良県立橿原考古学研究所		
寺口千塚古墳群 II		2003
奈良県文化財調査報告書 第105集		
多遺跡		2004
奈良県文化財調査報告書 第107集		
兵家清水・菰谷古墳群		2004
奈良県文化財調査報告書 第108集		
荒坂遺跡（第5次調査）		2004
奈良県文化財調査報告書 第109集		
桜井茶臼山古墳		2004
奈良県文化財調査報告書 第110集		
東竹田遺跡		2004
奈良県文化財調査報告書 第111集		
曽我遺跡 遺構・土器編		1989
奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第55冊		
曽我遺跡 玉類集計表編		1989
奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第55冊		
考古學論攷		2004
奈良県遺跡調査概報（第一分冊） 2000年度		2001
奈良県遺跡調査概報（第二分冊） 2000年度		2001
奈良県遺跡調査概報（第三分冊） 2000年度		2001
奈良県遺跡調査概報（第一分冊） 2003年度		2004
奈良県遺跡調査概報（第二分冊） 2003年度		2004
鏡范研究 I		2004
橿原考古学研究所年報30 平成15年度		2004
奈良大学文学部文化財学科		
文化財學報 第二十二集		2004
山添村教育委員会		
大川遺跡 第6・7次調査		2004
山添村カントリーパーク事業に伴う発掘調査書		
和歌山県		
打田町教育委員会		
史跡 紀伊国分寺跡		2004
吉備町教育委員会		
平成14年度 吉備町埋蔵文化財調査年報		2003
和歌山県有田郡吉備町調査報告書 第2集		
平成15年度 吉備町埋蔵文化財調査年報		2004
和歌山県有田郡吉備町調査報告書 第3集		

	山陽町教育委員会	
	正崎2号墳	2004
	山陽町文化財調査報告書 第1集	
	森山古墳・岡宮山古墳	2004
	山陽町文化財調査報告書 第2集	
	岡山市教育委員会	
	岡山市埋蔵文化センター年報3 2002年度	2004
	ハガ遺跡	2004
	百間川沢田遺跡	2004
	倉敷埋蔵文化財センター	
	倉敷埋蔵文化財センター年報9	2004
	総社市教育委員会	
	総社市埋蔵文化財調査年報13 (平成14年度)	2004
	小山ヶ谷古墳 小造山古墳群	2004
	総社市埋蔵文化財発掘調査報告17	
広島県	財団法人 広島市文化財団	
	史跡中小田古墳群遺構状況確認調査報告	2004
	財団法人市文化財団発掘調査報告書 第9集	
	史跡広島城跡本丸遺構保存状況調査報告	2004
	財団法人市文化財団発掘調査報告書 第10集	
	可部寺山1号遺跡	2004
山口県	財団法人 山口県教育財団・山口県埋蔵文化財センター	
	上領遺跡	2004
	山口県埋蔵文化財センター調査報告 第40集	
	銭屋遺跡Ⅰ	2004
	山口県埋蔵文化財センター調査報告 第41集	
	武久川下流域条里遺跡	2004
	山口県埋蔵文化財センター調査報告 第42集	
	萩城跡(外堀地区)Ⅱ	2004
	山口県埋蔵文化財センター調査報告 第46集	
	財団法人 山口県ひとづくり財団・山口県埋蔵文化財センター	
	陶垣 第17号	2004
	山口県埋蔵文化財センター年報 平成15年度	
	下関市教育委員会	
	蓋井島下り遺跡	2004
	下関市埋蔵文化財調査報告書79	
	鍛遺跡	2004
	下関市埋蔵文化財調査報告書81	
	串崎城跡	2004
	下関市埋蔵文化財調査報告書52・53・64・67・80	
徳島県	下関市立考古博物館	
	下関市立考古博物館年報9 - 平成15年度 -	2004
	定住のはじまり	2004
	防府市教育委員会	
	防府市有形文化財調査報告 松崎地区(1)	2004
	防府市文化財調査報告13	
	山口市教育委員会	
	山口市埋蔵文化財年報 3 平成14年度	2004
	和田遺跡	2003
	山口市埋蔵文化財調査報告第87集	
	中込田遺跡Ⅱ	2004
	山口市埋蔵文化財調査報告第88集	
	山口大学埋蔵文化財資料館	
	山口大学構内遺跡調査研究年報XⅥ・XⅦ	2004
	徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター	
	石井城ノ内遺跡 石井曾我団地地区	2003
	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第46集	
	大柿遺跡Ⅱ	2004
	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第48集	
	町口遺跡	2004
	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第49集	
	東原遺跡	2004
	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第50集	
	徳島県埋蔵文化財センター年報 V o l . 14	2003
	徳島県埋蔵文化財センター年報 V o l . 15	2004

	徳島市教育委員会	
	徳島市埋蔵文化財発掘調査概要12	2002
	徳島市埋蔵文化財発掘調査概要13	2003
	阿波国府跡発掘調査報告書 2002.3	2002
香川県	阿波国府跡発掘調査報告書 2003.3	2003
	国分寺町教育委員会	
	堂山城跡主要部地形測量調査報告書	2005
	平成16年度国庫補助事業報告書	
高松市教育委員会	高松市内遺跡発掘調査概報	2004
	高松市埋蔵文化財調査報告第72集	
	奥の坊遺跡群Ⅱ	2004
	高松市埋蔵文化財調査報告第67集	
	宗高坊城遺跡	2004
	高松市埋蔵文化財調査報告第68集	
	天満・宮西遺跡、上西原遺跡	2004
	高松市埋蔵文化財調査報告第69集	
	東中筋遺跡	2004
	高松市埋蔵文化財調査報告第70集	
	久本古墳	2004
	高松市埋蔵文化財調査報告第71集	
	四国横断自動車道関連特別用地対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2004
	高松市埋蔵文化財調査報告第74集	
	漆谷古墳群	2004
	高松市埋蔵文化財調査報告第75集	
	高松城跡（東町奉行所跡）	2005
	高松市埋蔵文化財調査報告書第83集	
	高松市教育委員会・四電ビジネス㈱	
	高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）	2004
	高松市埋蔵文化財調査報告第73集	
丸亀市教育委員会	丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書	2004
	平成15年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書	
丸亀市教育委員会・財元興寺文化財研究所	中の池遺跡	2004
	中の池遺跡 - 第11次調査 -	2005
	総合運動公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	
愛媛県	今治市教育委員会	
	郷新屋敷佛柳遺跡	2004
	今治市埋蔵文化財調査報告書 第71集	
	高橋山崎遺跡Ⅰ - 第1～8調査区 -	2004
	今治市埋蔵文化財調査報告書 第72集	
	市内遺跡試掘確認調査報告書 XⅦ	2004
	今治市埋蔵文化財調査報告書 第73集	
	市内遺跡試掘確認調査報告書 XⅧ	2004
	今治市埋蔵文化財調査報告書 第74集	
	広見町教育委員会	
	旧等妙寺跡	2004
	松野町教育委員会	
	国指定史跡 河後森城跡環境整備事業概要報告書Ⅲ - 西部ゾーン -	2004
	松野町文化財調査報告第12集	
愛媛大学埋蔵文化財調査室	愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 2001・2002年度	2004
	愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XⅠ	
	文京遺跡Ⅲ	2004
	愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XⅡ	
財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター	星原市東遺跡・星原市遺跡	2004
	伊予神社Ⅱ遺跡	2004
	道後鷲谷遺跡2次	2004
	矢田八反坪遺跡3次	2004
	南斎院土居北遺跡・南江戸園目遺跡（2次調査）	2004
	善応寺畦地遺跡・大相院遺跡・別府遺跡	2004
	愛比売 平成14年度 年報	2003
	松山市教育委員会	
	来住・久米地区の遺跡Ⅳ	2004
	松山市文化財調査報告書100	

松山市教育委員会・財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	
北久米遺跡2次調査地・南久米町遺跡4次調査地	2004
松山市文化財調査報告書96	
東山古墳群Ⅱ	2004
松山市文化財調査報告書97	
北久米遺跡	2004
松山市文化財調査報告書98	
桑原遺跡5次調査地	2004
松山市文化財調査報告書99	
北久米浄蓮寺遺跡	1994
松山市文化財調査報告書42	
東山古墳群	1994
松山市文化財調査報告書41	
福音小学校構内遺跡	1995
松山市文化財調査報告書50	
来住・久米地区の遺跡Ⅴ	2004
松山市文化財調査報告書101	
松山市埋蔵文化財調査年報15 -平成14年度-	2004
福岡県 朝倉町教育委員会	
長安寺廃寺跡宮地獄古墳群	2002
朝倉町文化財調査報告書 第10集	
甘木市教育委員会	
三奈木久保田遺跡	2002
甘木市文化財調査報告書 第55集	
秋月城下町遺跡Ⅰ	2002
甘木市文化財調査報告書 第56集	
秋月城下町遺跡2	2003
甘木市文化財調査報告書 第57集	
柿原堂ノ前遺跡・三奈木段ノ裏遺跡	2003
甘木市文化財調査報告書 第58集	
頓田立野遺跡Ⅰ	2003
甘木市文化財調査報告書 第59集	
旧三奈木黒田家庭園	2003
甘木市文化財調査報告書 第60集	
屋永西原遺跡Ⅲ	2003
甘木市文化財調査報告書 第61集	
甘木市文化財年報（平成14年度）	2004
堤上原遺跡	2004
甘木市文化財調査報告書 第62集	
三奈木野口遺跡	2004
甘木市文化財調査報告書 第63集	
自然ハンドブック 野鳥	2004
甘木市文化財年報（平成13年度）	2003
大野城市教育委員会	
大野城市の文化財<第35集 大野城市の民具②>	2003
大野城市の文化財<第36集 大野城市の遺跡⑧>	
松葉園遺跡Ⅰ	2003
大野城市文化財調査報告書 第59集	
牛頭本堂遺跡群Ⅰ	2003
大野城市文化財調査報告書 第61集	
牛頭野添遺跡群Ⅰ	2004
大野城市文化財調査報告書 第62集	
御笠の森遺跡Ⅰ	2004
大野城市文化財調査報告書 第63集	
牛頭本堂遺跡群Ⅱ	2004
大野城市文化財調査報告書 第64集	
大牟田市教育委員会	
羽山遺跡Ⅲ	2003
大牟田市文化財調査報告書 第57集	
片平窯跡	2004
大牟田市文化財調査報告書 第58集	
小郡市教育委員会	
三沢北中尾遺跡6・7	2003
小郡市文化財調査報告書 第180集	
三沢北中尾遺跡Ⅰ地点 環濠編	2003
小郡市文化財調査報告書 第181集	
井上南内原遺跡2	2004

小郡市文化財調査報告書 第186集	
大保龍頭遺跡 6	2004
小郡市文化財調査報告書 第187集	
埋蔵文化財調査報告書 4	2004
小郡市文化財調査報告書 第188集	
力武前畑遺跡 2	2004
小郡市文化財調査報告書 第189集	
井上小松山遺跡 1・2	2004
小郡市文化財調査報告書 第191集	
大板井遺跡 XⅥ・XⅦ	2004
小郡市文化財調査報告書 第192集	
上岩田遺跡11・12区	2004
小郡市文化財調査報告書 第193集	
干潟二ツ塚遺跡	2004
小郡市文化財調査報告書 第195集	
力武内畑遺跡 7	2004
小郡市文化財調査報告書 第190集	
三沢蓬ヶ浦遺跡 3 地点	2004
小郡市文化財調査報告書 第194集	
春日市教育委員会	
御陵遺跡	2004
春日市文化財調査報告書 第36集	
仁王手遺跡 A地点	2004
春日市文化財調査報告書 第37集	
大南遺跡 B地点	2004
春日市文化財調査報告書 第38集	
春日市埋蔵文化財年報11 平成14年度	2004
北九州市教育委員会	
大手町遺跡第4 地点	2004
北九州市文化財調査報告書 第101集	
北方遺跡（第8次調査）	2004
北九州市文化財調査報告書 第102集	
猿喰新田潮抜き穴跡	2004
北九州市文化財調査報告書 第103集	
北九州市立自然史・歴史博物館	
北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B類歴史第1号	2004
九州大学総合研究博物館	
BULLETIN of THE KYUSYU UNIVERSITY MUSEUM Nunber2	2004
九州大学総合研究博物館研究報告 第2号 平成16年	
九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室	
対馬吉田遺跡	2004
九州歴史資料館	
九州歴史資料館年報 平成15年度	2004
九州歴史資料館 研究論集29	2004
大宰府へくのが動くものが動く	2004
久留米市教育委員会	
碓遺跡Ⅱ	2003
久留米市文化財調査報告書 第196集	
二本木遺跡群Ⅰ	2004
久留米市文化財調査報告書 第197集	
久留米市埋蔵文化財調査集報Ⅵ	2004
久留米市文化財調査報告書 第198集	
平成15年度 久留米市内遺跡群	2004
久留米市文化財調査報告書 第199集	
筑後国府跡	2004
久留米市文化財調査報告書 第200集	
日渡遺跡群Ⅱ	2004
久留米市文化財調査報告書 第201集	
円形野外講堂	2004
久留米市文化財調査報告書 第202集	
財団法人 北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	
寺町遺跡 3	2004
北九州市埋蔵文化財調査報告書 第306集	
蒲生寺中遺跡 2	2004
北九州市埋蔵文化財調査報告書 第307集	
蒲生大畔遺跡 1	2004
北九州市埋蔵文化財調査報告書 第308集	

横代丸ノ内遺跡 2 次 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第309集	2004
横代西ヶ迫遺跡 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第310集	2004
長野コイトヲ遺跡 3 次 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第311集	2004
長野尾登遺跡第 2 地点J地点・長野角屋敷遺跡第 6 地点 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第312集	2004
小倉城代米御蔵跡Ⅳ 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第313集	2004
小倉城新馬場跡 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第314集	2004
三郎丸遺跡第 1 地点 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第315集	2004
上葛原遺跡 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第316集	2004
朽網南塚遺跡 3 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第317集	2004
朽網南塚遺跡 4 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第318集	2004
宗林寺墓地跡 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第319集	2004
真光寺墓地跡 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第320集	2004
中貫ミカンキ遺跡 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第321集	2004
長野尾登遺跡第 3 地点 3 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第322集	2004
丸ノ内遺跡(第 3 次)・長野コイトヲ遺跡(第 4 次)・長野尾登遺跡 (第 2 地点 I 区、第 3 地点 F 区) 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第323集	2004
上清水遺跡Ⅶ区・カキ遺跡第 3 地点 北九州市埋蔵文化財調査報告書第324集	2004
諏訪遺跡 北九州市埋蔵文化財調査報告書第325集	2004
埋蔵文化財調査室年報20 平成14年度	2004
<hr/>	
新吉富村教育委員会 宇野地区遺跡群Ⅵ 新吉富村文化財調査報告書 第17集	2004
<hr/>	
第19回国民文化祭・ふくおか2004筑後市実行委員会 太鼓未来へ (CD-ROM) 全国指定無形重要文化財太鼓団体調査	2004
<hr/>	
田川市教育委員会 猫迫 1 号墳 田川市文化財調査報告書 第11集	2004
<hr/>	
大宰府市教育委員会 大宰府条坊跡22 太宰府市の文化財第69集	2004
大宰府条坊跡24 太宰府市の文化財第71集	2004
太宰府・佐野地区遺跡群17 太宰府市の文化財第72集	2004
太宰府・国分地区遺跡群 1 太宰府市の文化財第73集	2004
太宰府・佐野地区遺跡群18 太宰府市の文化財第74集	2004
大宰府条坊跡25 太宰府市の文化財第75集	2004
<hr/>	
筑後市教育委員会 中折地内栗遺跡 筑後市文化財報告書 第54集	2004
前津柳ノ内遺跡 筑後市文化財報告書 第55集	2004
山ノ井南野遺跡 筑後市文化財報告書 第56集	2004
筑後西部第 2 地区遺跡群(Ⅷ) 筑後市文化財報告書 第57集	2004
筑後東部地区遺跡群Ⅷ	2004

筑後市文化財報告書 第58集 CD-ROM筑後市文化財分布地図	2004
筑紫野市教育委員会	
若江天神社前遺跡	2004
筑紫野市文化財調査報告書 第78集 原田第1・2・40・41号墓地 中巻	2004
筑紫野市文化財調査報告書 第79集	
筑穂町教育委員会	
内野地区遺跡群Ⅰ 土取遺跡・板田遺跡・宮田遺跡 筑穂町文化財調査報告書 第8集	2004
津屋崎町教育委員会	
新原・奴山古墳群Ⅱ 津屋崎町文化財調査報告書 第17集	2001
奴山伏原遺跡 津屋崎町文化財調査報告書 第18集	2002
津屋崎町内遺跡 津屋崎町文化財調査報告書 第19集	2002
津屋崎古墳群Ⅰ 津屋崎町文化財調査報告書 第20集	2004
在自西ノ後遺跡Ⅱ 津屋崎町文化財調査報告書 第21集	2004
那珂川町教育委員会	
中原・ヒナタ遺跡群Ⅲ 那珂川町文化財調査報告書 第62集	2003
観音山古墳群Ⅵ 那珂川町文化財調査報告書 第63集	2003
二丈町教育委員会	
実田3号墳 二丈町文化財調査報告書 第23集	2000
森田遺跡 二丈町文化財調査報告書 第24集	2000
大坪遺跡Ⅲ 二丈町文化財調査報告書 第25集	2000
才良木遺跡 二丈町文化財調査報告書 第26集	2001
石崎 曲り田遺跡(上) 二丈町文化財調査報告書 第27集	2004
吉井地区遺跡群Ⅰ 二丈町文化財調査報告書 第28集	2002
二丈中校内遺跡Ⅱ 二丈町文化財調査報告書 第29集	2003
吉井地区遺跡群Ⅱ 二丈町文化財調査報告書 第30集	2003
正覚寺境内遺跡 二丈町文化財調査報告書 第31集	2004
吉井地区遺跡群Ⅲ 二丈町文化財調査報告書 第32集	2004
深江 川祭り 二丈町民俗文化財調査報告書 第1集	2004
西光寺址とひゃくまんべん 二丈町民俗文化財調査報告書 第2集	2004
直方市教育委員会	
圓徳寺遺跡 直方市文化財調査報告書 第29集	2004
感田 野添・湯ノ浦遺跡 直方市文化財調査報告書 第30集	2004
福岡県教育委員会	
堂畑遺跡Ⅱ 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第20集	2004
大の遺跡Ⅱ 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第21集	2004
東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -1-	2004
秋月街道 福岡県文化財調査報告書 第195集	2004
福岡市教育委員会	
平成14年度 福岡市埋蔵文化財センター年報 第22号	2004
福岡市埋蔵文化財センター年報 平成15年度 第23号	2004

博多87 - 博多遺跡郡第124次調査の報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第758集	2004
梅林遺跡 第4次調査 - 一般国道202号福岡外環状道路、及び福岡市営地下鉄3号線建設に伴う発掘調査報告5 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第781集	2003
比恵33 - 比恵遺跡第81次調査報告書 - 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書 第782集	2004
飯倉B遺跡 - 飯倉B遺跡第2次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第785集	2004
井尻B遺跡12 市道御供所井尻線建設に伴う発掘調査報告書Ⅱ 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第787集	2004
井尻B遺跡13 - 井尻B遺跡群第21次調査の報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第788集	2004
梅林遺跡 第5次調査 - 一般国道202号福岡外環状道路、及び福岡市営地下鉄3号線建設に伴う発掘調査報告6 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第789集	2004
梅林遺跡7 第7次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第790集	2004
大橋E遺跡6 第8・9次調査報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第791集	2004
下月隈C遺跡Ⅳ - 福岡空港周辺整備に伴う下月隈C遺跡第5次発掘調査報告 - 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書 第795集	2004
下山門乙女田3 - 下山門乙女田遺跡第3次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第796集	2004
次郎九高石1 - 次郎九高石遺跡第5次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第797集	2004
高畑遺跡 外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書22 第19次調査報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第799集	2004
那珂35 - 那珂遺跡群第85次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第801集	2004
那珂36 - 那珂遺跡群第86次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第802集	2004
七隈古墳群 外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書23 - C2号墳調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第803集	2004
野芥4 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第804集	2004
博多97 - 博多遺跡群第138次調査報告書 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第806集	2004
博多98 - 博多遺跡群第139次調査報告書 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第807集	2004
博多99 - 博多遺跡群第140次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第808集	2004
博多100 - 博多遺跡群第141次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第809集	2004
箱崎17 - 箱崎遺跡第22次調査報告(1) - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第811集	2004
箱崎18 - 箱崎遺跡第27次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第812集	2004
箱崎21 - 箱崎遺跡第26次調査報告(1) - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第815集	2004
橋本一丁目田遺跡4 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第816集	2004
羽根戸原C遺跡群Ⅳ - 羽根戸原C遺跡第5次調査 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第817集	2004
原遺跡11 - 原遺跡第22次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第818集	2004
樋井川B - 樋井川B遺跡群第1次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第819集	2004
比恵34 - 比恵遺跡群第74次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第820集	2004
比恵35 - 比恵遺跡群第79次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第821集	2004
比恵36 - 比恵遺跡群第80次調査報告書 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第822集	2004
東油山古墳群 - 東油山古墳E群第1次調査 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第823集	2004
藤崎遺跡15 - 藤崎遺跡32次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第824集	2004
三宅庵寺2 - 三宅A遺跡・三宅庵寺推定地の第2次調査報告 -	2004

	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第826集	
	席田大谷遺跡群5 - 空港線関係埋蔵文化財発掘調査報告書3 -	2004
	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第828集	
	元岡・桑原遺跡群3 - 第3、4、8、11次調査の報告 -	2004
	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第829集	
	弥永原遺跡5 - 第6次調査報告 -	2004
	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第830集	
	比恵遺跡群37 - 第82次調査報告 -	2004
	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第832集	
	福岡市埋蔵文化財年報VOL. 17 - 平成14(2002)年度版 -	2004
<hr/>		
	福岡大学人文学部考古学研究室	
	長崎県・景華園遺跡の研究、福岡県京都郡における二古墳の調査、佐賀県・東十郎古墳群の研究	2004
	福岡大学考古学研究室研究調査報告 第3冊	
<hr/>		
	福岡町教育委員会	
	蓮島遺跡	2004
	福岡町文化財調査報告書 第16集	
	手光於緑遺跡	2004
	福岡町文化財調査報告書 第17集	
<hr/>		
	豊前市教育委員会	
	河原田塔田遺跡(河原田遺跡群Ⅲ)	2004
	豊前市文化財報告書 第19集	
<hr/>		
	前原市教育委員会	
	三雲・井原遺跡Ⅳ	2004
	前原市文化財調査報告書 第86集	
<hr/>		
	三輪町教育委員会	
	山隈太刀洗遺跡Ⅱ・小鷹城跡	2004
	三輪町文化財調査報告書 第12集	
<hr/>		
	宗像市教育委員会	
	曲田代	2004
	宗像市文化財調査報告書 第54集	
	武丸初瀬	2004
	宗像市文化財調査報告書 第55集	
	大井平野	2004
	宗像市文化財調査報告書 第56集	
	光岡長尾Ⅰ	2004
	宗像市文化財調査報告書 第57集	
<hr/>		
	豊津町教育委員会	
	豊前国府跡御所地区	2003
	豊津町文化財調査報告書 第30集	
<hr/>		
佐賀県	唐津市教育委員会	
	唐津市内遺跡確認調査20	2004
	唐津市文化財調査報告書 第112集	
	天神ノ元遺跡(2)	2004
	唐津市文化財調査報告書 第113集	
	天神ノ元遺跡(3)	2004
	唐津市文化財調査報告書 第114集	
	枝去木山中遺跡(Ⅲ)	2004
	唐津市文化財調査報告書 第115集	
	枝去木山中遺跡(Ⅳ)	2004
	唐津市文化財調査報告書 第116集	
	徳蔵谷遺跡(5)	2004
	唐津市文化財調査報告書 第117集	
	菜畑内田遺跡(4)	2004
	唐津市文化財調査報告書 第118集	
<hr/>		
	玄海町教育委員会	
	高江城跡調査概報	2003
	玄海町文化財調査報告書第10集	
<hr/>		
	佐賀市教育委員会	
	上九郎遺跡・薬師九五本柳遺跡	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第148集	
	佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 -2001年度-	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第149集	
	潤五本松遺跡・石土井遺跡・上九郎遺跡	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第151集	
	徳永遺跡8区	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第143集	
	徳永遺跡14区	2004

	佐賀市文化財調査報告書 第144集 徳永遺跡15・18区	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第145集 上和泉遺跡7区	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第146集 徳永遺跡22区	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第147集 牛島遺跡1～3区、5区・牛島二本松2区遺跡	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第152集 平尾二本杉遺跡Ⅲ	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第153集 平尾二本杉遺跡Ⅳ	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第154集 牛島遺跡4区・牛島二本松1区遺跡	2004
	佐賀市文化財調査報告書 第155集	
鎮西町教育委員会		
	前田利家陣跡	2004
	鎮西町文化財調査報告書 第22集	
鳥栖市教育委員会		
	横井古墳群	2004
	鳥栖市文化財調査報告書 第72集 西浦遺跡	2004
	鳥栖市文化財調査報告書 第71集 ヒャーガンサン古墳復原整備事業報告書	2004
	鳥栖の中世Ⅴ	2004
山内町教育委員会		
	阿捨利遺跡	2005
	山内町文化財調査報告書 第1集	
大和町教育委員会		
	納所遺跡	1996
	大和町文化財調査報告書 第36集 北原遺跡・久池井二本松遺跡	1996
	大和町文化財調査報告書 第37集 久池井六本杉遺跡2	1996
	大和町文化財調査報告書 第38集 肥前国庁跡 - 遺構編 -	2000
	大和町文化財調査報告書 第55集 国分遺跡	2001
	大和町文化財調査報告書 第63集 肥前國春日山高城禪寺	2002
	大和町文化財調査報告書 第65集	
長崎県 大村市教育委員会		
	富の原遺跡	2004
	大村市文化財調査報告書第26集 黒丸遺跡ほか発掘調査概報 Vol.4	2004
	大村市文化財調査報告書 第27集	
鷹島町教育委員会		
	鷹島海底遺跡X	2004
	鷹島町文化財調査報告書 第9集	
南有馬町教育委員会		
	原城跡Ⅱ	2004
	南有馬町文化財調査報告書 第3集	
大分県 天瀬町教育委員会		
	亀石山遺跡2	2005
宇佐市教育委員会		
	小部遺跡	2004
	宇佐地区遺跡群発掘調査報告書 I	
大分県教育委員会		
	長湯横穴墓群 桑畑遺跡	2004
	大分県文化財調査報告書 第171輯 大分県文化財一覧	2004
	大分県文化財年報12 平成14年度版	2004
	久末京徳遺跡	2004
	大分県文化財調査報告書 第162輯 上野町遺跡・顕徳寺遺跡	2004
	大分県文化財調査報告書 第164輯 黒岩遺跡	2004

大分県文化財調査報告書 第165輯 東大道遺跡（A地区）	2004
大分県文化財調査報告書第166輯 榎牟礼城跡 - 角木中世集落跡 -	2004
大分県文化財調査報告書第167輯 玉沢地区条理跡	2004
大分県文化財調査報告書第168輯 杵築城下町遺跡	2004
大分県文化財調査報告書第169輯 大分の中世城館 第4集総集編	2004
大分県文化財調査報告書第170輯 上門手遺跡	2004
大分県文化財調査報告書第172輯	
玖珠町教育委員会	
平原遺跡	2004
玖珠町文化財調査報告書 第13集	
九重町教育委員会	
粟野遺跡	2003
九重町文化財調査報告 第26輯	
九重町歴史資料館年報	2004
三光村教育委員会	
三光村の遺跡	2004
三光村文化財調査報告書（第5集） 佐知久保畑遺跡	
大分県立歴史博物館	
大分県立歴史博物館年報2003	2004
久住町教育委員会	
屋根遺跡・上七里田遺跡・大塚遺跡	2003
脇遺跡	2003
老野遺跡	2004
久住町の文化財 第2版	2004
佐伯市教育委員会	
佐伯市指定有形文化財 旧坂本家住宅保存修理工事報告書	2004
竹田市教育委員会	
平成13年度 史跡岡城跡XⅦ	2002
史跡岡城跡保存修理事業報告書	
平成13・14年度 史跡岡城跡XⅧ	2003
史跡岡城跡保存修理事業（災害復旧）報告書	
平成14年度 史跡岡城跡XⅨ	2003
史跡岡城跡保存修理事業報告書	
竹田地区遺跡群・城下町遺跡群V	2003
平成14年度 史跡岡城跡 保存整備基本設計報告書	2004
中津市教育委員会	
諸田遺跡岩丸地区	2003
中津市文化財報告 第31集	
中津城下町遺跡 殿町地区	2004
中津市文化財報告 第32集	
中津城下町遺跡・殿町奥平孫次郎屋敷跡	2003
中津市文化財報告 第33集	
大池南遺跡 沖代地区条里跡 矢永地区・五唯地区 中津城本丸南西石垣(Ⅲ)	2004
中津市文化財報告 第34集	
野津原町教育委員会	
入蔵遺跡	2004
野津原町文化財調査報告書 第3集	
下原遺跡	2003
日田市教育委員会	
吹上Ⅰ	2003
日田市埋蔵文化財調査報告書 第42集	
三和教田遺跡Ⅰ地点	2003
日田市埋蔵文化財調査報告書 第44集	
大肥祝原遺跡・大肥上村遺跡	2003
日田市埋蔵文化財調査報告書 第45集	
日田条理四反畑地区	2003
日田市埋蔵文化財調査報告書 第46集	
平成14年度 日田市埋蔵文化財年報	2003
日田条理大原地区	2004
日田市埋蔵文化財調査報告書 第47集	
大肥吉竹遺跡	2004

	日田市埋蔵文化財調査報告書 第48集	
	石ヶ追遺跡	2004
	日田市埋蔵文化財調査報告書 第49集	
	大肥遺跡Ⅰ	
	日田市埋蔵文化財調査報告書 第50集	
	本村遺跡3次	2004
	日田市埋蔵文化財調査報告書 第51集	
	吹上Ⅱ	2004
	日田市埋蔵文化財調査報告書 第52集	
	三重町教育委員会	
	三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ	2004
熊本県	鹿本郡鹿央町教育委員会	
	天神免遺跡	2004
	広諏訪原遺跡	2004
	町民テニスコート新設工事及び農村総合整備事業農道7号工事に伴う埋蔵文化財調査報告書	
	玉名郡三加和町教育委員会	
	豊前街道「腹切坂」	2004
	三加和町文化財調査報告 第20集	
	熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館	
	鞠智城跡	2004
	熊本市教育委員会	
	熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 -平成15年度-	2004
	大江遺跡群Ⅴ -大江遺跡群第69次調査区発掘調査報告書-	2004
	池辺寺跡Ⅵ -平成14年度発掘調査報告書-	2004
	神水遺跡Ⅵ -第20次・第28次調査区発掘調査報告書-	2004
	扇田遺跡 -第1次調査区発掘調査報告書-	2004
	熊本大学文学部考古学研究室	
	考古学研究室報告 第39集	2004
	熊本大学埋蔵文化財調査室	
	熊本大学埋蔵文化財調査室年報 2003年度	2004
	玉名市教育委員会	
	東南大門遺跡 市営住宅南大門団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	2000
	玉名市文化財調査報告第8集	
	岩崎城跡	2003
	玉名市文化財調査報告第12集	
	玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ 平成13・14年度の調査	2004
	玉名市文化財調査報告第13集	
	玉名市立歴史博物館こころピア	
	伊倉城跡 -伊倉城跡範囲確認調査報告-	2003
	玉名市立歴史博物館こころピア資料集成第5集	
	南関町教育委員会	
	鷹ノ原城跡Ⅲ (南関城跡)	2004
	南関町文化財調査報告第8集	
	八代市教育委員会	
	八代市の石造物 -石造物悉皆調査報告書-	2000
	八代市文化財調査報告書 第15集	
	若宮官軍幕跡・横手官軍幕跡	2002
	八代市文化財調査報告書 第16集	
	西片町遺跡(園田地区) -送電鉄塔建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅰ-	2002
	八代市文化財調査報告書 第18集	
	古麓城跡 -送電鉄塔建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査Ⅱ-	2002
	八代市文化財調査報告書 第19集	
	八代日記	2003
	八代市文化財調査報告書 第20集	
	平山瓦窯跡 保存整備工事報告書	2003
	八代市文化財調査報告書 第21集	
	宮地年神遺跡 キリシタン寺院跡 宮地池尻遺跡	2003
	八代市文化財調査報告書 第20集	
	八代海干拓施設調査報告書	2004
	八代市文化財調査報告書 第22集	
	田川内第1号古墳 -石室修理報告書-	2004
	八代市文化財調査報告書 第24集	
	木造阿弥陀三尊像修理報告書	2005
	八代市文化財調査報告書 第23集	
	八代市立博物館未来の森ミュージアム	
	松井文庫所蔵古文書調査報告書 八	2004

宮崎県 えびの市教育委員会	
東川北地区遺跡群 本文編・図版編	2005
えびの市埋蔵文化財調査報告書 第41集	
北岡松地区遺跡群 概報Ⅰ	2005
えびの市埋蔵文化財調査報告書 第42集	
清武町教育委員会	
上猪ノ原遺跡-3-・下猪ノ原遺跡	2004
清武町埋蔵文化財調査報告書 第14集	
須田木遺跡	2004
清武町埋蔵文化財調査報告書 第12集	
白ヶ野第1・第4遺跡	2004
清武町埋蔵文化財調査報告書 第13集	
新富町教育委員会	
川床遺跡	1986
宮崎県新富町文化財調査報告書 第5集	
新富町内遺跡発掘調査概要報告書	1991
宮崎県新富町文化財調査報告書 第12集	
八幡上遺跡・七又木遺跡・銀代ヶ迫遺跡	1992
宮崎県新富町文化財調査報告書 第13集	
志戸平遺跡・風早第Ⅰ、第Ⅱ遺跡・奥牟田遺跡・溜水第Ⅱ遺跡	1992
宮崎県新富町文化財調査報告書 第14集	
奥崎遺跡・56号墳・65号墳・弁指下遺跡	1993
宮崎県新富町文化財調査報告書 第15集	
上園遺跡F地区・溜水第2遺跡	1995
宮崎県新富町文化財調査報告書 第18集	
上園遺跡A,B,C地区（Ⅰ）・上園遺跡E地区（Ⅰ）	1996
宮崎県新富町文化財調査報告書 第19集	
平成9年度 町内遺跡発掘調査概要報告書	1998
宮崎県新富町文化財調査報告書 第24集	
町内遺跡15	1999
宮崎県新富町文化財調査報告書 第27集	
町内遺跡16	2000
宮崎県新富町文化財調査報告書 第29集	
祇園原古墳群3	2000
宮崎県新富町文化財調査報告書 第30集	
町内遺跡17	2001
宮崎県新富町文化財調査報告書 第31集	
祇園原古墳群4	2001
宮崎県新富町文化財調査報告書 第32集	
町内遺跡18	2002
宮崎県新富町文化財調査報告書 第33集	
祇園原古墳群5	2002
宮崎県新富町文化財調査報告書 第34集	
百足塚古墳の埴輪 特別展示図録	2002
町内遺跡19	2003
宮崎県新富町文化財調査報告書 第35集	
祇園原古墳群6	2003
宮崎県新富町文化財調査報告書 第36集	
町内遺跡20	2004
宮崎県新富町文化財調査報告書 第38集	
祇園原遺跡・春日遺跡（本文編）	2004
宮崎県新富町文化財調査報告書 第39集	
祇園原古墳群7	2004
宮崎県新富町文化財調査報告書 第40集	
祇園原古墳群8	2005
宮崎県新富町文化財調査報告書 第41集	
町内遺跡21	2005
宮崎県新富町文化財調査報告書 第42集	
延岡市教育委員会	
平成9年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	1998
平成10年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	1999
平成11年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2000
平成12年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2001
延岡城内遺跡Ⅰ	2002
日向延岡新産業都市・都市計画街路本小路通線改良にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書	
平成13年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2002
平成14年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2003

平成15年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2004
日向市教育委員会	
財光寺1号掩体壕	2004
都城教育委員会	
江内谷遺跡	2003
都城文化財調査報告書 第59集	
宮崎県教育委員会	
平成15年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書	2004
西都原171号墳	2004
特別史跡 西都原古墳群発掘調査報告書 第5集	
小林市教育委員会	
永野遺跡	2004
小林市文化財調査報告書第17集	
黒仁田遺跡	2004
小林市文化財調査報告書第18集	
西都市教育委員会	
祇園原地区遺跡	2004
西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第37集	
国分第3遺跡	2004
西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第38集	
都於郡城跡発掘調査概要報告書Ⅲ	2004
西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集	
市内遺跡発掘調査概要報告書Ⅸ	2004
西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第40集	
平成15年度西都原古墳研究所・年報 第20号	2004
高岡町教育委員会	
茶屋原遺跡・久木野遺跡	2004
高岡町埋蔵文化財調査報告書第31集	
永迫第1遺跡	2004
高岡町埋蔵文化財調査報告書第30集	
高岡町内遺跡ⅠⅩ	2004
高岡町埋蔵文化財調査報告書第32集	
穆佐城跡	2004
高岡町埋蔵文化財調査報告書第33集	
西諸県郡高岡町教育委員会	
高原町祇川・狹野の神舞（神事）	2000
高原町文化財調査報告書 第7集	
宇津木遺跡	2004
高原町文化財調査報告書 第12集	
町内遺跡Ⅳ	2004
高原町文化財調査報告書 第13集	
宮崎県埋蔵文化財センター	
西下本庄遺跡	1999
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第15集	
北牛牧第5遺跡・銀座第3A遺跡	2003
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第80集	
豊満大谷遺跡・野添遺跡	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第83集	
西畦原第1遺跡・西畦原第2遺跡D区（鬼界アカホヤ火山灰層上面）	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第82集	
宮田遺跡	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第88集	
宇都第3遺跡・横市中原遺跡	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第85集	
高野原遺跡第5地点	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第89集	
野首第1遺跡	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第86集	
東畦原第3遺跡	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第87集	
池島遺跡	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第84集	
東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅳ	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第91集	
下那珂遺跡	2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第90集	
唐木戸第1遺跡	2004

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第92集	
中山遺跡		2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第93集	
藤山第2遺跡		2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第95集	
三俣城北東曲輪遺跡		2004
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第97集	
竹淵C遺跡		2005
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第96集	
音明寺第2遺跡（第二次調査）		2005
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第94集	
東畦原第2遺跡		2005
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第98集	
山口遺跡第2地点		2005
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第99集	
唐木戸第2遺跡		2005
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第100集	
崩戸遺跡		2005
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第103集	
尾花坂上遺跡		2005
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第101集	
音明寺第2遺跡		2005
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第102集	
牧内第1遺跡（四次調査）		2005
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第104集	
<hr/>		
三股町教育委員会		
三股町内遺跡Ⅳ		2004
三股町文化財報告書 第6集		
<hr/>		
郡城市教育委員会		
横市地区遺跡群		2003
郡城市文化財調査報告書 第60集		
馬渡遺跡		2004
郡城市文化財調査報告書 第62集		
鶴喰遺跡（古墳時代編）		2004
郡城市文化財調査報告書 第61集		
王子原第2遺跡		2004
郡城市文化財調査報告書第66集		
<hr/>		
宮崎県佐土原町教育委員会		
佐土原町内遺跡Ⅶ		2004
佐土原町文化財調査報告書 第27集		
<hr/>		
宮崎県田野町教育委員会		
本野原遺跡一		2004
田野町文化財調査報告書第48集		
黒草第2遺跡		2004
田野町文化財調査報告書第49集		
高野原遺跡B・C区(4)		2004
田野町文化財調査報告書第50集		
本野原遺跡		2004
田野町文化財調査報告書第51集		
<hr/>		
宮崎市教育委員会		
垂水第2遺跡		2002
宮崎市文化財調査報告書 第58集		
史跡 生目古墳群		2004
宮崎市文化財調査報告書 第57集		
池開・江口遺跡		2004
宮崎市文化財調査報告書 第59集		
<hr/>		
鹿児島県 姶良町教育委員会		
姶良町内遺跡詳細分布調査報告書		2004
姶良町埋蔵文化財発掘調査報告書 第9集		
<hr/>		
郡山町教育委員会		
油須木城跡		2004
郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)		
<hr/>		
垂水市教育委員会		
迫田遺跡・森田遺跡		2004
垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書(7)		
<hr/>		
鹿児島県立埋蔵文化財センター		
後迫遺跡		2003

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書66 三角山遺跡群(2)	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書63 下永迫A遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書72 宮尾遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書73 横井竹ノ山遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書67 東郷坂A遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書63 桐木遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書75 東免遺跡・曲迫遺跡・山神遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書64 上ノ平遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書70 フミカキ遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書74 上野城跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書68 大原野遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書69 九養岡遺跡・踊場遺跡・高篠遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書71 中野西遺跡・松山田西遺跡	2004
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書76	
鹿児島市教育委員会	
武遺跡F地点	2004
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書40	
鹿児島市埋蔵文化財確認発掘調査報告書Ⅱ	2004
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書41	
武遺跡E地点	2004
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書42	
鹿児島大学埋蔵文化財調査室	
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報17	2003
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報18	2004
垂水市教育委員会	
柊原貝塚	2005
垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書(8)	

定期刊行物・図録等

石川県	金沢市	
	市史 かなざわ 第10号	2004
	市史 かなざわ 第12号	2004
茨城県	筑波大学歴史・人類学系	
	筑波大学 先史学・考古学研究 第15号	2004
大分県	大分県教育委員会	
	大分の中世城館 別冊総合索引	2004
	大分県立先哲史料館	
	収蔵史料目録1 - 2002.3 -	2002
	収蔵史料目録2 - 2004.3 -	2004
	史料館研究紀要 第9号	2004
	収蔵史料目録 2005.3	2005
	大分県立歴史博物館	
	壁画再現 - 富貴寺大堂壁画の復元 -	2004
	研究紀要5	2004
	平成16年度特別展 南無阿弥陀仏 - 浄土への道 -	
	大分市美術館	
	大分市美術館所蔵品選2	2004
	大分市美術館研究紀要	2004
	南蛮文化の精華	2004
	大分市美術館年報 平成15年度	2004
	杵築市教育委員会	
	杵築市史 本編	2005
	杵築市史 資料編	2005
	佐伯市教育委員会	
	平成16年度 佐伯藩政資料漢籍目録	2004
	野津原町	
	郷土史野津原	1980
	別府大学	
	大分県日田盆地における開発史的総合研究	2001
	別府大学附属博物館・アジア歴史文化研究所	
	つかむ・すくう・たべる 東アジアの《箸と匙》の歴史と文化	
	別府大学附属博物館創立50周年記念 アジア歴史文化研究所 企画展	
	本耶馬溪町教育委員会	
	耶馬溪風物館蔵書目録	
大阪府	堺市埋蔵文化財センター	
	境埋蔵文化財だより	2005
	貝塚市教育委員会	
	貝塚寺内の武士と町人	2004
岡山県	岡山県古代吉備文化財センター	
	所報 吉備 第36号	2004
	所報 吉備 第37号	2004
鹿児島県	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	研究紀要・年報 縄文の森から 第2号	2004
神奈川県	逗子市教育委員会・葉山町教育委員会	
	シンポジウム 前期古墳を考える～長柄・桜山の地から～	2004
岐阜県	タリイピアセンター歴史民俗資料館	
	第29回企画展 むかしと今の環境事情	2003
	第30回企画展 太平記の時代	2003
	第28回企画展 ふるさとの地名	
	土岐市美濃陶磁歴史館	
	織部の流通圏を探る	2004
京都府	財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター	
	京都府埋蔵文化財情報 第91号	2004
	京都府埋蔵文化財情報 第92号	2004
	京都府埋蔵文化財情報 第93号	2004
	京都府埋蔵文化財情報 第94号	2004
	淡交社	
	淡交 平成16年5月号	2004

	同志社大学歴史資料館	
	同志社大学歴史資料館館報 第7号(2003年度)	2004
熊本県	熊本市	
	新熊本市史編さんだより	2004
	熊本市立熊本博物館	
	熊本博物館館報 No16	2004
群馬県	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団	
	研究紀要21	2003
	研究紀要22	2004
佐賀県	玄海町教育委員会	
	松隈家文書目録	2002
	玄海町文化財調査報告書第9集	
滋賀県	滋賀県安土城郭調査研究所	
	研究紀要 第10号	2004
	滋賀県教育委員会	
	岩倉共有文書目録	2004
	安土城・織田信長関連文書調査報告14	
静岡県	財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所	
	設立20周年記念論文集	2004
	青山学院大学文学部史学研究室	
	青山史學	2004
	出光美術館	
	出光美術館 館報129	2004
	財団法人 伝統文化活性化国民協会	
	伝統文化 平成16年初夏 No11	2004
	伝統文化 平成16年秋 No12	2004
	世田谷区立郷土資料館	
	資料館だよりNo41	2004
	資料館だより	2005
	世田谷の歴史と文化－展示ガイドブック－	2005
	東京都埋蔵文化財センター	
	資料目録14	2004
	研究論集X X	2004
	早稲田大学考古学会	
	古代 第114号	2004
	古代 第115号	2004
	古代 第112号	2004
	古代 第116号	2004
	古代 第117号	2004
	(株)文化環境研究所	
	文環研レポート	2004
	Cultivate No23	2004
徳島県	徳島市教育委員会	
	徳島市史 第五巻 民生編・保健衛生編	2003
	徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター	
	徳島県埋蔵文化財センター研究紀要「真朱」第4号	2004
	徳島県立博物館	
	石とくらし	2004
奈良県	財団法人 由良大和古代文化研究協会	
	研究紀要 第8集	2004
	桜井市埋蔵文化財センター	
	平成16年度秋季特別展 城島遺跡	2004
	独立法人文化財研究所・奈良県文化財研究所埋蔵文化財センター	
	埋蔵文化財ニュース114	2004
	埋蔵文化財ニュース115	2004
	埋蔵文化財ニュース116	2004
	埋蔵文化財ニュース117	2004
	奈良県立橿原考古学研究所	
	青陵 第112号	2004
	青陵 第113号	2004
兵庫県	大手前大学史学研究所	
	大手前大学史学研究所紀要 第3号	2003
	大手前大学史学研究所紀要 第4号	2004
福岡県	行橋市歴史資料館・行橋市教育委員会	
	平成16年度企画展 古代の飾り矢 - 豊の国の鉄鏃	2005
	財団法人 北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	
	研究紀要第18号	2004

	七隈史学会（福岡大学文学部歴史学科）	
	七隈史学 第6号	2005
	博物館等建設推進九州会議	
	文明のクロスロード	2003
	模型・レプリカ・復元	
	文明のクロスロード	2004
	病と文化	
	豊前市教育委員会	
	ぶぜんの民謡	2004
	行橋市教育委員会	
	平成16年度秋季特別展 連歌の里ゆくはし	2004
三重県	津市埋蔵文化財センター	
	埋文センターニュース 第20号	2004
宮崎県	新田原古墳群保存会・新富町教育委員会	
	新田原古墳群 案内資料	1999
山口県	下関市立考古博物館	
	研究紀要 第8号	2004
愛媛県	財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター	
	紀要愛媛 第4号	2004
千葉県	千葉市	
	千葉市史	2004
広島県	財団法人 広島市文化財団	
	研究連絡誌Ⅱ 平成14年度	2003



文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって日本建築の重要な要素である斗拱(ますぐみ)のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

(昭和41年5月26日決定)

大分市埋蔵文化財調査年報16

2005

発行日

平成17年12月28日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

大分市荷揚町2番31号

〒870-8504 (097)534-6111

印刷

(株)インタープリンツ

大分市津守563番地の7
